

平成二十四年度山口県文書館古文書実践講座

平成二十五年度古文書解読自主グループ「けやきの会」

山口町人安部氏の

奥州旅日記

—文化二年（一八〇五）山口町人安部四郎右衛門の旅—

あつまにき

みちのく行

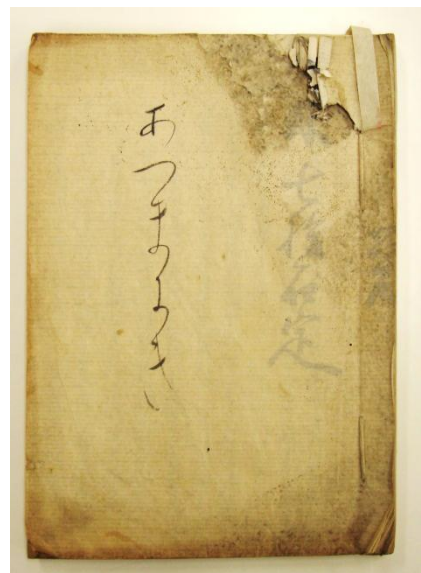
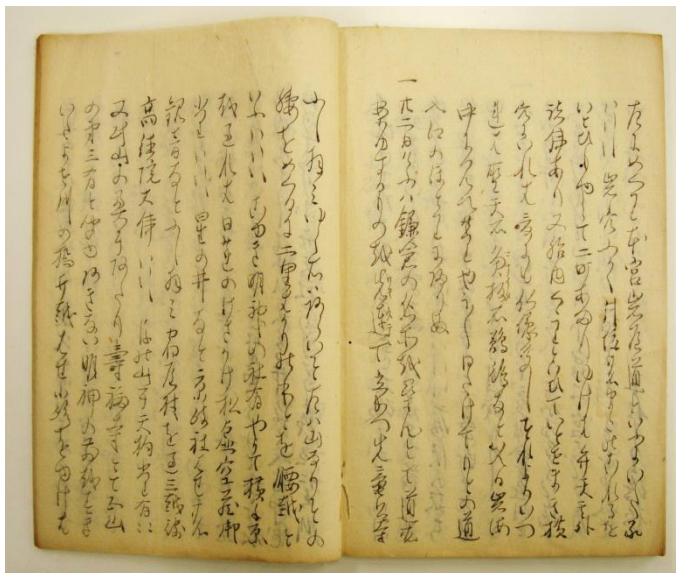
山鳥渡二口越

恋じいるまかい道



第二版

目次	1
解説	2
文化二年山口町人安部四郎右衛門の旅	7
文化二年山口町人安部四郎右衛門の旅	11
行程表	17
凡例	17
あつまにき	18
みちのく行	41
山鳥渡二口越	61
恋じいるまかい道	71



あつまにき

解説

平成24年度山口県文書館古文書実践講座では、山口県文書館が所蔵する山口市安部家文書の中から、文化二年（一八〇五）、山口町人安部四郎右衛門が東北地方等を旅した際の旅日記をテキストとした以下、テキストについて簡単に解説する。

安部家 江戸時代、安部家は、山口の道場門前町に居を構えていた家である。代々商業を営み、山口町の大年寄を務めたほか、屋敷が脇本陣として利用されるなど、江戸時代の山口町を代表する町家であった。現在は同家の門が残るほか、道場門前に架かる橋に「安部橋」の名前が残る。安部四郎右衛門（宗信）は同家の八代目にあたる。「姿生物に厚く、家業大いに興る」という『近世防長人名辞典』。天保二年（一八三一）に六八才で死去している。

安部家文書は山口県文書館に寄贈されており、近世山口町の歴史を知る上で貴重な史料となっている。

旅の概要 文化二年の安部四郎右衛門の旅は、遠く陸奥国をはじめ、全国二十数ヶ国をめぐる大旅行であった。

旅の一行は六月十五日に山口を発し、山陽道、東海道を通って東へ進んだ。途中、伊勢神宮をはじめ著名な寺社に数多く参詣している。東海道を離れ、鳳来寺（三河国）や秋葉山（駿河国）などにも

立ち寄っている。七月十七、十八日には富士登山を行っている。

七月二十三日に江戸到着。八月十日に江戸を発って北へ向かい、八月二十九日に松島に着く。石巻湾周辺に長く滞在し、翌月の閏八月二日には金華山へも渡る。同月九日に出羽国へ入り、十一日この旅で最も北の地である清川（現酒田市清川）に至る。そこから南下し、山形（同十六日）、福島（同二十日）、白河（同二十一日）、日光（同二十五日）、妙義山（九月三日）、善光寺（同六日）、木曽福島（同十一日）、岐阜（同十五日）など各地の名所旧跡、有名寺社を訪れ、九月十九日に京都に到着した。

その後、旅の一行は、それぞれ分かれて、畿内の旅を楽しんだようである。安部四郎右衛門の場合、十月二十三日に京都を発して大和国内の寺社、吉野など訪れ、二十九日には紀伊国へ入っている。その後の詳細は現時点では不明である。

一方、旅の同行者である石川氏の場合は、以後帰国までの経緯がはっきりしている。十月十日まで京都に滞在し各地を見物した後、大和を巡って吉野へ行き、十六日には紀伊国高野山を訪れた。その後、堺へ出て十九日に再び京都へ帰り、二十二日まで京都に滞在した後、二十三日に大坂に着く。大坂には十一月五日まで滞在し、六日、海路帰国の途に着く。十日に讃岐国琴平に立ち寄り、十一月十九日に山口に帰り着き、半年に及んだ旅を終えている（7、16頁に

旅のルート図と行程表を掲載。

旅の一行 旅は、安部四郎右衛門のほか、上田少蔵（堂山）、菅江嶺（長井氏）、山県氏、石川氏の五人で始まった。その後、六月二十日に尾道に立ち寄ると、そこから「鶴屋先生」も同行する。さらに、大坂からは「磯島何かし」も旅に参加している。

江戸到着後、八月一日には江戸両国橋で、上田、長井、磯島と分かれた。その後は山県氏、石川氏と旅を続けたと思われる。

一行のうち、上田少蔵（堂山）は文人として著名な人物である。上田家は山陽道沿いの小郡宰判大道村（現防府市台道）に居を構え、酒造業を営むほか、大庄屋を務めた。『近世防長人名辞典』は上田少蔵について、「頗る字を好みて土を愛し、殊に書画器物の趣味あり、当時文人墨客乃至知名の士来訪する者常に門に絶えず」とある。天保九年（一八三八）に八一才で死去している。

菅江嶺は本名を長井といい、美祢郡長田の住人である。画家として著名な人物で、文政十年（一八二七）には萩藩に一代寺社組として召し抱えられた。好んで富士山を描き、世に「江嶺富士」の名を博したという『近世防長人名辞典』。嘉永五年（一八五二）に九一才で死去している。

この旅は、一九世紀の萩藩領を代表する文人たちが集う旅であったともいえる。

講座テキスト この旅に関しては、安部家文書の中に関連文書が多く残されているが、その中から次の旅日記をテキストに用いた。

①「あつまにき」（安部家文書⁵²⁹⁻¹／堅冊）

文化二年六月十五日の山口出発から、八月九日の江戸出発直前までの期間を記したものの。かな主体で記された文学性の高い旅日記である。旅終了後、安部四郎右衛門が作成したと思われる。

なお本日記には、享和三年（一八〇三）にも旅を思い立ち、いったん出発したものの体調を崩し、旅を中止したことが記されている。

②「みちのく行」（安部家文書⁵²⁵⁻¹／横半帳）

文化二年八月十日の江戸出発から八月三十日の松島出発までが記されている。旅の途中、安部四郎右衛門が記したものとと思われる。寺社の扁額を書き写したもののや、簡単な絵なども挿入されている。

③「山鳥渡二口越」（安部家文書⁵²⁵⁻²／横半帳）

八月三十日の松島出発から閏八月九日の出羽国天童にいたる行程を記した部分と、十月二十三日に京都を発って奈良を訪れ、その後紀伊国にいたる二十九日までの行程が記されている。②の続編に当たるが、閏八月十日から十月二十二日までの記述を欠く。

④「恋じいるまかい道」（安部家文書⁵¹³／横半帳）

この旅日記は、①③とは異なり、安部四郎右衛門が記したものではない。表紙に「石久」とあり、旅に同行した石川氏が記した

旅日記と考えられる。推測だが、旅の終了後、安部氏が①「あつまにき」編集のために参考資料として借り受け、そのまま安部家に伝来したものではないだろうか。内容は、六月十五日の山口出発から、九月十九日の京都到着までが記されている。風景を描いた簡単な絵も散見される。さらに、この日記の後ろには別の日記が括り付けられている。この日記には、十月十日から十一月十九日に山口に帰着するまでの行程が記されている。

24年度実践講座では閏八月九日条まで解説し、残りの部分は、25年度、古文書解読自主グループ「けやきの会」が解読した。

実践講座受講生

講座では、七名ずつ三班に分かれ右のテキストを解説した。期間は平成24年5月12日より同25年2月9日まで計10回。

各班のメンバーおよび担当テキストは左記のとおり（順不同）。

〈一班〉テキスト「あつまにき」

田邑郁代・井上美登里・倉田輝雄・齋藤美穂子・金子與道・山本公吉・上田蕃穂

〈二班〉テキスト「みちのく行」「山鳥渡二口越」

中村睦美・山根壽平・森重由祁子・阿部和正・石田雅司・内田明美・山本節子

〈三班〉テキスト「恋じいるまかい道」

森近冴子・上原忠夫・松永恵子・三好能子・安田和幸・久保田有香・小泉和夫

〈サポート〉山崎一郎・山田稔・吉積久年（山口県文書館）

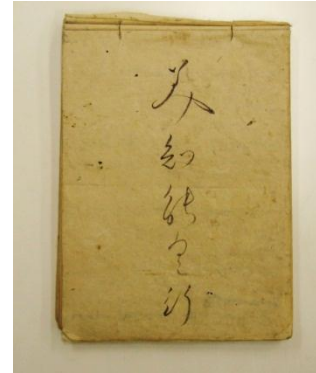
古文書解読自主グループ「けやきの会」

「恋じいるまかい道」は、長い記録であるため、平成24年度内にすべてを解読することが叶わなかった。そこで残り部分は、平成25年度、講座卒業生を中心に結成された古文書解読自主グループ「けやきの会」によつて解読が進められ、最後まで解読し終えることができた。期間は、平成25年4月27日より同26年2月13日まで計11回。

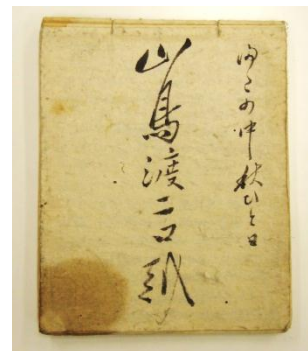
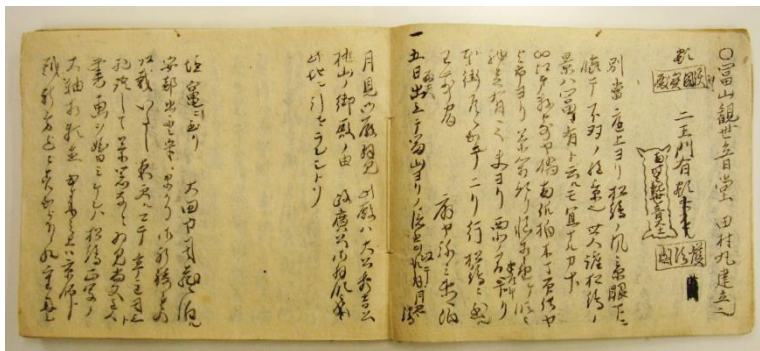
会のメンバーは左記のとおり。

久保田有香・森重由祁子・三好能子・上田蕃穂・山本節子・井本澄江・高田美智子

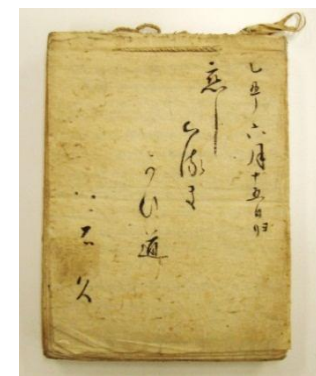
〈サポート〉山崎一郎・山本明史・吉積久年（山口県文書館）



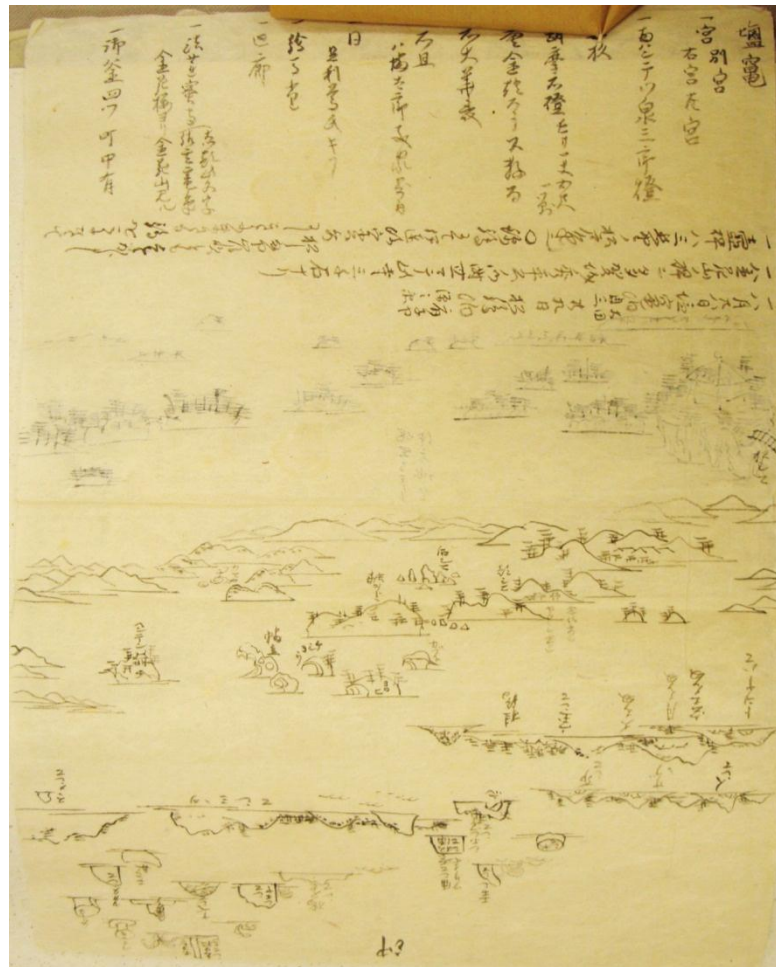
みちのく行



山鳥渡二口越



恋じいるまかい道



陸奥国塩竈の図 (安部家文書 516)

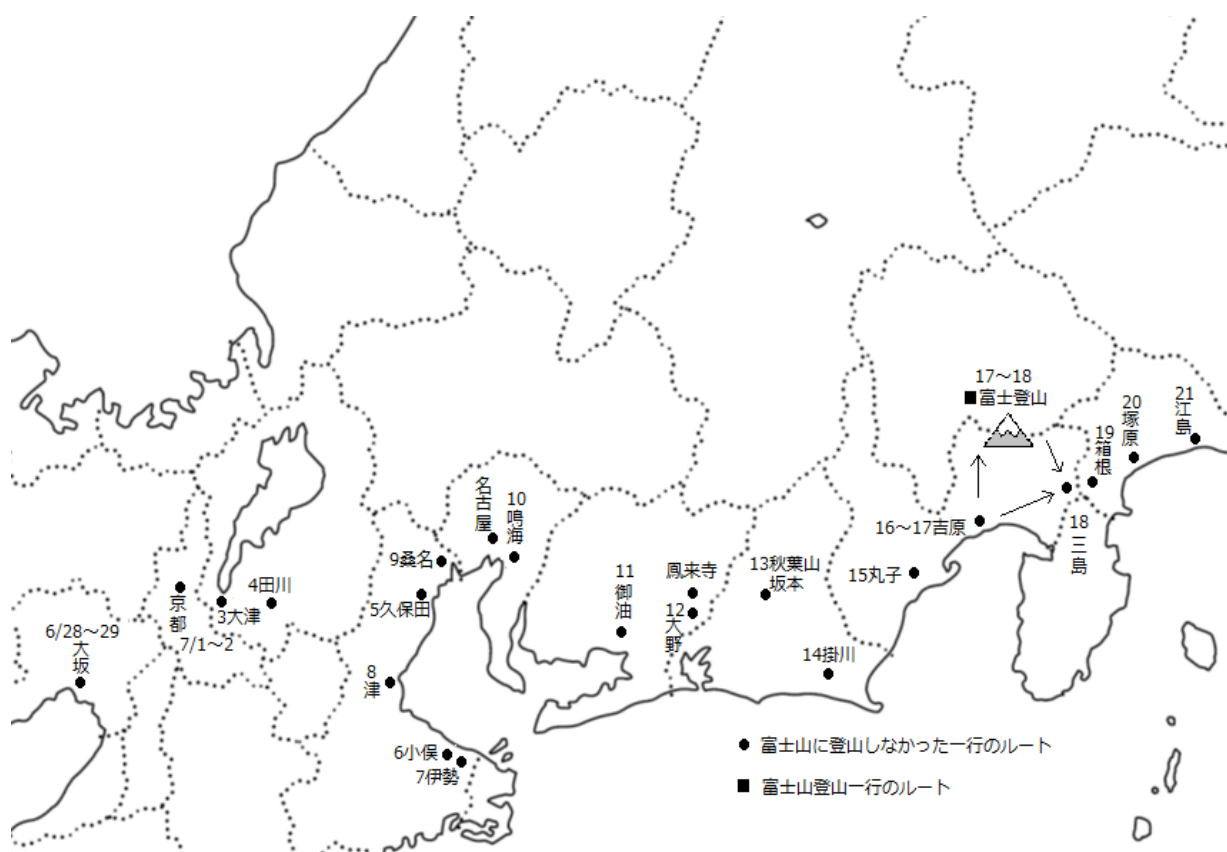


陸奥国宮城郡八幡村（現仙台市）の「沖石」の図 (安部家文書 516)

文化2年(1805)山口町人安部四郎右衛門の旅 ルート図



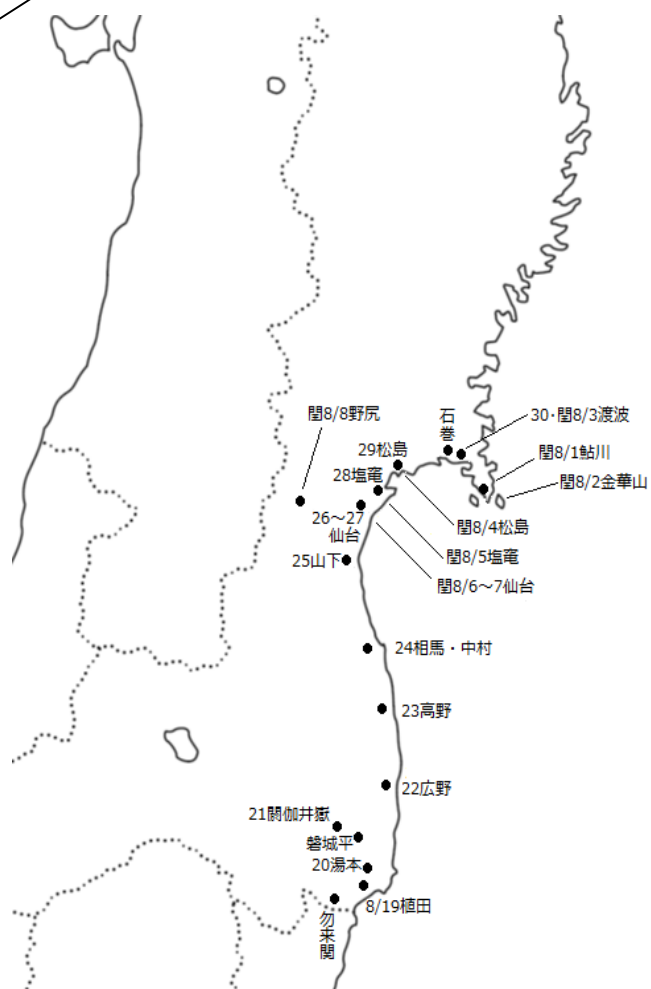
(I)文化2年(1805)6月15日～26日



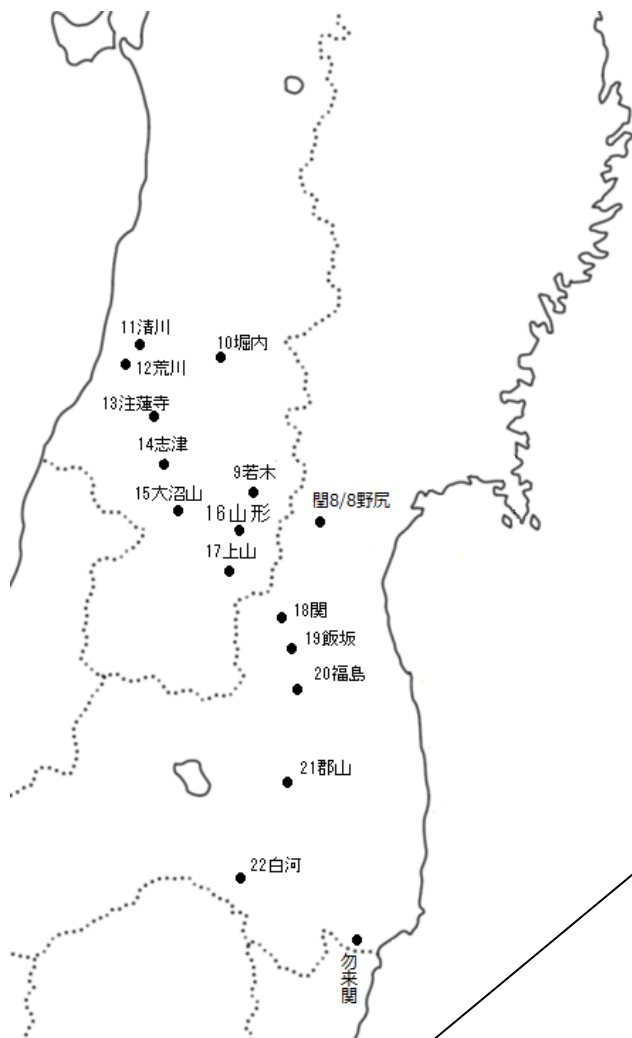
(Ⅱ)文化2年(1805)6月28日～7月21日



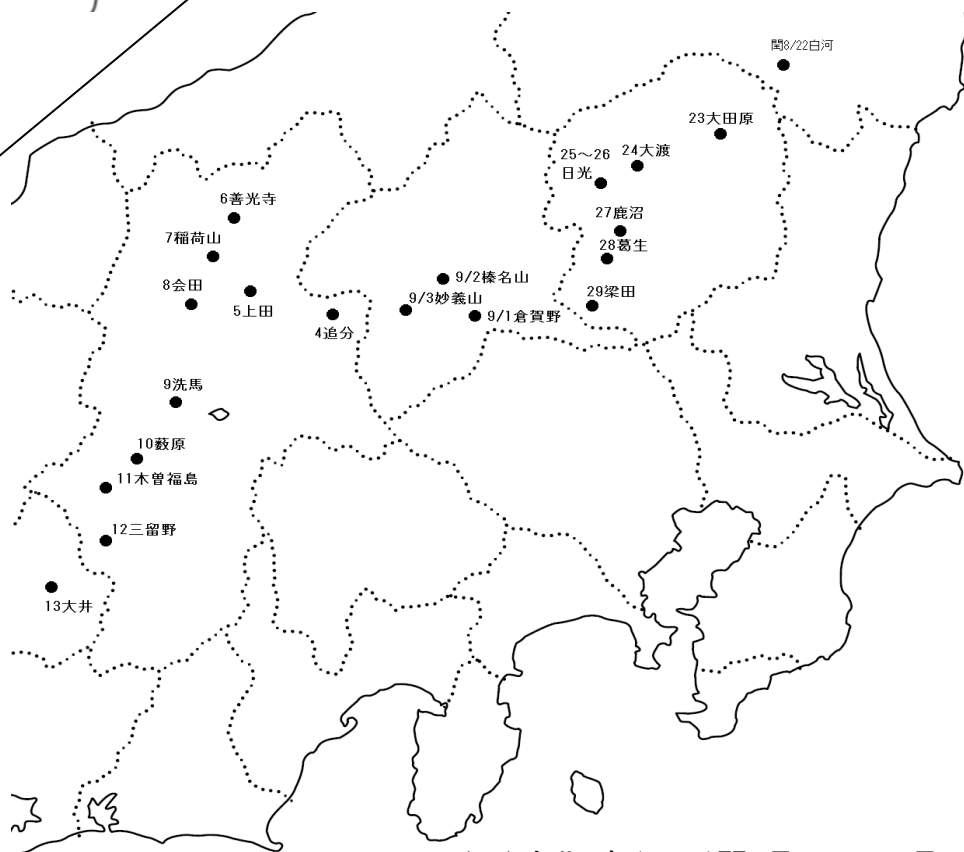
(Ⅲ)文化2年(1805)7月22日～8月18日



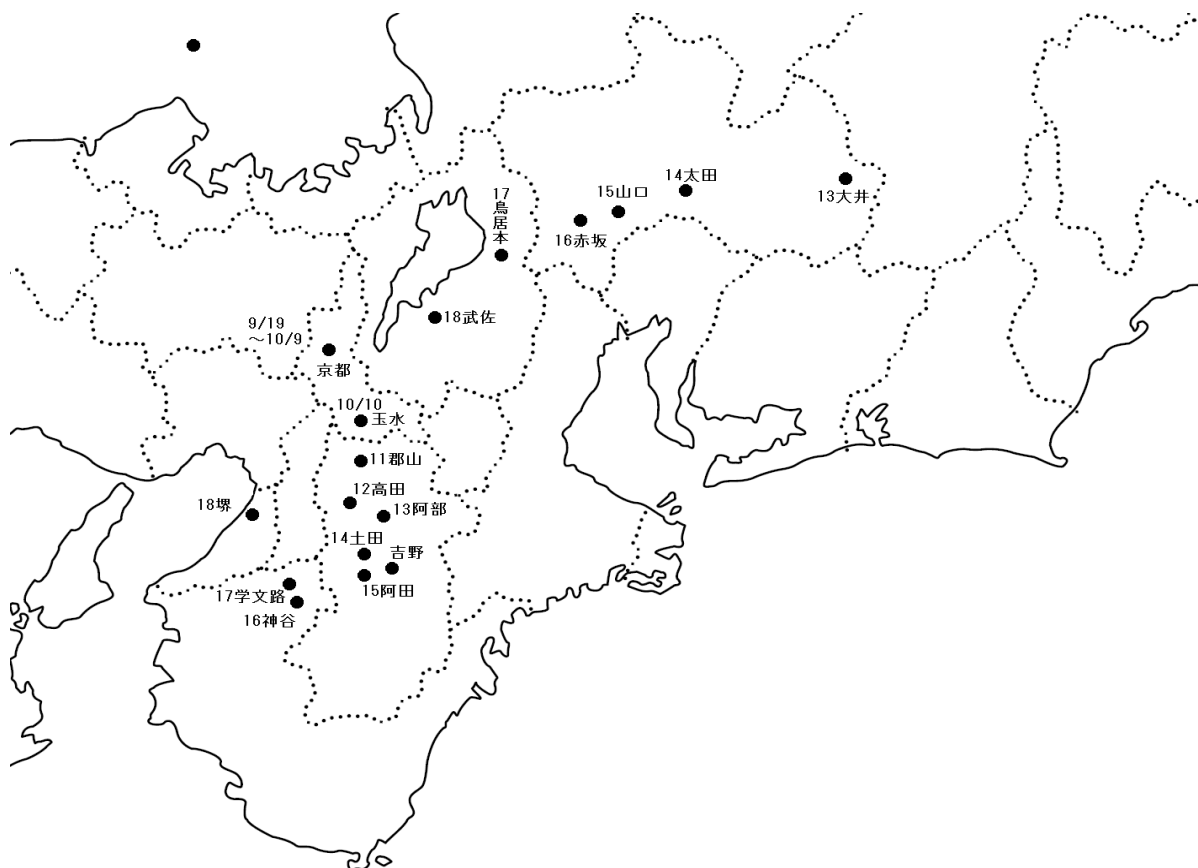
(Ⅳ)文化2年(1805)8月19日～閏8月8日



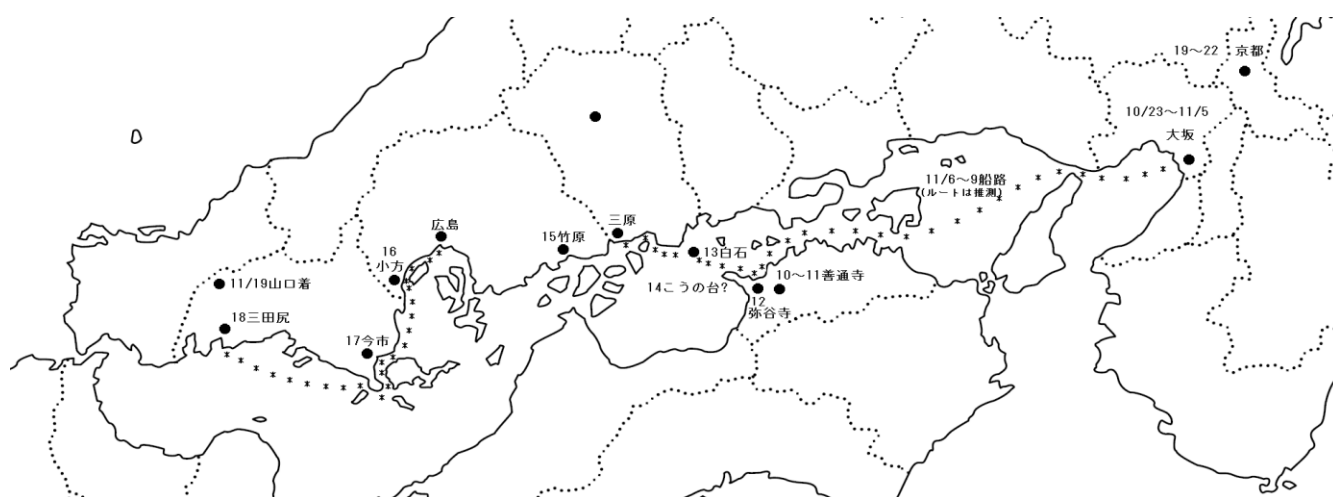
(V) 文化2年(1805)閏8月8日～8月22



(VI) 文化2年(1805)閏8月22日～9月13



(Ⅶ) 文化2年(1805)9月13日～10月18日



(Ⅷ) 文化2年(1805)10月19日～11月19日

文化二年山口町人安部四郎右衛門の旅 行程表

月	日	国名	行程	参詣地・見学地／訪問先
6	15	周防	山口↓宮市↓富海↓戸田	今八幡宮・氷上山真光院・妙見社・禪昌寺・松崎天満宮
6	16	周防	徳山↓高森	遠石八幡宮／役藍泉（徳山）
6	17	周防	岩国↓宮島	錦帯橋・厳島神社／森脇風琴（岩国）
6	18	安芸	広島	東照宮・国泰寺／頼弥太郎・岐俊治（広島）
6	19	安芸	音戸↓猫瀬↓尾道	／平田とめ（尾道）
6	20	備後	尾道	千光寺／鶴屋先生（尾道）
6	21	備後	神辺↓高屋	／菅茶山（神辺）
6	22	備中	鴨方↓玉島↓西阿知	吉備津神社／藤井長門守（吉備津神社）
6	23	備前	宮内↓舟橋	
6	24	備前	伊部↓片山↓有年	
6	25	播磨	片島↓正条↓鵜↓御着↓豆崎↓曾根	曾根八幡宮
6	26	播磨	高砂↓二見浦↓（舟）	石の宝殿・十輪寺・高砂神社・尾上神社
6	27	播磨	明石↓兵庫↓大坂	人丸社・須磨寺・真光寺・来光寺・生田神社・西宮神社
6	28	摂津	大坂	高津社・稲荷社・天満宮／前川某（孤舟・秀山）
6	29	摂津	大坂↓（夜舟）	住吉神社・妙国寺・天王寺
7	1	河内	江口↓枚方↓	

7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
相模河	駿河	駿河	駿河	遠江	遠江	三河	三河	尾張	尾張	伊勢	伊勢	伊勢	伊勢	近江	近江	山城
三島↓箱根	②↓富士山登山↓印野	②吉原	浦原↓吉原	日坂↓新田↓菊川↓大井川	犬居↓森町↓掛川	秋葉山↓坂本	豊川↓新城↓鳳来寺↓大野寺	知立↓牛田↓岡崎↓御油	宮↓名古屋↓鳴海	富田↓桑名	宮川↓津	宮川↓伊勢神宮	津↓月本↓六軒↓小俣	水口↓土山↓関↓亀山↓棕	石部↓田川	膳所↓瀬田↓草津↓梅木↓
三島大社	富士山・浅間神社	富士山・浅間神社	清見寺	大井川／石川為藏（日坂）	／大庭代助（掛川）	天竜川・秋葉山	豊川稲荷社・猿橋・鳳来寺	猿投大明神	熱田神宮・笠寺		伊勢神宮	高田本山専修寺	田村神社／鈴鹿万吉	石山寺・瀬田の長橋	田村神社・蟬丸社	／服部某（京・白河）

8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
7	6	5	4	3	2	1	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 ↓若林↓江戸	武蔵 江戸↓武蔵野	武蔵 江戸	武蔵 江戸（長井・上田・磯島屋と はここで離別）	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 江戸	武蔵 堀 ↓大森↓品川↓高輪↓三十間	武蔵 崎 ↓鎌倉↓戸塚↓保土ヶ谷↓川	相模 ↓江ノ島 ↓国府津↓大磯↓平塚↓藤沢	相模 ↓箱根湯本↓塚原
	桜田屋敷	玉川				吉原	浅草	目黒不動・泉岳寺	飛鳥山	隅田川・稲荷社・秋葉社	京橋・日本橋・湯島聖堂	深川八幡・亀戸八幡	芝明神・増上寺	鈴森八幡・池上本門寺	建長寺・鶴ヶ岡八幡宮・ 円覚寺他	大磯寺・江ノ島	箱根権現社・最乗寺

8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8
陸奥	陸奥	陸奥	陸奥	陸奥	常陸	常陸	常陸	常陸	常陸	下総	下総	下総	下総	武蔵	武蔵	武蔵
↓ 小高 ↓ 原 ↓ 鹿島 ↓ 中村	高野 ↓ 繁岡 ↓ 富岡 ↓ 熊町 ↓ 長塚 ↓	四倉 ↓ 久ノ浜 ↓ 広野	磐城平 ↓ 下神谷 ↓ 仁井田 ↓	嶽 ↓ 上野 ↓ 新町 ↓ 好間 ↓ 関伽井	関田 ↓ 足洗 ↓ 神岡 ↓ 勿来関 ↓ 平潟 ↓ 勿来関	孫宿 ↓ 村松 ↓ 久慈 ↓ 泉ヶ森 ↓ 森山 ↓ 漕浦・泉神社	片倉 ↓ 小幡 ↓ 長岡 ↓ 水戸	筑波山 ↓ 筑波山 ↓ 小幡 ↓ 片野 ↓ 府中 ↓	霞ヶ浦 ↓ 土浦 ↓ 藤沢 ↓ 北条	息栖 ↓ 新島	銚子	木 ↓ 神社 ↓ 鹿島浜 ↓ 大舟津 ↓ 小舟	津宮 ↓ 潮来 ↓ 大舟津 ↓ 鹿島	源太 ↓ 白井 ↓ 大森 ↓ 木下 ↓ 滑川 ↓	鎌谷 ↓ 両国橋 ↓ 逆井 ↓ 市川 ↓ 八幡	江ノ島 ↓ 江ノ島
相馬妙見社・機械島		八幡宮		関伽井嶽		日高寺・天照皇神社・阿	東照宮	男体山・女体山	善能寺・法雲寺・筑波神社	息栖神社	円福寺・和田不動・白紙 明神社／信太権右衛門 (高野村)	香取神社・金剛宝寺・鹿島神社・鎌足社	滑川山観音	忽寧寺・弘法寺・八幡宮・妙法蓮華経寺		両国橋・深川

閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	8	8	8	8	8	8
9	8	7	6	5	4	3	2	1	30	29	28	27	26	25
出羽 陸奥 天童↓ 野尻↓ 二口↓ 二口越↓ 山寺↓ 宝珠山	陸奥 野尻↓ 白沢↓ 馬場↓ 瀧ノ原↓ 瀧ノ原	陸奥 仙台↓ 白沢↓ 馬場↓ 瀧ノ原↓ 瀧ノ原	陸奥 塩竈↓ 岩切↓ 仙台南分町 青麻三光権現社	陸奥 松島↓ 塩竈 月見御殿・雄島	陸奥 松島↓ 渡波↓ 石巻↓ 矢本↓ 小野町↓ 富山観音	陸奥 金華山↓ 小積↓ 折浜↓ 渡波 大金寺・弁財天社	陸奥 鮎川↓ 金華山 大金寺・弁財天社	陸奥 浜↓ 祝田↓ 蛤浜↓ 桃浦↓ 荻 坊↓ 十八成↓ 鮎川	陸奥 渡波 松島↓ 小野町↓ 矢本↓ 石巻↓ 寺 塩竈神社・松島・瑞巖禅	陸奥 塩竈↓ 松島 塩竈神社・松島・瑞巖禅	陸奥 仙台↓ 塩竈 榴ヶ岡・塩竈神社	陸奥 仙台 御玉殿	陸奥 ↓ 亘理↓ 岩沼↓ 増田↓ 仙台 竹駒神社	陸奥 ↓ 駒ヶ嶺↓ 新地↓ 坂元↓ 山下

閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8	閏8
25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
下野	下野	陸奥 下野	陸奥	陸奥	陸奥	陸奥	出羽 陸奥	出羽	出羽	出羽	出羽	出羽	出羽	出羽	出羽
↓ 日光	内↓ 那須野原↓ 船生↓ 大渡	大田原↓ 白坂↓ 芦野↓ 越堀↓ 鍋掛↓	賀川↓ 新田↓ 大和久↓ 踏瀬↓ 太田川	田↓ 二本柳↓ 油井↓ 二本松↓ 杉	坂↓ 渡瀬↓ 下戸沢↓ 上戸沢↓ 小	閼↓ 猶下力↓ 湯原↓ 峠田↓ 滑津	上山	五日町	見↓ 砂子閼↓ 本道寺↓ 横岫↓ 貫	志津	殿山中蓮寺	鶴岡↓ 松根↓ 六拾里越↓ 湯	狩川↓ 手向↓ 荒川	清水↓ 古口↓ 清川	堀内↓ 六田↓ 立岡↓ 土浦↓ 大石田
日光				觀世寺・黒塚	医王寺				浮島稻荷神社	本道寺／横岫村清角坊	湯殿山	鶴岡城下	天照皇神社・若王寺・羽 黒山大権現		

9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	閏8	閏8	閏8	閏8
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	29	28	27	26
美濃	美濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	上野	上野	上野	下野	下野	下野	下野
↓大湫↓細久手↓御嵩↓太田	↓妻籠↓馬籠↓落合↓中津川	三留野	曾福島	↓奈良井↓藤原↓宮ノ越↓木	↓郷原↓洗場	↓姨捨山↓麻績↓青柳↓会田	↓稻荷山	ノ井↓坂城↓戸倉↓屋代↓篠	↓三ツ谷↓馬瀬口↓平原↓四	↓山中↓峠町↓軽井沢↓沓掛	↓秋間↓松井田↓妙義山	↓高崎↓新波↓室田↓榛名山	↓八木↓大田↓木崎↓境↓柴	天明↓寺岡↓梁田	↓栗野↓出流↓葛生	黒川↓鹿沼	↓今市↓板橋↓文挾↓境石↓
		木曾の棧・寝覚の床			松本城下	姨捨山	善光寺	善光寺		妙義山	社・妙義山	高崎城下・榛名山		岩船山・高勝寺	尾鑿寺・出流観音		日光

10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
2	1	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	近江	近江	美濃	美濃	美濃
(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	(京都)	↓守山↓草津↓大津↓京都	↓彦根↓高宮↓愛知川↓武佐	↓熊坂松↓垂井↓青墓村↓	↓白石↓赤坂	↓鵜沼↓加納↓岐阜↓山口
(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	(洛中洛外見物)	瀬田の橋・石山寺	彦根城下・琵琶湖・宝童子弁財天女社・多賀社	青墓村・不破の関	華厳寺	岐阜城下

1 あつまにき
2 みちのく行
2 山鳥渡二口越
3 恋じいるまかい道

※行程と旅日記との対応関係を「日記」欄に示した。

11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9
周防	周防	安芸	安芸	備後		讃岐	讃岐	讃岐	讃岐	*船路
山口	三田尻	今市	瀬野↓広島↓小方	三原↓竹原	こうの台?	白石島カ	弥谷寺	(琴平)	多度津↓琴平	*船路
							弥谷寺		善通寺	瑜伽大権現

10	10	10	10	10	10	10	月
29	28	27	26	25	24	23	日
紀伊	大和	大和	大和	大和	山城	山城	国名
橋本↓学文路↓河根↓神谷	六田↓土田↓宇野↓五条	飯貝↓吉野	飛鳥↓多武峰↓千股↓上市	桜井↓阿部	山↓法隆寺↓竜田神社・信貴	伏見↓小倉↓新田↓長池↓	行程
	吉野	多武峰	飛鳥神社・橋寺・岡寺・	文殊院	山・達磨寺・染井寺・当	奈良寺社	参詣地・見学地／訪問先
							1
							2
							3
							日記

「山鳥渡二口越」に記される十月二十三日～二十九日のルート

凡例

- 一、当史料は、平成二十四年度山口県文書館古文書実践講座において、受講生が解読したものである。
- 一、漢字は、原則として常用漢字を使用した。
- 一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」(は)を除いて、原則として平仮名に改めた。
- 一、適宜、読点および並列点を付した。
- 一、抹消部分は、原則として訂正部分をそのまま本文とした。
- 一、改行や割注は原則として原本のままとしたが、意味をとりやすくするため、改めた場合もある。
- 一、説明として加えた傍注は、() で示した。
- 一、本文右上に小活字() 書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。
- 一、各条文の年月日部分はゴチックとした。



「奥州宮城郡塩竈松島勝景縮図并古歌」(安部家文書 1454) ※部分

あつまにき

(表紙)

あつまにき

②

享和三のとし三月三日といふ日、あつまのゝ旅行せんとて
八〇三二月

たちいつ、親しき限とも、しはしおくりぬ中に

橘貞通

たちはなの貞通

やかて又きて帰りなむ古郷に都の春の花の錦を

とよみければ、そか返しを

もろ人のをくる詞の花の香を旅立袖につゝみてそ行

高嶺大神宮

先此里にうつし祭る伊勢御神に詣て

旅衣たちゆく末の月も日もくもらて照せ天照す神

神主貞靖

と詠たいまつりて、神主貞靖かもとを訪、主馬のはなむけにとて

玉鉾の道ゆくたよりにせむ、書フミひとつかひつけて

③

得させける、やかて行ほとなく腹いたみ心地あし

ければ、ひとあしをたにすゝます、此比のはしかといふ

やまひにやあらむと、こゝろなく家に帰りぬ、かくて

日を経、月をかさぬるに、又さはる事さへいてくめれば、

更にせんす（禊）へもあらしとかくすれと、いさなふ友

をさへ得す、うきふし、しけき世の事を

のみかこち、ひまゆく駒のあしとく、子も過、又丑の

春といふ年になりぬ、ことしはかならずと思ひ立

長井・上田
石川

ほとを、先かそいろにつけて、心くもあらねは、したしき
友とち三四人長井・上田・石川いさなはんと語りあふもうれし

文化二年（
八〇五六月）
祇園の集

一けふは六月文化二年
水無月十五日なりけり、きさの夜までは祇遠（ママ、祇園）

今八幡宮

のつとひありしかとも、また速よりかとてす、なをゆく

鰐石町

すゑのさちいのらむとて、今八幡宮に詣てゆく、

御堀

さらはよと立わかれんも身ひとつのかゝるきはにや心ひかるゝ
よし、さはとてゆく、御堀をすくれば左に一本のヒタン

南明山

松老たるあり、こゝは昔し琳聖太子のすまひ給ふ
（伽藍）伽藍地と聞へけれど、世くたりて、南明山といへる

氷上山

寺かたはかりなるいとふりたり、やかて氷上山

真光院に詣んとて、門ふかくいはれは松生たちたる

妙見社

④ 奥に馬場筋
三四丁下 仁王門あり、又上鳥井打過、妙見社

いと尊ふとし、そのかみ琳聖太子、くたらよりはし

めてくたらせ玉ふ、降松（下松）
百瀬園といふ処より、こゝもとにうつし奉る

大御堂・愛宕社・東照宮・山王社

といふ御祭事二月十日
三日神事能有、大御堂・愛宕社・東照宮・山王社

氷室池

などことそかす、又北の山かけに氷室池有、清し、
満足の心也

矢田

立よりて、くめはあつさも、夏の日に、氷室の池の、名やは
かくるゝ、それより氷上河うちわたり、矢田を

柅木

すき、柅木のさとにいたれば、かねてゆかりあるもの

とも友とちいさなひ、さけさかなやうものしてもては

やすほといと興あり、やゝ午すくるとき、さらは袖を

秦雲寺

あかちてゆくほとに、聞へくるかねは鳴滝秦雲寺
なり、後に山高く、をちくる滝音は谷峰

にひゝきて、処の名もさこそとおほしく、堂あまた
(伽藍)ならひか闌こちたくみゆ 末寺三百、こゝは道一とかいへる

天狗やうのまもりありて、つねならぬ事にはその
しるしをあらはして、むかしより火などのわさはひ
なしとや、かろうして山をくたれば白坂といふ、
暫し松かけによりてやすらふうち、こしかたを

見かへりけるに、時鳥のなきければ、行旅の心も
しらす帰るにはかしと鳥のなとてなくらん

禅昌寺

⑤ やかて禅昌寺のかとにいたる、往來より三三北に入

この寺世に西の国の高野といひつたふよし、いらか高く
並木のこすゑにそひへ、谷水松風の音もをのつから

鯖山峠

読経の声にかよひ、たくひなくいとありかたし、それ
の僧春秋にたくはつといふをして、あさにけにたより
としければ、ことわさに頭陀坊となむいふ、かくて鯖

鶴浜

山峠にのほれば左右も山たかく、まつのみ生しけり
すこし葉越に見ゆる鶴浜は、藻塩やくけふり

釧の宮
鯖川舟橋

たちわたり、沖ゆくふねもわかたす、くたれば右に
釧の宮ありふしおかみ、ゆく／＼鯖川舟橋うちこゑで
宮市にいたり、松崎天満宮にまうつ、

宮市
松崎天満宮

宮作ふとしく工のわさをつくして、そのさまいふも更なり、

山景園南

かゝみなす池は心のちりをはらはせ、又さま／＼の
木くさうへなべて、燈炉などこゝかしこに、しるしの石
ふみは 園南先生作 うこかぬ世々にのこり、後は山ちかく

前はうみ、すこし遠けれと見のへたるけしきあらはに、
あたりの花町はそのかすをしらす、ゆたけくにきほふ
さへ、神慮めくませ給ふけにやとおもふまで、有難く
そおほゆ、広前にあふけはなをもいやたかき、

松の下ふくかせのすゝしき、やゝ日もかたふくころ

麻里布
浮野
秋山某

⑥ 麻利府浦にいたり、浮野の市をすくれば、北なる

山のもとに秋山何かしとて、ゆかりのひとのものとすれと、
すこしへたつれはとふよしもえあらず、そのよし

せうそこしてをきぬ、やかて峠にかゝりたれば、左は
山右はうみちかく見おろし、沖のかたは三十まり六の灘 (あつち)

てふ有りて、遠きつくし地はたちまふ雲にのみまかひ、
日はしのそらに、月は東よりほのめきて、そのゆふ

はへいはむかたなし、やう／＼富海の浦をすき、暮

富海
戸田

ふかく戸田といふにつく、相しれる人のありければ、一つふたつもの

いふほどにつかれ出きて、しはしまとろみぬるを、主シ

おとろかしければ、手枕に、まとろむひまも、なつの夜の、
月は雲間に、あけわたりけり

福川

一十六日、あさほらけより立いつ、またなれぬ旅のものうく、
あしきへいたみければ、福川の浦より少時もと舟に

竹島 のる、やうくこきゆくほとに、そなたは竹島かなたは

祝島 祝島などいふ、君か世の、つきめためしは、竹島の、

竹のかすく、千世やこめけん、また人にかはりて、わさ歌

のやうに、祝島、みるめもさかふ、うらくや、富海・福川、

徳山 富田・徳山、辰のときはかり徳山につく、あかりて藍泉

役藍景 かもとをとふ 修験者教寺院 いとねもころにいひて、から歌

遠石 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

影向石 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

八幡御神うつしまつりしとき、御影あらはれて、駒の

ひつめのあとをのこし玉ふとなむいふ、そのあといまに

しるし 此事 宇佐 風土記三有 さるから遠石ともいふよし、所のものいひ

つく、かくて御社に詣てゆく、暑さたへうけれど、

花岡・久保市・埴市・呼坂なとうち越、今市をすき、

高森にやとる、今宵は相舎りしるしらぬ、おほかる

なかに、夜なかくするころ、ぬす人めくものありて、

かれは見えし、これはとられしなど、いひてのしりさはく

をと、枕上にたかく、しらなみの、立さはくよの、かゝる

にも、おとろくたひの、こころほそしや、

一十七日、また明ほのに出て、玖珂の駅をすき、金明寺坂

欽明寺坂 にかかれは、しはしこの此麓に 名物餅 有 やすらふ、それより

羊腸をのほり、やうく柱野といふをはなれて 此所通行 是関戸又

右は岩国 右より谷河をわたり、山路をたとり、ひとごと

岩国河西 はかり行は、岩国河西といふ処なり、この河辺の

錦帯橋 右をつたひてのほるに、名にあふ錦帯橋なむ 橋長三百廿五間

さなから虹のうきはしとおほしく、なかは

こゆれば水かわはるかに見えて、そのそこいくはかりといふ

もしらす、涼しさも、またたくひなし、かゝる処をいに

しへの名所書にもらしけるぞ、いとくちおし、かろうして

金屋 孫右衛門 といふ 何かしかもとをとふ、いとあさからすもてなす、

また森脇風琴か宿を訪むとて、いひいれけるに、

おほやけのこと、しけきとて、対面せねは、あとより

おひつけて、俳諧ふりくさをくりぬ、それより田中の

みちをつたひ、浦辺にいて、穴のくちといふ処より舟に

のる、此日いつくしまのかみわさありければ、楫取よ

いそけなといふ間に、いつしかあきさかひになれば、

また故郷のことなどおもひ出て、見かへりたるに、

岩国山 岩国山さたかなり、周防なる岩国山のやま松の

まつときかてもはやかへりこん人には見せしいつく

しま、とよみしも、ほとちかくまはれば、七里ときとの

子のうたふも、さはとおもふまで、いとおほひなる島なり、

うみなかに鳥井たてり、 鳥居

あかりて浜つらの家にやすらふ、つとひくるは、たかくいやしき

わかく老たるもいはず、あとさきに袖をつらね賑ふ

さまたくひなし、さて御社ふしおかみて、こゝかしこ

五重塔
千疊敷

弥山

水精寺

三鬼堂

地御前

廿日市
四十八坂
広島

山口屋利兵衛

見めくるに、小社おほく経輪蔵有、またすこしたかき所に

五重塔・千疊敷てふ堂あり、むかし千僧あつまりて、

供養ありしといふ、これより弥山にのほらむとて岩根

みちたとりゆくに、十まちなりのほれは寺あり、水精寺

といふ、三光寺とて地辺此原に日月星白く、其形有て奇石也、其外宝物多し下れは三鬼堂といふなむ、これは

天狗やうの宮と聞ゆ、獸の皮ヲ尊フヲ忌やうくふもにかへり、観音堂より

大元の社にめぐり、またもとつ宮にまうつるに、みちくるしほ

は、大ゆかのしたにしたし、さしくる月の光も、ところから

ことやうに、はるかに見れば、地の御前海上二里へたてりといふより

みゆきの御舟あまたこきくるあり、たゝともし火

のみかゝやくと見へしか、やうくちかくなれば、そのよそひめも

あやに舟数多く狸々緋に金糸縫もやうなどさまく美をつくせり錦やうのものがさりなし、

なをきらめける火かけは浪の五百重にとほり、ふき

あはせたる、かくのしらへは、岸の松風にもかよひて、その

さまたとへむかたなし、夜ふくるほとこゝにかりねす、

涼しさのたくひもなつの月かけやいつく島根に磯枕して、

一十八日、朝洋、舟にうちのり、こき出ければ、廿日市、四十八坂

などいへるかたを左に見て、午のときはかりに広島

本河筋につきぬ、猫屋はしにつきぬ、此所より備前尾道

までは坂みちおほければ、われは舟にてのほりね、こ

なたはくがをといひて、友とする人みないそきけり、

さらはと汐まちするほとに、ふねよりあかりて山口屋

東照宮
国泰寺
頼弥太郎

岐俊治

音

平清盛

猫瀬

⑩

利兵衛といふ周防の国の綿屋、何かしかもとをとふ、なさけあつくいひけり、

いて、東照宮・国泰寺などにまうつ、帰るみち、頼弥太良儒者

何かしか宿をとひけるに、こゝち例ならすよし、きこえ

ければ、せんなくもとの山口屋かもとにかへりぬ、やうく

日かたふくころ、さは汐もよしとて舟いたしけり、

例の旅こゝちものうく、いと心ほそきに、あひのれる人に

岐俊治俗名幾太郎といへるものあり、もとよりのしるへなけれど、

あさからす、ものかたらふほと、よもすから楫の枕もとらて、

かのおとこ、有明の月さし出るとま舟の旅路は

さそなものうかるらん、とよめるをかへして、

わすれめやかゝる旅寝のいかにそとなさけかけつる君か

ことはを、あかつきかた隠渡といふしまにつきぬ、

一十九日、しはし汐まちするほとに、よへかゝりし嶋に

あかり、家居有かたにて、酒うるかとなとをたゝき、

俊治そのほか、これかれとくみかはしたるいとおかし、

またこゝかしこさまよひありくに、むかひの山ちかく

して、早瀬のしほのさしくるなかに、岩垣坪計

あり、うへに松なと生たちて、しるしのいしの有ける

を、ひとにとへは、これなん昔し平相国清盛公

此山なかをきりひらかせ、舟の通ふへきたよりと、

⑪
なさしめたまふければ、そのしるしとそきこゆ、

やかて舟にかへり、ひととばかりゆく、猫瀬といふ

三原
尾道

平田某とめ

千光寺

玉浦

松本某
加島

菅江嶺

ところあり、この瀬はやき事たくひなく、いとおそろし、

爰にあやしき事

やかてうみとをく、いつれは、をひかせ心に

まかす

三原の
城見ゆ

やうく申のときはかり備後尾道に

つく、これよりくか路にかゝれば、をとつ日、わかれこし

友とちにもあひて、心さへすゝみたちぬ、爰に

平田何かしかむすめとめ、画くわさによしときこへ

ければ、ひとひらこひけり、

密宗

一廿日、また起より千光寺てふいへる蜜宗の山寺に

まうつ、この庭に大なるいはほあり、むかし此岩より

夜ことにひかりありければ、人くあやしみけるほどに、

そかなかより、たくひなき玉を得たりときこゆ、

さるから、此処を玉浦といふよし、また寺の名も

かのいし大に光けるより、よひきたりしとかや、すへて

見のへたるけしきいとよし、それより松本何かしか

加島

すみける鹿嶋にと、小舟をさしてゆく、二里

はかり経て、こきよせけるに、いその松原わけゆきて、

かれかもとをとふ、あるしいところへありて家作

前裁のさまになう世のほかにしるしたるも

12

かつところからにおかし、見渡しの庭よりちかき

磯なれ、まつの梢になみの花そかゝれる、かれこれ

いふほどに酒なとまたうす茶やうのものとも

とりくもてなし、又からの紙とうてゝ画などかひすさひ

アガ

菅江嶺

たれば、あが同士義卿もふてとりて画かく、かくて

滝鶴台

今津
伊勢山
神明社

陰陽石

神辺
菅茶山

雷

あるいさなひてさまよふに、こゝは数寄屋かしこは

滝鶴台

亭など聞もみなよしはみたり、鶴台うしもよき

ヨシアルコト

名ところといへりしきへ思ひいつ、さるほどにくれちかく

なれば棹さしてけさのやとりにかへりぬ、

一廿一夜をこめてゆく、今津をすき伊勢山を

ヒタン

左に木間より神明の御社見ゆ、やうく山辺を

つたひゆくに、かたはらに陰陽石といふなむ有けるを

もしらて、ふみまとひけるそいとくちおし、やかて

神辺

神鍋の駅にてはしやすらひ、菅何かし

菅茶山

かもとをとひて、唐歌こひ得つ、かゝる間に雨すこし

をちけれど、さのみふらましう見ゆれば、何のかまへも

なく十町ほどゆきしか、にはかにいかつちとゝろき、

いたくふりくるものから、ものくろうなりてともなひし

人のあしとも見えす、あとききもわかねと、いまさら

もとの道に帰らむもくちおしく、こゝちまとひゆくに、

13

川あることもしらす、つふとすへりをちければ、陰陽石を

ふむ罪敷

たましゐもきへつへう凡二十間はかりなかるゝと

おほへしかと、かくしてむかひのきしにたゝよひつきぬ、

思へはゆめのこゝちするに、またいのちのまたかりしぞ、

神仏の守りにてそあらめ、手あしとものいたつき

けるも、今はやしなふ方便なく、やうく四五町計り

テタテ

ゆきて家あり、こゝに友とちともさきたちて

待居つるよし、しかくとききのことなとかたらひ

きかすにおとろくはかりなり、まつくすり蒸餾もてダン
シ血トマル

ともいそきてなにくれとするに、なかるゝ血もやみければ、
いてゆく、備中の国さかひをすきて高屋といふ里に草枕す、

一廿二日つとに宿をいてゝゆくに、道の人いふやう、今より
すゑに七日市という処の川、昨日の雨にみつまして

ゆきゝたへしときこゆれば、いとこゝろほそうおもはぬかたに
みちをかへてゆく、野辺ふかく山路たとくしう、そらは

はれたるか、ゆくりもなう神なりのひとつきこへけるは

さもあやしかりけり、やうく午のときはかり鴨方無思慮又不慮の事也

といふにつく、此ところきのふの雨水いとしく、家数

二百はかりもかたふき、小屋の五むつばかりくつけて

なかれぬとなけきあへるまたあはれ也、ゆけは崩也

14

沖に備前の児嶋(児島)うきすの岩、藤浜などをとに

きゝつゝ、やかて玉しまにつく、家のおほく磯にはふね

あまたおほきなるも、ちひさきも見ゆ、それより

河舟にて打わたり、二里ほとゆき西あちといふいた(西阿知)

しき草の廬にかりねす、これより瑜伽権見(現)に

四さとはかりへたつといふ、

一廿三日あしいたみければ駕にものして、辰のとき

はかりに備中宮内にいたる、さらば吉備(吉備建)つ

宮にまうてんとて神主藤井長門守かもとに

ゆく、此人伊勢の元居か同士にて、歌よくよむよし

宮内
吉備建神社
神主藤井長門守
本居宣長

備中国境
高屋

七日市

鴨方

児島・浮洲
の岩・藤浜
玉島

西阿知

瑜伽権現

岡山
舟橋
吉井川
伊部

きけは一首こひけり、かろうしてあかゆくすゑ

ほきものしてよとたのみいれければ、此ぬしいさ

なひ壇上にのほり御ぬさふりはへてぬかつく、

いとありかたし廻廊長し、くたりて御釜のたんと

いふ処にくゝまり見れば、乙女の老たるが二人はかり

せうそくうるはしくきなして、おほいなる釜の

したをたきぬけり、いかなるものやとなをおそれ

みうかかふに、神主はいやくしく柏手うちならし、

みてくらとりそへて、ひめわさおこなふと見ゆ

るに、乙女はすゝみたちて、まるきうつはやう

15

のものたつさへて、なにやらむ釜のうへより、ふり

かくるやうに見えしか、たちまち御釜なり

うめきて、あらかねのつちさへさくるはかり、ひとこゑ

ヲントのひゝきたからかにきこえけるは、おさくの

みことのしるし有けることかなとおそろしくもあり

かたくもそおほゆ、ゆくすゑの、とをき旅路も、

つゝみなき、ためしを見る、神よ此かみ、

かくてこゝろもいさきよくあしをそらになして、

ゆくく国無恙事也のさかひをこえて岡山の城した打

過、ふなはたといふ処にいたる、

一廿四日暁よりたちいつ、ひとさとはかりゆき、吉井

川をわたり、又二里はかり経て、イムベといへる処に

吉井川
伊部

備前焼

片山

八木山
三石

いたれば、世にとりはやす備前焼とていろくくの
うつは・すへものつくりせしあり、それより八町は
かりゆき片山をすき、やうく八木山左に三ツ石
などいふところにいたる、此処町なかに三の大なる
石あれば名とせるものか、やかて十三峠うちこへ

播磨路
赤穂
有年川
有年

二里はかりゆきは播磨路なり、赤穂をきす、
うね川をわたり有年といふにてまた日も
たかけれと、うらふれてかりのやとりす、

片島
正条
鰯

一廿五日けふも朝朗よりゆく、片嶋正条、イカルカ
の川うちすくれは川上脇坂、左に山たかく見ゆ、尊

半久寺

広峯・増位
姫路

御着

豆崎

曽根

曽根・天満宮

ふとき観音仏おさめまつる寺ありとそ西国三十三所札所也
はるかにぬかつきてゆけは、また半久寺とかや
いへる太子の寺あり、それより広峯、マス井、娘路増位
の城した川なとうちわたり、ほとなく御着
といふもすきて豆崎にいたる、これよりすくに
加古川、明石の大路ときけと、みちかへて曽根に
ゆきけり、日もにしのそらにゆふつきたれと、つと
ひくる人くみな天満神の前にこそりいやまひ
たふとむほといとかしこし、ほとりに松あり、
あか十とせまり八とせのむかし、まうてつるときは
枝葉さかへてありしか、いまはくちはてゝそのかた
はかりなりければ、かれはつる松のむかしのことゝへは

石の宝殿

八十氏人の袖やしほるゝ、今宵は此里にかりねす、
一廿六日またきいてゝ御社の前より松原をすく
れは、有明の月梢に見ゆ、梓弓、いりなむ月の、
ゆくすゑも、見らぬはかりに、松そ木たかき、
ゆくく一里はかり経て山本にいたれば、名に
あふ石の宝殿也、神のつくりしと、きくも

天のつり舟

十輪寺

高砂神社
相生の松

動かしな神代の事も今更におもひ出けりいしの岩室、
それより八町はかりゆきて、里の子らをいさなひ
山のうへにのほれば、天のつりふねてふものあり、
石もてつくれるさま何にまれ、古のこと成けん
又ふたさとはかり下り、十輪寺にまうつ、
此寺の松に鶴のすくひたるめつらし、やかて高砂
につけは社有、広前に相生の松といふなむあり、
これそ此友ならなくといひしあとゝそ聞

尾上神社

古銘鐘

二見浦

ゆ、この処町なかく央に大なる入川ありて舟の
いていりことさはなり、それより尾上の宮にまう
つれば、かの名たつる鐘あり、又いにしへの松の
木とて箱におさめしを見るに、その色くろく
手なれて伽羅の木のことく、あくれはおもき
こともけなり、かろうして海ちかくゆくく、沖は聞
の灘なと聞渡り、やうく日たくるころ二見の

浦につく、これより舟にのりて

玉くしけふたみの浦を漕出てなめあかしの月 〔にゆかはや〕

一廿七日のゝめころ赤石の浦につく、まつ人丸の社に

詣てゆく／＼山田村妓女の浜なんとすき、

赤石浦
人丸社
山田村

垂水村

^⑬ 垂水村をゆけは、右なる山本に千坪とて

壺

壺あまた埋めるはいかなるすへにやありけん、いつしか

三の谷

三の谷にいたれば、鉄拐峰^謂もまちかく、道の辺に

平敦盛墓

敦盛のしるしの石あり 大なる五輪也、昔さへおもひいて、

二の谷
一の谷

いとあはれにそおほゆ、やかて二の谷一のたにとうつれば

須磨の大裡の古跡なり、今は松のみ生しけりて

浦ふく風ものすこし

千守川

淋しきはたとへんかたもなかりけり磯うつ浪の音計して

それよりちもり川の西にゆけは、淡路島ちかし、

幾夜ねさめぬとよみし関屋もそのあとしるゝ

須磨寺

てそ見ゆれ、かくて須磨寺にまうつ、

青葉の笛など、その外しな／＼ひめおけるもの

義経腰掛松

いとめつらし、若木の桜又庭などに義経腰かけ松

長田村

てふ木ともいともふりたり、いてゝ長田村といふに

ゆけは、道のほとりに池あり、中島めきてそかうち

越中前司盛俊

に榎一本あり、しるしは越中前司盛俊と聞ゆ、^{夫也}

兵庫

後鳥羽院陵

平清盛

魚島

やかて兵庫にいたれば、後鳥羽院の御陵又

清盛公のしるしなとみゆ、それより魚島^{ミサキ}の

真光寺
来光寺
湊川

真光寺、又築島の来光寺に詣つ、

此寺平相国の時建させ給ふといふ、かくて湊川

^⑭ 打渡りゆけは、楠何かしのしるしとも見へて

生田神社

そのかみおもひ出たり、程なく生田の社もうち

布引の滝

すき、山ふかく入て布引の滝にいたる、此滝聞しより

けにたくひなくみゆ

岩屋村

夏衣ころも涼しき布引の滝のしら糸くりかへし見む

西宮

いつしか岩屋村目の浦をすき、西の宮ふし拝み

大坂

これより舟にのりぬ、風さへおもふまゝにふきて

坂田屋某

難波につく、かねて相しれりける坂田屋何かし

土佐堀堂安橋

小七といふ かもとをとふ、かれこれかたらふうち旅心の

ゆるひさへ出来て、過し比のいたつきも又今更に

おほゆれば、あるくすしにたよりて、そのくすり

ものするほに、たちまち心地よけなるそうれし

高津社

一廿八日高津の御社にまうつ、かの高き屋とよめ

り給ひしよもあふくはかり有かたく、それより

御霊稻荷社^{世也}などをめくり前川何かしかもと

稻荷社
前川某

をとふ、此家の父子とも皆 父ハ孤舟
子秀山云 印譜の名たかし、

天満宮

出て東西の御堂を打過、天満の御社にまうつ、

日暮て此うろすゝみ、今日さかりなれば、ひと／＼

橋／＼にたちわたり、又川／＼に舟なとさして

遠くかゝやける燈火は星か螢かとうたかひ、近く

住吉神社

うたひまふこゑは水にひゝきあひたる又おかし
一廿九日けふは御祭なれば、人ゝにきはひ詣ゆき
けり、いまでも岸の娘松生そひて幾世経ぬ

らむとおほしく、やかて反橋打渡り、広前に
ぬかつきて見るに、つとふ人かすをしらす、
ライハヒ也 ヒタヒラヌカト云也

やかて浪花屋何かし宿をとふに、庭の松
になう生ひろこりて、一木も千本のやうになん

妙国寺蘇鉄

いとめつらし、出て妙国寺のそてつなといふ
木の世に名たつるものともをたつね帰るみち

天王寺

天王寺にまうつ、その比火の災にて今は
名のみなるはた(衰カ)衾なり、やうく宿につけと

また日もたかければ浦辺に出て人なみに御祓す

難波江のよしあしわけてみそきする身のかはみなつきはてにけり

一七月朔日速、初秋のころを

夜舟

住吉の岸の松風音つれて遠里小野に秋やたつ覽
今夜の舟にものして、伏見に登らんとて夕つかた
八軒屋といへる川岸より打のりてゆく

江口・枚方

水くらき淀の川辺を引舟の綱手や霧にわけまとふらん
やうく江口・枚方ヒラカタを過れば、あやしけなる声して、
酒のめ午房くらはんかななどのゝしるやうに聞ゆるを、

(21)

いかにやと舟人にとへは、昔平氏の人とも世に落ふれ
てかゝるわさをしけるかそのさま残りしといふ

橋本
淀城

一二日夜あくるほと橋本をすく、淀の城ちかくゆ

けは、岩垣たかく水の車ことやうに天守矢倉

サシエタル心

などいふは、奥ある木の間にそひへてその趣ゆゝ

しけなり、いつしか伏見につきて竹田道伝ひ

伏見
竹田道
財満某

ゆくく末の時はかり京に登りぬ、先財満新四郎
越後也

何かしかもとをとふに、またき酒肴やうものして

いとなさけふかくもてなす

ことさやく都の手ふりふりはへてひなの旅路も忘れにけり

冠幸也、詞サハヤカノ心也

それより白河辺に服部何かしとて母のゆかりある人

住けるを訪ひけるに、あるしちかき比田舎に下り

けるよいいへは、妻の利子にタイメ対面し、いとねもころに

物らかたらひつゝ日くれて又財満かもとに帰る

一三日けふもこゝに休らひてんとおほせと、おとつ日

磯島某

難波の磯島何かしと東行せんよし

いゝかはせしごとまたきて来ければ、卯過る比

よりいさなひて立出、如也財満も一さとはかり送

りぬるに、いつしかわかれんとして

今よりは立別るとも旅衣かさねてあふを頼みならまし

スム

(22)

かくてひの岡・山科(目ノ岡)その外、嶺くもあと見なして

ゆくく逢坂近くなれば、車ひく牛あまた見えけるか

みなから此ころの暑堪うけにことに坂みち

乍留也

のくるしさそおもわる、やゝ日もたけゆけは、あしを

関明神
大津

三井寺の鐘

膳所

栗津

木曾義仲

瀬田
石山寺

すゝむるとて

あふ坂の関のこなたはとめなからむすひもやらぬはしり井のみつ
左のかた関の明神あり、ゆきて大津に宿る

三月月のかけもにほてる海原や大津の浜によするさゝ浪

一 四日曉のかねは三井寺にやと夢さへ絶はつれば、

またき起出ゆく、膳所の城を打過、栗津の

原になれば、木曾義仲のしるしこそ

いとあわれに見なされ、とりゐといへる処

より瀬田のはしを左に十八町はかり過れば

石山なり、門ふかくいれは、花の木あまた

しけり、たゝみなす岩もいくはかりとしらす

とかくかちありきて御堂に

いたれば、いと有かたきこと限もなし、聖武

帝の御時よりして世はくたりながら

大悲の御かけ明らかに拝み奉るさへな

みたこほれにけり、紫式部のものせし

(23)

源氏の間又かの女のしるしのいし月見亭

など見めぐりて、打わたしたるかたは

世にいふ八景の趣、今更絵かくともおよふまし

うおほゆ、やゝ時うつれば又もとのみちに帰り、

勢田の長橋うちこゑて、新田・大かめ・河野路を

すき、しはし草津の里に休らひ、

草津

瀬田の長橋

梅木村・石
部・田河

梅木村・石部をへて田河につく

水口・土山
田村神社
鈴鹿山

一 五日夜深く出て、水口・土山を過、さはといふ里
の田村大明神に詣つ、それより鈴鹿山うち

こゑて

鈴鹿万吉

旅衣幾日ふりはへきなれん鈴鹿の駅けふすぐるまで
なとくちすさひ、坂の下にいたり、鈴鹿万吉か許

に休らふ、此人なんいとまつしうありしかとも、になふ

かうやうに名たゝりて、国の守よりもあはれ

とおほして、住ゐともしつらはせ給ひ、又將軍

よりも、よね・こかねなとめくませ給ふけるそ

いとかしこし、かゝる程にこそ誰もあらまほし

けれ、かくて行く左に筆捨山てふあり、大なる

岩の上に又小き岩とも六七たゝみなして、そか

ほとりの松たちならひたるえもいひかたし、

(24)

狩野法眼も筆におよはしとて、かく名つけ給へりし

と聞ゆ

我もかく筆に及はぬ山もせを幾山かへり返してそ見る

やうく関の町にいたり、右に鳥井あるを伊勢・

山田の道ともしらて、二里はかり亀山城下をゆくに、

心さしける方とおほされす、先達し友同士

なども見えねは、いとおとろきて、こゝろもきゆる

はかりくゆれと、せんかたなく処の人にたよりて

くるしき山路をめぐり、夜半過る比、雀田と

久保田

亀山

関町

筆捨山

いふにゆきて草のまくらす

高田本山専一
修等
六日つとより出て、ひときとはかりゆけは高田

津
門跡あり、やかて津の城下町をすく、此処一里

ほとつゝきて賑ふさまこよなし、やうく行て

月本・六軒
松坂
つくも川打わたり、月本・六軒を過、松坂も過

れは日暮ぬ

宮川
一七日先宮川打渡り、一里あまり経て

山田
山田にいたる、町のなかはゝかり右に鳥井あり、

これよりはことに身をも心をも清めて

深く入ほとに、名にあふ下宮の広前

いと尊ふとし、敬いやまひぬかつくもかへりて恐し

布デノ心也
(ママ、怖カ)

(25)

きまてになん、それより千々の社をへて天の

岩戸にまうつ、此処よりはまちかく伊勢のうみ

見えけり

神風も汐瀬にたちて吹寄よちひろの底の玉やひろはん

やかて十八町ほとゆけは、あいの山といふ道のへに

あまた乞食コシギやうのものつとひて、しまさん

こんさんなどあやしうたふまねしてもの

こひたるそ又あはれに見ゆ、かくてゆきく

五十鈴川
伊勢内宮
五十鈴川打越れば、高山の梵内宮也、

有かたき事今更いはんすへなし、詣

くるひとそのかすをしらす

あまてらす神の恵にたみくさも栄ふる御代そ限りしられぬ

かく手向奉りて、又かすの御社をめくり、

広小路ていふにゆきてやとりぬ

一八日よへより雨いたくふりければ、立出んかたも

浅間山
二見浦

わひしく、浅間山・二見浦など名所おほきおも

宮川
津
心にまかせず、又きのふの宮川無寶うちこゑて

阿漕浦

津の町に帰りぬ

一九日町半より右にゆけは、阿漕か浦見へけり、

(26)

旅衣日もかさねてや伊勢の海あこか浦もちかく成らん

やうく上野・白子をへて、神戸もすく

上野
白子
神戸

れは、すき川といふあり、昨日の雨に水

まさりしとは見ゆれと、さのみはあるまじう

おほして、半渡るほとに、とめゆく浅瀬も

おほつかなく心地まとふものから、はきにあけし

衣もいとぬれとほりてあやなく、深きかたにのみ

たとり、あはれしつみもせはやとやとはしめ門出すとき
ある老人いさめ

けるは、海川に心をゆるしそ

いへりけるを全更むへと思

岸根
追分
四日市
伊達集

たゝ神仏をねんしてとかくするうち

岸根につきぬ、さてもとしはし休らひてやうく

追分を過、四日市といふにいたる、数の蔵町いと

賑ふ、爰に伊達何かし又有子なといへる風流

人のありければ、そかもとにて歌よませなとし

東西畠田

貝焼き

桑名

けり、出て行く東とみ田・にしとみ田といへる
処をすくれは、松かさ^カもて貝やきけるをあき
なへるなんあり、夕つかた桑名の町過て
浜辺につく

一十⁽²⁷⁾日朝かけより舟にのりて、午過る時、宮に

熱田神宮

名古屋

つく、やかて熱田の御両社に詣、町伝ひ
二里はかり行は名護屋^(名古屋)の城下なり、天守に

ものせし、こかねのシヤチホコ日にきらめきて見ゆ、

又町の中に二の御堂あり、京の本願寺をまね

ひて、いと心こめしつくりさまになむ、それよりまた

あつたの町に帰り、糸田・戸部・西門などうち過、

右にかさ寺の竜福寺^(笠寺)てふあり、観音ふし

拝み行く鳴海にいたる

鳴海

赤松

尾張・三河
国境

知立
猿投大明神

牛田

八橋

在原素平墓

業立寺

矢作の橋

さゝかにの蜘蛛にかけし八橋も今は名のみなかれ也けり
少しかたはらの小高き処に業平のしるしの石あり、
又二町まり東、松しけりたる野中に業平寺と
いふなんあり、かくて大路に出て行くやはきの

岡崎
御油

橋打渡り、岡崎の城下も過て、けふは御油
にかりねす

豊川稲荷社

一十二⁽²⁸⁾日けふは鳳来寺・秋葉山へ詣てんとて、町を
はなれ、東なるかたへの道より行、豊河稲荷大明神^(豊川)

新城

猿橋

長篠古戦場

鳳来寺

大野

などふし拝み、新城を過、ゆくく道の
右に猿橋といふなむあり、丸木の九尺はかり
なるか、岸高く打わたし底は千尋の限なう見る
めもいとあやうし、此ほとりすへて長篠の戦有し
あと聞ゆ、かとやを過、やかて鳳来寺の門ふかく
いりて、けはしき岩ねみちをよつるに、左も右も
寺く打ならひ、いたゝきの御堂にいたれ
は、殊にありかたく、五重塔など一しほ岩はの
上にそひへ所から物すこし、かくて此山の後を
下り一さとはかり経て大野といふ

一十三⁽²⁹⁾日またくらきより出て、いと心ほそき山路を行、

檜原・松原分まとひて、聞しらぬけものなと声立て

なくは、尚ものすこくあはれにもおほゆ、人住、家居

ともまれくなるに、やうくたとりゆけは、かこかなる

柴の戸あり、しはしかなたをとたつぬるに、あさ

ましき老人二人住けるか、いとねもころに

もてなし、これなん飯にと、とうてたるを見れば、

葛葉にあは・麦の粉なとましへり、かゝるものは

見なれされと、その心さしこそ深き限也けれ、

天竜川

かくて行くやうく天竜川のほとりにいつ 此所にて陰陽石
一つひろい得る

(29)

東武三至、スギヤはしきくまや
源兵衛といふもの、左にまかす 此河はやきことはかりたとへんかたなし、

またき渡舟にのれは

水馴棹とるてにつかもなかりけりむかひの岸にさしそ留ぬる

けに夢のこゝちして、いかに渡守のなれぬるわさかな

とおもふさへあやうし、それより秋葉山の禁ちかく

いたりて、あふき見る峰 わけのほろみち
五十町と見立 いとけはし、さはと

分のほるに、かさなる岩か根の道としも、深き木隠

のみたとり、やうく五十町はかりへて権現の御社あり、

いとちたたく造りて尊さも一きはなり、ホトリ 辺に

ケツコウノ心也

観音堂 彫物手をつく
し極彩色 などみゆ、やかてけはしき九折

を下るに、一里はかりへて坂の下といふに至れば、鳥

井あり、此かたをなむ此宮路のおもてといふよし

一十四日山のかげ道ふみならしゆけは、いぬ井といへる

町あり、小天龍川舟にてうちわたり、又山道三里

はかり森町といふもすき、とかく野路山辺を

行く、やうく掛川の城下につく、爰に

大庭何かし 代助といふいとるき家に
諸君子の古筆など多し といふ風流人あれば、

そかもとにて酒ともくみしろひ、此方の友とち

長井何かしも画かきなとあそひて日暮ぬ、今

夜は此ほとりにやとる

長井某

大庭某

掛川

森町

小天竜川

大居

坂下

観音堂

権現社

秋葉山

日坂
石川為藏

(30)

一十五日やうく日坂にいたる、石何かしといふ人

有、此みちに心さし深かりければ、一くさこひけり、

それより新田・菊川を過、坂の峠に

なれば、小夜の中山遠く見ゆ

名に高きそなたのかたを打見れば霧立隠す小夜中山

又少しゆけは、富士の根雲にまかへり

山に山かさぬる雲の峰としも驚はかり不二の高根は

やかて平けきみちをゆけは大井川也、

見のへたる向の岸は、いとはるかに見ゆ

大井川いかななかの早瀬さへ霧をしともに立渡らなん

またき、川越 シといふものをしてこへゆくに、

いと早き瀬の三処まであるは、見るめも恐ろし

けれど、とかくする程に渡りつきぬ、これより

駿河の国といふ、いつしか島田町、とち山、

三間屋を過れば、左のかた多ほし山といふ有、

そのかたち似たりしよりいふめるか

旅ころもきてこそ見ゆれ烏帽子山木々の錦もぬさにさるらん

夫より藤枝もすき、やうくゆく、けふは

丸子にやとる

一十六日つとに出て、さはたりを過、安部川の辺

(31)

左に風の森を見て

安部川

丸子

駿河国
島田町
烏帽子山

川越

大井川

新田・菊川

紅葉はの色こき時は木枯の森の名にゝぬ陰を見すらし
安部川打わたり、市路過るとて、しつはた山
見ゆれは

府中

おるかとして安部の市人なかむらんしつはた山の木ゝの錦を
それより府中の城下町なかく過て、やうく

宇津山

岩原・ひらかはらをゆく、宇津の山左に見へけり、
現^{ウツ}にもと聞へし昔さへおもひ出けれど、一首も

江尻

三保の松原

えあらず、やかて江尻の駅^{ムマヤ}を過れば、清見
かた遠く洲先はなれて、又三保の松原
のけしき富士の根いとさたかなり

旅衣はしめて三保の松原や名たゝりまさる不二の芝山

清見寺

すゝき島・よこすかの松原を過、にこり沢を
わたり、やかて清見寺に詣、しはし休らひ、

久能山

ふりかへり見れば、久の山もはるかに雲

興津川
薩埵峠

かとのみおもはる、それよりおきつ川打渡り

倉沢

さつた峠を越、倉沢に下れば、右は海

辺ちかく、苫屋のけふりあらはに立なひき

油比

左は又不二の嶽見えけり、かくて舟か島・油井

蒲原駅

などやうくゆきて、蒲原駅も過

(32)

富士川

いつしかふし川にいたりぬ

今も尚残る暑に雪消て水かさそ増る不二の芝川

富士山

一十七日またき出て、富士の山を見れば、高根は

雲にそひへ、禁は霧にわかねと、先登り見ん

とて、町の半より左にいらて、小河打越、

祝野の原をゆく、おとろ藤なとしけりあひて、

四方のしるへさへわかたねと、かの嶺をのみさして

行けり、足高山のかいをすき、七さとはかり

経て、須山くちといふにつきぬ、土屋平^{ツチ}太夫

須山口
御師土屋平
太夫

といふに御師をとふ、御師広前にむかひ

登山の人く六根清浄祓清め給へなと声

打して、幣帛いたゝかせて心も清くしう、これ

より合力といふものを先達として、又祝野

十文字原

なる一本薄ふみわけて、一里はかり行は、十文字

原とといふ家あり、少時^{シゴシ}休らふ、又一里程

駒返

のほり駒返しといふ、また此比の、のこり

ぬる暑さ堪うければ、水さへくまほしけれど、

岩の雫をたに見す、かたへにいちこといふ

草のみともつみとりてすさめり、それより

やうく分のほれば松檜など、こゝかしこ生

(33)

立て、さかしき道を行く、一里はかり経て

第一合といふ不二浅間御社あり、これより金

第一合
浅間神社

剛杖又二便不浄除の御守札などをうけて、

胎内くゝりいふ岩穴を過、日も斜なれば、少時

休らひ飯などものして、先達に

したかひ、神名仏名高らかに唱へて行に、
笹原のみ生つゝきたり、それもわけ果ぬ

れは、おにあさみてふ草生しけれり、また
いたとりなといふくさくわけのほれは、
沙ばかりそ見ゆる 焼沙にて其色著く
大豆つふ計なり 程なく第

第二合御室

第二合の御室にいたる 御室ヲおもると唱、横ニ穴ヲ掘て柱を建、
出入口は引戸ク、リ也、少時休らひて、天氣の程を
考也、若風雨少しにても発時は、一足も登る事あたは
す、人など木葉の如くフキチらすといふ、いとあやうし こゝよりは足高山

も目の下に見えて、かなたこなたのなかめいとよし、
いつしか空飛鳥の声も絶て、暮深くなれば、
松の日ふりはへて、尚御名を唱ふるのみたよりに、

第三合御室

又ひとさとはかり登れば、禁に一村雲のわくと
見えしか、俄に風あらく雨さへふりくめれば、
とかくして第三の御室に入て休らふ ク、リ戸を潜
む、閑ミイル也
やかて晴ければ、又立出て第四の御室につく
単もの重ねに布子てふもの
禁にてかりて服し、尚寒し 秋風身に通りけれと尚たゆみ

第五合御室

なく登りて第五合の御室になりぬ、夜も
更行て、月のみ澄渡る空のけしき物すこく、
遠近も唯雲のそこにて、見るめのしるへも
わかず、いかなること世界にや有けんとおもふ
不二の根や雲に宿かる心地して月をあるしの心成覧
かくて一時まりもねしかと思ふに、さとふく嵐に

第六合御室

おとろかされて立出行に、やうく六合の御室也、
月はほのかにかたふきて、見のへたるかたに宝永山
それと見えけり、尚分のほる空は夜霧

第七合御室

ふかく、いとこゝろほそきに、道の末に火ひとつ
見えけり るをあやし、なてふものゝなすわさにやと
思ふに、先達し禪定人のもてる火也といふ
人あれば、かへりて心もすゝむはかり、あしを早めて
第七合の御室につく

一十八日夜も朗に、鳥がなく東を見れば、あし
ひきの山かつらかけ渡して、いとよし

なへて世はまた夜深くもほからく明る間おそき不二の曙
遠つ海つらの末よりあかねさす日のかゝやく計、
さしいてしか、けにと打おかみて

さしいつる日のもとつてふかけを尚あふくも高き山の名そかし

第八合御室

なといひて、四方を見渡すに、目路の限もなく、
あしもとに立まふ雲の色のみ見えつゝき、
ふみともあやうければ、よそめしてはと、菅笠
ふかく着なし、我前はかりにめつけて、
ゆくく第八合の御室につく、爰は巖たゝみ イハラ
なして、道のほと尚くるしく時しらぬ雪
こそけに、ふりつみたれば、あつかりし昨日の
余波 ナヨリもはた冬めくやうに、袖さへ氷るはかり

たへうけれど、やうく岩かたに手かけなと、
 又杖にものして第九合にいたれば、なを
 さかしき事たくひなう、寒さまで凌^{シメ}く
 へきやうもあらず、かくていとおもひわつ
 らへと、本意^{ホヒ}とけぬもくちおしければ、又思ひ
 直して今少しのほどゆきてんとて、八町
 はかりよちのほれば、こゝこそいなたきの
 限なりけれど、おもふそいとこゝちよし
 そめいろの山ともいはめわけ登る不二の高根の高き限りは
 しはしまよひ見れば、砂地二尺はかりひらき
 たるうちに、金剛水とて清水あり、分こし
 桮にこそ見つへきを、此高根わき出るぞ

(36)
 いとあやしきまてにおもほゆ、それより内院
 中央とあかめ奉りけるは、則大中窪といへり、
 此中窪の周り五
 十町底見へす、又剛力なるものゝいふやうを聞は、
 昔孝靈帝御宇、淡海の地さけて
 湖となりし時、此山を吹出しけるといふ
 よしなれば、今もその国人こゝに登れば、
 御山おたやかなりと、しかく語るさへ又誠^{マコト}し
 くもおほゆ、扱御八を
 めくらはやと、尚かの男をたよりに
 ゆけは、鉄もてつくれるくさを伝はせなど

して、巖よちあかり峰く拝みめぐりて、
 此山の西にあたれる大宮くちといふにゆく、大日
 の御堂あり、大さ九尺はかりと見えて、
 赤金の瓦もてふける也、爰にてしはし飯など
 ものし、
 寒さ巖寒にまきりていとたへうく、茶を煎てうるもの有、初め一口はよ
 き吞かんなり、二口めはゆるし、三口めは冷やか也、又八合の処より
 人面黄をなす、手足なを如此、又見めくれは唐金にて
 いかによと問へは、爰は冷天也といふ、
 作れる御仏の一丈はかりなる座像三体あり、かゝる
 高山にかゝるかたちの大なるを、をさめ奉りしも
 又人力の力のみかはとありかたくそおほゆ、又かの
 御仏の玉体所くわれそんして有けるを問は、

(36 頁上 部注記)

「此御山登る道四ヶ所あり、大宮口・吉田口、是を表口といふ、スハシリ口・千軒く
 ち、是を裏山くちといふ也、吉田口ニハ風穴といふ有よし、又右なるなか、鳥井高
 さ五丈はかりなるに、昔より額数ヶ度懸つるに、夜の間に落よし、其後月舟といへ
 る僧 三界第一山と書てあければ、今尚存せりとぞ」

(37)

たへうき寒しのわさといふ、
 焼物は寒にシミ割事多けれど、
 唐金のわれしはいと珍らし
 なをゆくほとに、俄に雲わき、風立て雨なかつ
 かことふりければ、かくてはくるし、とくいそけ
 よといふに、右はかの大凹^{ナカクホ}とて底のはかりも見えず、
 やうく左のかた、山根をたとりて第
 八合の御室まで下りぬ、やかて小雨に成たれと、
 更に雲霧のみ立渡りて、眼の前もわかつ、

いと心ほそし、さりともこれよりは、すへり道

とて 下回すへりみちといふは、此千軒口とすはしり口にかきれり、余はもとの道筋を下ルとそ、又此すへり山の八合より二合まで直に下り、宝永山と

いへるも此みちにちかし、はしめ此みちに臨むとき、下は二合ノ処まで一すしにしてかきりもなし、空は雲たちまよひて、ふみともおほつかなし、又草鞋を重ねてはき

一足ふみ出しければ、砂にすへりて五六尺下、砂中へひさまではまる也、又片足ふみ出しけるも、もとの如し、扱わらしはきかへの際は背中をせらし砂にすかりて片足はきかへくする也、いとあやうし

かの剛力にいさなわれ、たゝすへりゆくはひとあしも

ふみとめかたく、六里はかり一時にすきて第二合

の御室につきぬ、夫よりもとの道をたとり

老合の御室又浅間の御社なとふし拌み、

やかて駒返し十文字になれば、剛力にも

これよりはと別れぬ、おもへはくことくなく

登り得て、帰りしそいとうれしき限なり

ける、やゝくれちかくいん野といふにて草の枕す

一十九日此ほと、うらふれ出来めれば、牛に打のりて

ゆく、はたふりかへり見れば尚不二の嶽

印野

第二合御室
浅間神社

(38)

そひへて昨日の余波さへおもはれて牛にも後
向にものして

詠めやる心は跡にとめながら牛にひかれて遠さかりぬる

かくて三里まりなる野筋に、ひともとすゝき

生しけてのれるひとの肩さへ過るをわけて、

みしくといへる村にいたれば、これより

三島大社

下立^{ヲリ}て河のべを伝ひ、二里はかりゆき、三島

明神にまうつ、社大きいと工の

わさをつくせり、いつしか箱根の山

路にかゝれは一里の印とて松あり、初音の

ゴサといふ沖か原・みつやを過、笹原といへる

竹の下道も分て、山中ふかくやうく坂みち

たとりに、栄々といへる道心者なと物かた

兜坂
箱根

らひ兜坂を過、やかて箱根の駒に

着、くれふかく関も戸さしければ、今夜は此

峠にねぬ

旅衣うらふれゆけはあしからの関のこなたにやとりをそかる

右は山高く左は湖、遠く霧さへ立

なひきたれと波の音さたかなり

一廿日夜はほのくと明行にいととろくはかり

(39)

音するをなそときけは、関の戸ひらく

也けり、いさとして越行、湖のほとりさいの河原

といふになれば地蔵堂六はかりあり、

それより左の道御箱根といふにゆけは

大なる釜あり 頼朝公不二の牧狩の時用ひられし釜とそ、やかて少し

登り権見^(権現)の社に詣つ、これの別当

曾我兄弟のよしあり、それより下り

二子山

左にかゝり八坂といふを過れば、左に二子山 フタゴヤマ

とて同しかたち成山ならひてみゆ、やかて
猿すへり畑なといふを下り、又坂有

て湯もとにいたる、此ほとり出湯あまたありて
賑ふ、それより左のかた径伝ひやうく行て

塚原といふ村にやとりす、また日もたかければ
最上寺へ詣んとて一里はかり行、山道をのほ

れは、松・杉・檜木なども生しけりたるか、上枝ウヘツエ

いと高し、下枝はなかりけり、嘸サツ払ひたらん

ものとは見ゆれと、そのさま又めつらし、やうやく

廿八町はかりへてまかりつく、本尊観世音也、

御金印などいへる御守札いとありかたく世に

たくひなし、又かたわらの権現社も棟うつはり

(40)

なといろくいろとりたるうるはし、

すへて詣くる人さはなり、またのこりぬる

あつさもつよきに、とく夕たちのふりきぬれば

速塚原に帰る

一廿一日つとより田中の道伝ひ川あまた渡り

て三里はかりゆき、カウツに出、それより

大路ゆくくふりかへり見れば、小田原の城

一里まりあとに見ゆ、やかて右に海ちかく見えて

まへかは川・おし切・梅沢・しほみかうの新宿

など小磯を過れば、左に嶋立沢とていと
さひたるあとあり、またき大磯につく

かつきするいとまなみの大磯にわひつゝあまや世を渡る覧

行くはにふ川打渡り、藤沢の駅ち

かく道の左より江の島にとて五十町はかり

田中を過、浜辺にいたり、川越ものして、

入江をわたり江島につく、爰を金龜山と

いふ、鳥井打すくれは家の多くいと賑ふ、

又鳥井あり、下宮上宮などみな

こちたく拝み給り、少し坂みちを下れば

ふしの山又はるかに見ゆ、それより島根を

(41)

左にめぐり本宮・岩屋道といふにいたる、

岩穴ふかく、引坂のまたのこれをを

いとひもやらて、二町あまりゆけは弁天其外

諸仏あり、又胎内くゝりといひていとせまき横

穴にいれは、爰にも仏像多し、それよりいつ

れは、聖天石、魚板石、鵜島などいへる岩、海

中に見へけり、やうく日たけてもとの道

入江のほとりに帰りぬ

一廿二日けふは鎌倉の名所を尋んとて道の

案内するものを先達て立出つ、先龜公寺

腰越

こゆき明神
横手原

長谷観音

宿屋村

ふし拌みゆく、右はあらいそ、左は山なり、その腰をめくるに二里はかりのほとを腰越といふ、こゆき明神の社有、やかて横手原を過れば、日蓮のけさかけ松、虚空蔵御堂・星の井など、京岐社・はせの^(長谷)

観音などふし拌み、宿屋村を過、三越崎高德院大仏、後の山に天狗堂有、又此山の奥にあたり寿福寺とて五山の第三有と聞ゆ、あきない明神の前をすきいたよせ川の橋打越、はせ小路をゆけは

道の左、田の傍に盛久の旧あとあり、やかて八幡の馬場筋に出、此末由井の浜より鶴か岡まで十八町はかりなるか只一筋に見えて、並木の松も作りたらんやうなり

平盛久旧跡
由比ヶ浜

鶴岡八幡宮

幾世も絶せぬものは鶴岡の松を舍の風の音かもゆけは左に尊氏卿の館あとあり、やかて^(琵琶)ひは橋を渡り、鳥井打すくれは、左に人丸ひめつか、雪の下とも、たんかつら^(段葛)などへて町家あり、しはし休らひ又鳥井深く入は、御池ありて中に弁天社あり、はしを渡、仁王門を過れば、右に大塔・若宮・十二神社・^(イシ)鐘楼あり、左は神楽堂・経蔵有、石の壇上打

(42)

登れば、右に鶴亀石・六角井など玉垣の内に見ゆ、左には愛染堂あり、楼門打過れば則御本社なり、そのこちたきは更に四隅はみな廊造りになん、それより丸山稻荷社・

今宮頼朝社・仁王門を過て、左に北条家又土佐坊家跡あり、すし^(なごの)かい橋打渡り、やかて大倉を過、右大将何かし君の館跡、又その近辺山陰にその君のしるしあり、

(43)

それより^(雀橋)あから天神・杉本観音浄好寺などにまうつ、又御社の前より若宮小路を過、隠井有、やかて綱引地藏などふし拌み、十二院門前より案内人に別れ、

ゆくく聖天坂・小ふくろ坂を越れば、右の山辺に建長寺てふあり、いらか高く見ゆ、又明月院といへるもその奥にあり

とそ、やうく五山の寺々詣終りて、二里はかりゆき戸塚の駅を左に見て

建長寺
明月院

戸塚

吉田

川崎

吉田てふ処に出、それよりカシヲ・タコヤ・^(白瀬)シナノ・サカヒ木、本町など過て、新町の駅にいたる、橋うちこゑ追分を過、金川町の長きを経て川崎につく

一廿三日あさまたき六郷の^(此所より一里上矢口ノ渡有、昔の道と云)川舟にて

雑色村
大森村
鈴森八幡

玉川の打渡りさうしき村を過、大森村に
末なり
休ふ麦わら細工
名所なりそれよりゆく／＼左なる鈴森八幡

池上
本門寺

などふし拌み、又西にあたりて池上カミ 本門寺
見ゆ七堂方ラン
日蓮宗也扱右は海原はるかに見のへたり

品川

安房のみさきと聞ゆ、やかて町つゝき品川

妙国寺塔
増上寺塔

にいたる、妙国寺塔・増上寺塔高く

(44)

カスカニソヒエタリ、末にはいりくる舟さほに

沢山ナリ

此処いと賑ふ、それより高輪をすき

高輪

三十間堀
豊屋重衛門

今宵は三十間堀にやとる、
入のもの也 爰は御国ノ抱ノ地也

芝明神

一廿四日芝の神明にまうて、それよりやかて大門

増上寺

に入は、左右末寺多し、又二町まりゆき、松生

茂りたる陰に山門有、増上寺といふ、深くいれは

神君のみさゝきなど玉垣こちたくかこひ

なせり、かろうして広小路へ出て、

やかて愛宕にのほれば、四方に蔵町賑ふさま

浅草センシ堺まで見ゆ、下りてゆく／＼

御中屋敷をうかかふ、此処我古郷人のしるへ

あり吉松平四郎 藤井互右衛門
門弘中源右衛門など也日たけて三十間堀に帰る、

深川八幡

一廿五日永代はし打渡り、深川八幡にまうつ、

ゆく／＼栄螺堂・五百羅漢など又

亀井戸天満宮

亀井戸天満宮に詣れば、反橋高く作り

ツクリ

さま尚尊とし、やかて梅屋敷にまかり

京橋

日本橋

神田

上野広小路

不忍池

弁天

見れば、臥竜梅とて枝なく生さかえた
れは、花のころさそとこそおほゆ

一廿六日京橋・日本橋など打渡、神田にいたれ、

聖堂棟高く見ゆ、それより上野広小路

(45)

忍はすの池・弁天などにまうつ、やかて東恵山

黒門モンを過れば、右に小高く山王社あり、尚山門

を過れば左に大仏鐘楼有、夫より

楼門にいれは、中堂いとこちたし、

うしろに東照宮御社又法親王御館いと

こゝ敷も見えけり、かくて両大師その外、不寝

権現巨々也、ケツコウノ心也などにまうす、

一廿七日つとに出て、西御堂にまかり、辺より

川舟をさして上れば、浜の御殿はるかに

砌の木立など見ゆ、夫よりつくたしまを右に

見て、数の橋下を過、右にみめぐりを見

渡し、やう／＼隅田川にいたる、

カハラ

冷さをとめこそきつれ行水のすみ田河原の秋の夕風

これよりあかりて、みめぐり稲荷社に詣、やかて牛御前

又秋葉社にもうてゝ、辺の茶屋しはし休ふ、

夫より待乳山を越れば、後にシメジカ原

といふ、爰に鏡か池とて昔梅若君の母かの君を

したひて終に此処に沈しよし、里の子ら

かたり継けり、やかて梅若の宮にまうつれは
関屋のさとかく見なして

(46)

両国橋

隅田川吹来る風の冷さを関屋の里にとめもやすらし
又舟にもものして、両国はしまて帰る

一廿八日スキヤ御門を過れば、此処わきて諸の

国の守の館あまたつゞけり、やかて飛鳥山など

かれこれ見めぐり、日くらしの里にいたる、爰は名所にあらねと

冷しさやいづくもおなし旅なれば木のもとにのみ日暮しの里

三田
荻生徂徠墓

一廿九日三田をすぎ、寺町にいたる、徂翁のしるし

魚籃觀音
富士見坂
目黒不動
祐天寺

の石をとふらひ、又魚蘭の觀音ふし拝み、不二見

坂をこへ、目黒の不動にまうつ、それより祐天寺、

東海寺
海運寺

御殿山を過、東海寺・海安寺

などをとふ、此庭楓いと多し、また染出ねと

その木立よしありけに見ゆ

泉岳寺

秋山の下てる色もなかりけりまた色つかぬ若かへてかも

やかて仙学寺にまうつれば、義子の塚同じ処に

ならひて、そのむかしさへおもひ出けり

浅草

あはれさを今こそ思ひ出にけり後れ先たつ木々のもみしは

一廿日浅草にまうつ

あら尊ふと御法の庭の秋風にさはりの雲も吹やはらはん

友割れ

一八月朔日けふはなれこし友同士 長井・上田・磯島や

両国橋

に別るゝとて、両国はしまて送りぬ

吉原

(47)

友にさへ立別れなはうき旅の心ほそさも誰にかたらん
などいひて余波尽せねとかひなし、それより

西東の下馬といふにて、あまたの国の守のつとひき

玉ふをうかかふ、そのさまいきほめくもおそろし、

それより道をかへて、よしわらてふ青楼のさま

せし見はやと、まつ大門にいはは、高楼つくり

軒をならへし門、千軒はかり謡まふさまいと

賑はう、昨日まではヒイトロてふもて、軒ことに燈炉

てふものして火なともしけるか、けふはた俄おとりに

ひきかへてつとひ来る人さわなり、扱たはれめゝくもの

美しき絹着てあゆめるを見て

かりの世にかりのやとりの一夜さへかりそめにたも心ゆるしそ

一二日けふは雨ふる

武蔵

一二日朝はふりすきめと、夕つけて雨やみければ、武蔵

にゆく、今ははてしなきとも見えねと、なを草

しけく月さへしはしなかつて

行末の秋をそ思ふ三日月の光ほのめく武蔵野の原

若林
榎本某

一四日若林といふにつく、榎本何かしとて、我郷国

の君、此近辺めぐり玉ふ時は、此宿に休らひ給ふ

けるよし聞ゆ、かくて將軍の御狩し給ふ

(48)

けるこかねか原てふにゆけは、四方の見わたし

いとよし、生たつ草陰には鶉などの羽音し
ける又おかし

ねくらとる野らそ淋しきまさりけり其名も知らぬ鳥の羽音は
それよりやうく日くるゝ比、霞の関を過るとて

関の戸に秋は霧さへ立へきをなとて霞の名にたゝるかも
やかて例の宿につく

多摩川

一 五日けふもこゝかしこ見めりて、やうく玉川の

辺にゆけは、初夜近く今宵はこゝにやとる

衣うつ比は淋しき玉川の里の秋風いかに吹らん

桜田藩邸
竜士屋敷

一 六日つとに発て、桜田の御屋敷又竜士屋敷といふに

ゆきけり、又何かしをたつねて一日あそふ

一 七日三十堀より舟にもものして行く三谷堀といふに

つく、それよりは陸をたとり暮かけて帰る

一 八日相しれるものともいさなひ、両国のはし打渡

深川

深川のほとりに逍遙す

一 九日明日よりは尚あつまの果にまてとおもふ

こゝろむけなれば、爰もとの余波おしからん
とのみおほゆ

(終)

みちのく行

表紙

みちのく行

②

○はてしもしれぬ

古きとを出て八十日に、みちのくの。

おくのほそみち、心ほそまよ

③

(文化)年

文化二年一乙丑八月十日、朝巳刻、東武なる

江戸三千間堀、片山何某のもと出立、

今日は二百十日故、曇天小雨 ○卅丁行、

両国はしを渡り、一り八丁行

逆井ノ渡り有、此所迄町家つゝき也

一り半、市川、此川坂東太郎ト云とね

左り行コト七丁計ニシテ鴻台

○安国山総寧寺 古戦場ノ地也

山門、昔ノソウ 中門、クワイ楼有

甚天寺也、○古戦場鐘懸松有

地中ノ羅漢木枯タルニ芽出ル有、

其外古跡多

中門ヨリ左リへ凡十丁計行

○真間山護法寺 法華宗

④

地中ニ二葉紅葉有、楼門有、

此寺モト真言ナレトモ、日蓮上人ノ法門ニ
キエシテ、今ハ法華トナル故、二ハ紅葉
ハ二宗ノ心ヲ、ソナヘタルモノカ

一リ

八幡 駅中ニ、○八幡宮有 ○井八幡ノ八幡

此森中ニ人入寸ハ失ス、半道計行

八幡宮
八幡不知の森
正中山妙法蓮華經寺

○正中山妙法蓮華經寺有

五重塔有、前山門、楼門有、

釈迦天仏有、諸堂多シ

二リ

鎌谷 宿銚子や利右衛門

一十一日早朝出立ツ、宿出ヌケ鎌谷ノ

原 草ホウくトシテ 此所分レ道有リ

道しるへに置たる石文の裏に

一ひとつ屋へ人を吹込枯野哉 魚文

⑤

白井・大森

二リ

白井二リ八丁、大森一リ六丁、木戸

△大河有 十根川也 問屋四郎右衛門

此所より舟ヲかり請ル、銚子迄賃九百

船頭やハたや善吉、四リ行、薄暮

滑

なめ山 河岸着、此ヨリ八丁行

滑山観音

○なめかは山観音参詣、坂東廿八番也

源太

これより源太かしへ出ル 宿武蔵や兵二郎

夜舟

夕飯認後、夜比より又夜舟にて下ル

津宮 一十二日未明、南方津ノ宮河岸着 十八丁

香取大神宮 ○香取大神宮参詣、南面

(丸木島居有 三天)

楼門有、諸堂多シ

ハ是ハく香取ハ松ノヨヒ所 (苗穂) はせを

金剛宝寺 ○香取山金剛宝寺 参ル

御本地観音霊場也

三重塔有 (破) 御朱印地也

潮来出島

一リ半計北方渡リ、いたこ出島着
潮来ト書、初テ苅干稲ヲ見

イタコ

○此間ニ新島十六有、都合三千石

豊作ト見ル

東照宮御開立之地ナリ、

○問屋有、魚人家多、遊女屋有、

尤、御免ノ地也、クルワ内広シ、二リ下リ

大舟津

大舟津着、湊ニ丸木戸有、十余町ユキ

少小高キ山中ナリ

鹿島大神宮 ○鹿島大神宮参詣、町家多

前戸有 (松皮口)、楼門有、西向

四丈二尺

表裏ニ、二王ノ如キモノ六体有、各

⑦

首髪逆立テ、右手ニ槌ヲトル、尤

大者ニツ、面ニ立、大小四者、門裏立、

(異例)

其形イツレモ、イレヒニシテ作仏ト見

大神宮社

○御拝殿 表向 ○御本社 真北向

二丁計行、奥院

○大神宮社有、前戸、廻リ玉垣

ハナハタケツコウニシテ、モノサヒタリ

一丁行、下リ又二丁

○御手洗有



渡六間、横十間計 冷泉淨水湧出

右行コト三丁ハカリ

○要石 玉カキ有 石ノ御柱ト云、又御座トモ書

ハヒタチナル石ノ御座をミテモシレ

茨しける山を尋て

ハ尋かね今日ミつるなり千世ふる

深山のおくの石御柱を

是ヨリ平松林中、丑寅向行コト十丁余

⑧

結神

○見目明神 小社有

此神鬼神来レハ、造ケ知シメ玉フ、

御役ヲカウフリ玉フヨシ

又 カヤ原ヲ分テ 凡十丁計ユキ ○此間松切口ヨリ芽出ル

○たかまか原有

鬼神御退治ノ地ナルヨシ

二丁計右ニ少シ小高キ岡一ツ見、

則登リ見ハ平ナル岳ナリ、案ニ昔

高天原

見目明神

要石

天守ナトノ旧跡ニテハ無之歟、里人ニ
問トモシラス、
三丁計ユキ

末無川

○スエナシ川、小流ニシテ上下ナシ
昔、御鋤ヲ清キ玉ヒシ所トソ
七八丁計向越

鹿島浜

○鹿島浜 東北諸海上マンク
タルアライソ也

島ノ名ハ有リトトモ陸地ツ、ク

⑨

銚子ノ浜マテ、横一リ、長サ
九リ、形曲帯コトシ

御馬場筋ノ半ナル、東方三丁計ユキ

○御忌様、カンツカエシケル女在ナリ

出生寸、家上矢アラハル、ヨシ

同ク五丁計下リ右ニ

鎌足社

○大職官鎌足社アリ 小キホコラ

同左リニ

○あいろこいろの社有、松林内也
ハ常陸なるあいろこいろの宮とひて

鹿なく里のはてとこそしれ

又、大舟津ヨリ舟ニ乗リ、夜半過

此間七リ

小舟木

小舟木
小舟下云所へ着、河南也 舟泊リ

銚子本城 一十三日四寸、銚子本城河岸ニ着

銚子川

△銚子河

（鬼敷川）（利根川）（荒川）
○信州絹川 ○千根川 ○荒浦
各大ナルモノ三流小流不知数

⑩

此河日本第一也、水含コト夥シク

シテ川口狭ク海ニ入故、銚子ト

名タルカ、初東流、末ハ向北海入也、

案ニマコトニ江トモ可云モノ歟

本城・大八

本城

天八木

唐子

今宮

高野村

宮・唐子・今
新・荒野村・
村・飯沼

荒沼

飯沼村

此所觀官露場有
左三印

巴嶺寺

○飯沼山巴福寺 坂東第廿七番

前樓門有、多宝塔有、諸堂多

飯貝根

飯貝根

いづれも村ノ名有といへとも

人家町をなし、三千軒トソ聞けり、夫より

向北行コト□余町ニシテ松岡ノ内

和田不動

○和田不動

（石段）
石旦ノ左右龍頭ノ口
ヨリ泉水出ル

⑪

左ニ当テ川口なかれ、眼下見ル、

浜ニ魚父家千軒有、夫ヨリ

山続沖ノ方へ出ルコト七丁計ニシテ

白紙明神社

○川口白紙明神社有、沖臨メハ

夫婦ヶ鼻

夫婦ヶ鼻

目途カ鼻 左リ行コト五丁計ニシテ

小高所ニ、高サ四五丈計なる柱立タリ、

汐満来レハ、柱頭へ白ギ吹貫上テ

海鹿島

君ヶ浜
犬吠

長崎
洲崎

外川

大納屋次郎
右衛門

相図トス、無左寸ハ、川口浅ク荒津ナルニヨリ、入船不叶トソ

夫ヨリ黒はへ、少シ浜有、あしか島(黒生)

君かはま、犬ホへ、此所巖窟有(犬吠)

高サ十丈計ノ内洞貫ケリ、長崎

須崎沖方へなかる 目途カはなヨリ 夫ヨリ
凡 二十丁

廿丁行

外川 (外川) 此所平ヶ年前迄ハ日本
十川 第一狼場ニテ、中二モ

大納や次郎右衛門などいへるハ、木州ノ(新州)

産ニシテ大富ケルトソ

木州侯ヨリ、対刀騎馬打モノ

など御免ノ由聞ケリ、其外肩ヲ

ならへんとしける魚父あまた

ありて、日ごとに千金ノ商アリテ

繁茂なりしとぞ聞けれとも、

星霜ノうつり替けれハ、今ハかれ

木の礎石垣など有てあハれ也、

かやうおとろへけん前評ニハ、伊勢

大神宮ノ御札など海中ニすて、

或女人禁せいノ所なれとも、いつしか

猥りニなりなとしけるにやと

老父のかたけり

川口ヨリ北ヲ臨ハ、鹿島ノ御山遙ニ

外川

見、此間九リ 又目トカ鼻ヨリ

十川ノ間凡五十丁、間入江有、或鼻有(外川)

ノコノハノ如シ、岸高ハ五丈、ヒキ、ハ

三丈、屏風立タルコトシ、東北海上

マンノトシテ、荒波常風強ク、

あらなみニむらかるかもめハ小蝶の

たわふれ似タリ、西南如長堤ヒ、キ

山上松樹青々トシテ、不双ノ絶

景なり

荒野村名主信
太権右衛門

東武ノ添書アリテ、高野村ノ名主

信太権右衛門殿訪けるに、此ホト

寄亀

〇〇寄亀海上ヨリエタリケレハ、珍敷

モノナリト云テ、江戸表へ注シンシ

ケレハ、仍命二三日前ニ東武着

登ケルトソ、其形別ニ画図有

昼・夕飯などノ馳走有之、夫ヨリ

本城へ出、帰帆急ケレトモ、折

節風アシクシテ、同所近江や和介へ宿

〇本城ニ遊女有、夫ヨリ浜伝ひ

廿丁上り、松島ト云所 同ク遊地有

一十四日朝五寸乗船、風アシケレハ

漸酉刻、息栖カシニ着、此間六リ



「寄亀の図」(安部家文書574)

息栖大神宮

○息栖大神宮参詣

△鹿島・香取・息栖ハ関東第

三社ト云

□有、御殿西向、松林ノ内也

社坊有、真言

雷鳴大風

初夜比、舟乗り順風相送ルコト一リ
半計ニシテ暗夜如ク空力キ曇、雷鳴シテ

俄大風雨来リ、川中ト思シキ

カヤ原ノ中ヘ乗込、イカントモスヘキ

やうなく漸帆下ケ、ホウセントシテ

風雨厭ヒ、甚アヤウかりけるととき

至信ヲコラシテ、心中ノ神仏ヲ念

ケレハ、コツ然トシテ、沖方人語聞ユ

(16)

首廻ハホトナク、一艘コキ寄タリ、

是ソ能案内ナリ、ゴナンナレハ、各

エモノトリく、水サハトシ、エイく

声ヲ揚テ、船頭ニ力ヲ合ケレハ、

ヤウく船浮ケリ、心得タリト

コキ出セハ、再ヒ蘇生ノコ、チシテ

シタリくト、ノ、シツタリ、暗サハ

クラシ、荒波ハ舟ヲクツカヘスカト

アヤマタレ、行ヘキ方ハ知るトモ、コ、ヲ

(先述)
センド、押切テ、里程ニリ計モ行

新島

(17)

カシ
河岸近ク見渡レハ、尚モ力ヲ出テ

ツイニ新島ノ内ヘソ着ケルコソ

偏神仏ノ加護ナラメト酒買テ

各無事賀ス

一十五日曉天、風雨晴快ニテ早朝

舟乗り、潮来出島ヲ右ニ見テ、卅丁

計北ニ登ハ霞浦ニ到ル

タツミ、イヌイ
自巽到乾コト九里、自良 坤 三里、

狭所或一リ二リ尖ニ形如帶、

山ノ出鼻ヒツシサルヨリウシトラ方

一リ計出ル也、誠ニ湖ニコトナラス、

上ハ筑羽山ヨリ流テ、ミナの川(永無川)の

末也、歌に恋そつもりて渚と

なりぬると詠アリシハ、此霞浦の

ふちなりしトソ、ミナの川といへるハ、

筑羽山上ニ、男体山・女体山トテ

(18)

高根ニツ有ケリ、其間ヨリ落水

シタ、リノ如シ、シカレトモ末至テカ、ル

大淵トモなりしことかなと

みへる、恋の心によせて詠出しそ玉フ

けるにや、悉情なゝめならずと

おもほへける

順風真トモニ帆上テ午刻過

里テイ十里

土浦着、土屋安三郎様御城下也、

土浦

九万八千石、東武ヨリ水戸街道ナリ、

水戸街道

東北向行コト十丁計 ○善能寺

善能寺

弘法水

弘法水トテ冷泉アリ、又十丁行、

冷泉

追分道有リ、是ヨリ左リ北方

19

筑波道

筑羽道伝ひ二リ行、（藤沢村）富士沢村

法雲寺

○天目山法雲寺、禪宗也、御朱印

勅願所ナリ、開山堂結構也

開山ハ中法国師、一本地なるヨシ

参詣の折節、因果経御講

訳尊とくおもほへて、御導師を

尋けれハ、今の住僧要津禪師トソ

是ヨリ本道へかけ通らんと、徑

ヲ伝ひ行タルニ、ホトナク大迷テ

田ノアセ、又ハ提ナリ、メクリテ

十八丁計行、漸本道ニ至ル

此寸雷鳴大雨、暫休テ夫ヨリ道をはやめ

雷鳴大雨

北条

二リ**北条**至ル、此所昔北条

家在城ナル由、夕陽西ニカタフケ

トモ、爪先登リ、山道伝ひ一リ、

筑羽ノふもと至ル ○石ノ戸有

勅額 **天地開闢筑波神社**

右十丁行

六所大神宮

○六所大神宮、山ノフモトニ有

○右唐金三王一体有、夫ヨリ

○黒門有、已前焼失、今仮也

此門ノ根木ヨリ登所町家ツ、ク

六丁目ト云、夫ヨリ登り一丁目

結束武左衛門へ宿

21

雷鳴大雨

此夜雷鳴大雨

一十六日早朝登コト五丁計

○観音霊場有

観音霊場

十四間四面荘厳、彫物結構

外額

御内陣額

筑波山

当伽藍署

征夷大將軍

從一位左大臣

源家光公御

再興也

坂東廿五番

筑波山大御堂

おふみ堂

かねは

筑波の音にたちて

かた夕暮の

国そこひしき

○前ろうかはし有 ○左二鐘楼

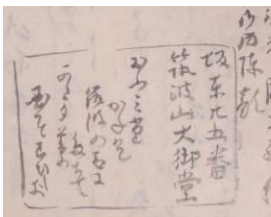
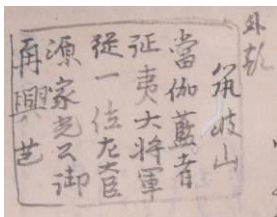
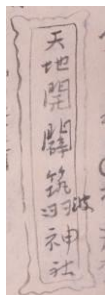
○両体宮御社有

○三重塔有、銅フキニシテ
甚結構

○六角堂有

○大仏

○諸堂多、難尽筆略之、其外



(23)

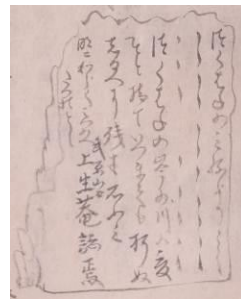
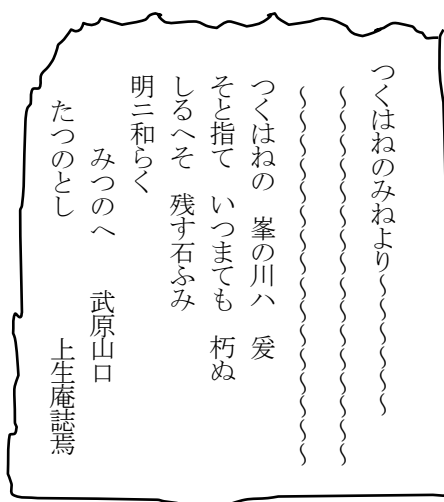
名所多ケレトモ不能見尽事略之

夫より向東登八合

○みな男体山の川有、女体山間ヨリ落ル水

したりの如し、此所石文有

石文



武原山口

上生庵誌焉

都合登り五十丁、茶店有、餅ト

茶店

餅

豆腐田楽ヲ買ナリ、是則男女

陰陽ヲヒヨウスト云、夫ヨリ

又東ニ登五丁計、絶頂至ル

筑波山

筑波山

男体大権現

○男体大権現、御末社十七ヶ所

ス、メ堂ナリ

御社坤向也、王城ノ鬼門除トソ

此山上ヨリ臨所 秀タルモノ一ツモ無

遥白雲中未申ニ当、不二山見ル

此方ニ東武当ル

西ニ信州浅間嶽

○日光山戌亥 ○仙台真北当ル

○霞浦辰巳当リ、眼下見ル

夫ヨリ又茶店ノ所へ下リ、平地如ク

五丁計行、又五丁計登ル

女体大権現

○つくは山女体大権現 御社西向

未社十六ヶ所有

是ヨリ遠見 ○銚子辰当ル ○カヅサ

上総

巳 ○安房真南 ○江戸未申

○水戸丑 ○此方眼下ニ真壁村

人家見、平四郎出生地ナリ

真壁平四郎

(24)

△御祭日 四月朔日、霜月朔日

神輿

祭事寸、男体神輿ホコ石ノ上ニ立、

此石男体山ニ有 ○女体ノ神輿ハ、

カノ山上陰石ノ上ニ立ツトソ

夫より後へ下向道

四

○宝珠嶽ソサノウ尊社有

三

○コハラキ社ヒルコノ尊

第二

○ワタリ社月ヨミ尊

第一

○稻村社天照皇大神宮

右ノ社ハ筑波両体宮、男イサナキ尊

女イサナミ尊ノ御子息神也トソ

(25)

夫ヨリ、下リ

聖天社

○聖天社有

此所ニ竜宮城ヨリ
寄付ノ鐘アリ
渡リ三尺五寸、高サ
五尺五寸、廻リ一丈
五寸、六観音イツケタリ

夫ヨリ下リ四十丁計ニシテ

十三塚小畑村

此所ノ茶店迄荷物ヲ廻ス、
チン百六十銅

小幡村

八丁行、おはた村一リ、片野二リ

府中 ○国分寺薬師堂参ル

府中
国分寺薬師堂
竹原

一リ八丁、竹園、長嶋や利兵衛泊

主人心有テ寄人也

一十七日朝五寸出立、片倉 ヲハタ

堅倉
小幡
長岡
水戸

長ヲカ、水戸下町一丁目、宿たちはらや利兵衛

一丁目町ノはつれより、北ノ横町へ

二・三丁行、御城ノ水門過レハ

見付有、夫ヨリ西ノ方通り

屋敷多シ、此ヨリ三丁行、御城

左ニ見ル、筑地五丈計ニシテ、前ニ御堀

有、又廿丁計行

○東照宮参詣、山上なり、

夫ヨリしたやといふ所へ出七丁、

大沼ノ中道有、柳多此道ヨリ宿へ帰ル

那珂川 一十八日朝出立、八丁、中川渡シ、

五百羅漢寺

右ニ ○五百羅漢寺有、二リ、右沖方

中浜、舟津ナリ、中川ヨリ

村松

中道、三リ余行、村松

常陸村
日高寺

○ヒタチ村松山日高寺

大万虚空蔵霊場

日本三虚空蔵ナリ、奥州・

会津福一万コクウ蔵、安房

ノウ万コクウ蔵、是ナリ

本堂南向、十一間四面、前二

楼門有大破、三重塔有、銅フキ

28

東二当テ、二丁行

御額文字

天照皇神社

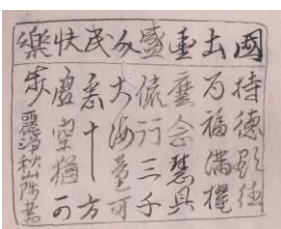
○天照皇大神社有

社頭、二付前門有、日有

扁額

国	土	豊	盛	人	民	快	楽
持徳頭徳	万福満摺	慶念慧具	儼行三千	大海量可	悉十方	虚空猶可	歩
麗淨秋山陳書							

本堂額、九尺二
六尺位と見ル
金字也、書甚
見事見ル



阿漕浦

是ヨリ、寺内ヲ北ニ通レハ、左ニ阿漕浦
大池也、形長蛇如し、長十丁計ト見

(29)

右ハ松原大海ヲ見越シ、波音

高ク、白砂ノ道ヒロクシテ絶景

石名坂

タグヒナシ、○石名坂、森山へ不出

久慈

シテ、浦伝ひ一り半行、久慈渡り半道、
夫より一り余行、浜ニ

大田楽石

大田楽ト云石ニツ有

○里人語曰、是ヨリ七里、奥久慈

郡ケガ村、○山王権現社有、

七十二年フリニ此石ニ御幸

アリテ、目サマシキ大祭トソ、

是ヲ猿楽大田楽ト云、又七年

フリニハ、是ヨリ三里半計ヲクヘ

小田楽ノ御幸アルトソ

(30)

カラス

鳥山

○是ヨリ十里余、○鳥山フモト、

^(百姓)アル百姓家ニ、月ニ三度老翁

来テ、茶吞去コトヤ、ヒサシ、

ツイニ国主ノ上聞タツシ、右翁

又来フハ可知告トテ、アルトキ

其由シカ／＼ト告ケレハ、トリアヘス

国主ナレトモ地下人ノ如ク急キ

参リテ、相見ノ上、アヤシキ体ナ

レハ、ヨノつねノモノニアラストヤ思ケン、

此国昔ヨリ、交リタルコトナキヤト、

問ケレハ、老翁答曰、奥州小名浜^{ヲチ}

^(洲崎)須先ヨリ、ヒタチ銚子浜マテ、

其間四十里、四方欠タリ、其

余何モカハリタルコトナシト物語

テ、ヤカテ門ヲ出ケレハ、タチマチ

(31)

カタチヲ見失ヒ玉ヒケルハ、ウタカヒモノキ仙人ナル由物語、是ハ

三十ヶ年計跡ノコトナリト云、

夫ヨリ浜辺伝ヒ行コト一り余リ、

又里ニ出テ五六丁、松林過テ

小高キ松椎ナリ、老茂シタル内

黒木^口有、馬場筋^(泉ヶ森)二丁余行、

○和泉大明神社有、泉森ト云、

少シ下テ

水木村
和泉川

○和泉川

^{ヒタチ国多賀郡}水木村ナリ

渡リ三丈計ナル田池ノ内ヨリ

如氷冷水流テ、央ニ浄キ土砂

湧出ス、臨所鼠色ニ見ユレトモ

手取見ハサモナシ、巨砂コト／＼ク

(32)

玉如ク見スカセリ、是ヲトリテ

森山
みかの原
石明神社

〔和州〕木州高野山加持土砂トナル、
ハル／＼ノ所、彼地ヨリ取ニ下リケルトソ、
夫ヨリ北ニ向テ行ハ、向ニ竹林ノ内
森山ノ宿有、往還ノ辺ニ

○みかの原有、○石明神社有

○右村松ヨリ三リ程近道ニテ紛道多

ケレハ大ニ迷惑シケルニ、与風

老翁一人カケツレシケレハ、此男深ク

難堪ヤ思ヒケン、ワサト案内ヲソ

シタリケリ、別ニノソソテヲアシ

遣シケレトモアヘテ不請、センカタ

(33)

〔子脱〕モク厚ク謝テ去、又其後

余リホイナキコトニ思テ、又呼テ

其名問ニ、是ヨリ一リ大久保村

源二郎ト云テワカレケルコソ

ナツカシキ、夕陽西ニカタフケハ、

アル大家ニ行宿乞ケルニ、爰ハ

ハ宿ナリ、今廿八丁行カシト、ネモ

コロニ云ケンハ、道ヲ急テ五丁

計行、左ニ

大久保村源
二郎

水穴

此水穴ヨリ

清水出テ

流川ト成ル

此穴深コト難計ト云

諏訪神社

○諏訪明神社有

(32) 33頁上部の書き入れ

○此間多賀郡也、右ノ山手ニマユミ山有

〔三ノ山〕

○山王権見社有

○八幡太郎義家公古城旧跡多し、安部家ト対陣所ナリ

源義家
古戦場

孫宿

夫ヨリ廿丁余行テ〔孫宿〕

宿屋半左衛門泊ル

助川

小太津

愛宕

安良川

足洗

一十九日未明立テ一リ、〔介山〕一リ半

〔小太津〕

〔愛宕〕

〔安良川〕

〔おくつ〕一リ、〔あたこ〕一リ、〔あら川〕一リ半

〔足洗〕、此間浜辺荒波岸ヲ

ウカチ、ウチヨスル波ハ落花如シ、

此所一ツノ小島有、天火山ト云、

○権現社有、又十丁計行ハ

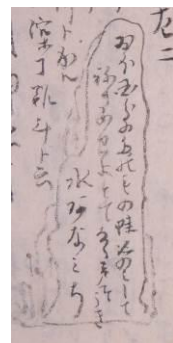
二ツ島有、一ツハあらいそのなみに

崩れて今ハ名のみ残りて巖有、

又の一ツハめぐり半丁計ト見テ、高サ

五丈位ニ見ユル也、東ニ洲先見ル、

おほ国分のたのものの蛙名のみして
ねざめせよとてなく声そうき
水あなみち



大津ト云、いづれも風景ヨロシ、
○○ミちのほとりなる草の庵へ

立寄りて暫く休らぬけれハ、いまた
はたちあまりなるいもひとりぬい

ものしてゐたりしか、やかて自在の
かまひきおろし、炭の火かきたて、

茶をいりてこそいたしけり、姿言

いやしからされとも、かゝる情に

預りながら謝へきやうもなく、

茶店の例にまかせておあしを

紙にひねりてゑんのはしに

おき、謝してさりなんとしけれとも

あへてうけず、旅ハつれなきもの

そかし、心静におゆるりと

きこしめされ、

といゝけるこそいとゝやさしく見へ侍りて、謝へきやうも

なかりけり、所をとへハ磯原

てふ所なり、

都テ此国ノ人情生質ナサケ

深クシテ誠アリ、

かみおか二リ半、名こそ関 桜関トモ云、

ヒタチトムツノ境也、連山波頭ノ如ク
国境ヲヘタツ、此関山中七十歩石中切抜
有、高五丈、此山上ニ

○名こそ社有、桜化石有
ハ銘木の 名こそ残ルヤ 桜関

此関ノ石山の越をめぐれハヒラカタ
家四百軒、舟津ナリ、此道へ通ハ

不越関、桜関を越ハ関田

浜一リツ、クナリ、北東荒うみ

西南山、面白キケイ色也、○○此間

右ノ山手御伊勢山ト云有

○大神宮社有

安部宗トウ・貞トウ古城也、
近辺ニ大高村有、今ハ佃也、

昔義家公トタ、カヒノ古戦

場也、夕かたより小雨、二リ行

上田宿 よしのや

一廿日快晴、早朝立テ二リ半、

此所ニテ道ノ追分ケアリ、大迷フ、

湯長谷 一リ ゆもと昼時着

是ヨリ赤井嶽、欲登トモ天氣

温泉

アシク滞留シテ入湯ス、

〇〇温泉有、軒別地ヲ掘コト一丈、

ホツ湯湧出ル、土樋ヨリ湯坪

受ケツホニ余寸ハ流去ル、湯

和ラカニシテ諸病ニヨロシ

ゆもと宿

吉田屋又四郎

(39)

上野原

一廿一日午時出立、十丁計、上野原、

是ヨリ西方径二入里十五丁計行、

右ノ方山へ登、山上壺里計又下ル、

夫ヨリ新町通テ往還へ出ル、吉間村

好間村

是マテ二里半、

此所平領ト与島村也、此ヨリ

関伽井嶽

関伽井嶽登ルコト三十丁、裏道口也、

夜ニ入タエマツニテ後、夜前登山、

岩木郡

〇関伽井嶽、常福寺、薬師如来

額

医王堂、御堂六軒、四面二重作、

山王権現有、経堂、唐金大仏、

鐘楼、楼門、山門、本堂十間四面

本尊不動尊也、関伽井有、独鈷水トモ、

(40)

〇〇四倉海上ヨリ夜々火出テ川伝ヒ

磐城平

八幡宮

下神谷

新田

四倉

久之浜

山根往還

広野

此山上ノ杉懸ル、或ハ薬師ノ御堂二入、

其数多ク自宵曉至マテ見ル、

尤月夜見カタシ、是ヲ龍燈云、

甚奇ナリ、少下ル所姥杉有、

根ノ廻り十二間、本坊へ宿ス

一廿二日早朝、御嶽ヨリ下テ、一里半

岩城平、御城下也、安藤対馬守、六万石

〇八幡宮参詣、前日、ソリ橋有、

楼門、御本社結構也、一里、下神谷

二里余、新田八丁、四倉一里、此間

本道ハ山坂多ク、浜伝ヲ通レハ、弓

手ハ高山屏風立タル如ク、其中洞穴三所ク、ルナリ、矢手ハ

(41)

荒磯巖石多ク、ウチヨスル波ハ

小石ヲ飛シテ、風景甚面白ク、マタ

フソロシキ所也、ひさはま二里半八丁、

一里計陸地通り又浜へ出ル、此間長スカト云

又夕筋浜ト云、此間山根往還

有、荒波打寄テ揚汐之時ハ、

通路六ツケ敷也、はまノ央ニテ

暮ニ懸リ、大フミ迷ヒ川尻ノ

深ミヲヤウク渡テ、道ヲ求

薄暮過ル比、広野着

柏屋七兵衛泊

金老歩二付

白米三斗二三升 上田宿

同 四斗式升 ひさはま

同 四斗壹升 広野

(42) 一廿三日朝出立、曇天、山道一里八丁、

城戸又坂登、平々タル原半道

井出 計過坂上り下り有、此間二井手

繁岡村 重岡村ヲ通テ、山上ヨリ下ル所、右二

四十八社大明神ノ戸有、又下リ

富岡二リ半、くまの町二リ八丁、中津

富岡・熊町・長塚 是ヨリ相馬嶺

此間道埜多、或ハ平々タル山ノ

台ヲ行コト多シ、折々海ヲ見

越、景色ヨロシ、今日ノ道向所亥

子丑ノ間ニ当ル、広野ヨリ都合八里

高野泊、宿 染屋善兵衛

中津米相場、一步ニ黒五斗五升

(43)

御沙汰相成候由、

〇〇三百歩ヲ一反ト云由、上田年貢

壺石、右ニ付中田年貢八斗位、

薄地田

仙豆道

小高町

相馬妙見社

御祭事、五月中申

国主参詣
陣立上覽

(44)

陣立御上覽有之、終テ御家中

一統牧馬ヲ追立ラレ、是ヨリ二リ半、

小高ノ妙見社迄追セメテ、其中ニ

足毛馬ヲ神馬ニ備、其後御召

御一門御家老次第ノ二乗馬ヲ

三百一本組
トラレ申由、〇〇村々ニ三百壺本組ト

云給人有之由、是ハ昔カツタニ公

ノ寸、三百一本ノ鎗ヲ預ケ玉フ、其後

彼等郷士とナリ、今祭日之寸ハ、

各騎馬ニ乗幡印ヲ立、帯刀ニテ

セメ馬ノ加勢ヲナストソ、誠目サマ

シキ大祭ナルトソ、〇〇其寸セコノ人

馬ニクワレ、或ハハネラレナトシ、ケガ有
寸ハ、此ミタラシ水ヲ吞、又ハ水ヲソ、ク

(45)

寸ハ、タチマチ蘇生シテ如常、甚

奇ナリトス、依之旅人此水ヲ紙ニ

シタシテ付テ取帰ル也、第一馬ニクワレ

又ハケラレ、其外不慮ノケガ有寸、

此紙水ニシタシ吞寸ハ、治スルコト

妙也、尤心中妙見信シ可申事

○御社地ハ、昔ノ将門本城本丸ノ跡ニ有

登リ四五丈ニシテ形如舟、自東

向西依之入舟ト云ナリ、大テイ杉

大木無間繁茂セリ、○一リ半余行、

大ナル木戸有、其境土ヲ以ウツ高ク

モリ立、ネリヘイノ如クニシテ、大テイ

ヲ堅メ此内牧馬ノ原也、其内有沢

(46)

山有、浜モアリ、牧馬遊行シテ甚見事也、四方三里ト云、此廻リ

十三里有トソ、サリナカラ往還ノ

所ハ狭ク、一里原中通貫テ、

原町、米一步二黒五斗三四升

二リ、鹿島一リ、

中村

相馬御坂
六万石

川原町

中田屋金右衛門泊

此家ノ二階ヨリ遙向
機械島
鬼海島見ル

一廿五日曉天ヨリ小雨、五ツ寸出立、二リ、

こまかみね

一リ

新地

坂元

▲是ヨリ仙台領ナリ

一リ半、山下 今日六リ半、宿せうしや幸七

終日雨天、晩方より大雨ト成ル終夜降、

一廿六日早朝、雨止出立、二リ、

わたり

米一步五斗式三四升

塩一步四俵式斗五升入

(47)

阿武隈川

二リ、逢隈川八丁、岩沼二リ、増田

岩沼 生熊川トモ大河ナリ

○正二位竹駒大明神社有

町央ヨリ敷石ヲ伝ヒ行コト三丁余

華表有、スイシン門有、御本社惣

ホリモノ、廻リ玉垣也、末社多シ、

人皇五十四代仁明帝寸、承和九年参議

小野篁陸奥守に任せられ、多賀

の国府に下り給ふ時、臨んでアラ

タカなるコトアリテ、新此御社ヲ建

立シ玉フトソ、社坊有、竹駒寺

大守公ヨリ若干の神領寄付アリテ、

恒例の祭祀怠る事なし、御祭事ハ

毎年節分ヨリ一七日、二月初午ヨリ

一七日ナリ、

△武隈松有、△花輪松、其外

名所多しいへとも略之、

(48)

一リ廿九丁、増田三十二丁、此間川有、土橋、七十間、中町三十二丁、此間川有、土橋、三十間余、長町、是ヨリ仙台御城下也、一リ十二丁、国分町、泊小野屋久四郎終夜雨、今日道九リ半

酒肆

中町
長町
仙台
国分町

一廿七日雨天滞留、大橋ヨリ、御城

大体拝見、吹貫ノ酒肆へ、新沼氏へ過

桃井ヲ見、あちさけをこふ

家後二切岸の如き岩ノ間、深さ丈余成

泉有り、左高丈所社有、此水

懸めかろしとそ、此水もて作りし

故酒かろく、味よきより御用酒ト成ル

酒事四百八十八、千石余酒造とそ

主人名与治右衛門

夫より ○御玉殿参詣 第一

瑞鳳殿、二感仙殿、三善心殿、いつも

(49)

彫物、美尽し、左甚五郎作も有、極彩敷、金物金銀赤銅、内ハ金はり付ニかう天井、外ハ真ノためぬりなり、御堂ノ左右順死ノ塔多、前拝殿有、とうろう多し、鐘楼有、

瑞鳳寺

御城山つゝき西二当ル、石旦一丁余

ニシテ杉大木多、麓瑞鳳寺有、此所

御たま屋下ト云

○自範禪師初相見、十ヶ年前周

香山性堂和尚随伴之由、伝言有

(50)

一廿八日国分町ヨリ三十丁計、

▲ツ、シカ岡、釈迦堂、茶や有、

御地内白ノモクレンケ有、大木也

日天神宮 ○桜馬場、名木多

日神明社、是ヨリ塩カマ松シマ

金花山マテミユル

○木ノ下、国分寺、学頭・院主・別当

○薬師如来堂、二十四坊堂アリ

日天王、日白山宮、是ヨリ東方へ

八丁計行

本道ヨリ沖ノ方、野中田島ノ中ナリ

▲宮城野、凡十丁四方ト見ル、

松林ノ内、今ハ萩稀也、

ス、キ・イハラナトワイシケル

ハさまく、に心そとまるみやきの、

花のいろく、虫のこえく、

○尼寺有

尼寺
もとあらの
さと

▲もとあらのさと

「白露ハおきにけらしなみやきの」
もとあらの小はき末たはむまで

(51)

田子浦

▲多湖浦
(田子)

「あまたゝひ君か心をみちのくの
たこの浦しまう打みてそ行

玉田横野

▲玉田横野

「とりつなけ玉田横のゝはなれ駒
つゝしか岡にあせみはなさく

小鶴か池

▲コツルカ池
(小鶴)

「ちよをすむこつるか池しかはらねは
おやのよはひを思ひこそやれ

弘安碑

三ビノ内ナリ
▲弘安碑

末ノ松山
宝国寺

▲末ノ松山、宝国寺、松間石塔有

「霞立末松山ほのくと波にはなるゝ横雲空
ちきりきなかたみに袖をしほりつゝ

沖の井

▲沖の井

「沖の井の身をやくよりもかなしきは
みやこしまへのわかれなりけり

(52)

沖石

▲沖石

「わかそては汐干に見えぬ沖の石の
ひとこそしらねかはくまもなし

右ハ

江古平吉

江古平吉ト云ル百姓ノ庭上也、
(百姓)

此男諸役御免トソ、今ハ里中也トトモ、汐の

ミチヒ池上ニアラハル、此家ニテ

昼飯ヲ乞テ、直ニ案内ヲ平吉ニ頼

是ヨリ壺ノ碑、三十丁計有

壺碑
多賀城跡

三熊野ノ松戸筆也
▲壺碑、多賀城跡也

「みちのくのいはてしのふはえそしらぬ

書つくしてよつほのいしふみ

戸絶ノ橋

▲本松山 ○本光寺
(戸絶)
▲戸施ノはし

「あやうしと見へるとたへの丸木はし
まつほわかゝるもの思ふらん

奥の細道

▲おくのほそみち

十府の池

▲十府の池

「みちのくの十府のすかこも七府には
きみをねさせてわれみふにねん
▲名コソ神祠ト ▲名古曾関、松桜多シ
「たれもいま花さく比は立そよる

勿来社
勿来関

千引石
血引鯉音
紅葉山

▲^(千引)血引石、クワン音

▲モミチ山、奥山村

へおく山にもみしふみわけなく鹿の

こゑきく時そ秋は悲しき

楓の古木、山の廻りニ有、又向ノ山ニモ見ル也、

此間少シノ流有、玉川ト云、はし有

おもはくのはし、初義経公作りしトソ、

▲野田玉川

へみちのくのたの玉川みわたせば

汐かせこして氷る月かけ

野田玉川

おもわくの
はし

▲おもはくのはし

西行

へふめはおしもみしのにしき散敷て

人もかよはぬおもはくのはし

浮島松

▲浮島松

へ塩釜のうらの干潟のあけほのに

かすみのにころうきしまの松

御殿崎

(御殿崎)
コテンサキ

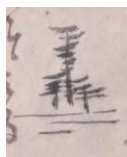
▲松かうら島

へ音にきく松かうらしまけふそみる

むへも心あるあまもすみけり

千賀塩釜

▲千賀塩釜



塩釜宮

戸奥州一宮塩釜宮

御山登、左リニ
藤原忠衡
泉三郎、文治ノ比
寄進、テツトウ口有

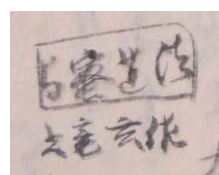
別宮、右宮、左宮

○別当金光明山、大門額

イツレモケツコウ

寺蜜蓮法

書竜玄佐



右ノ外、名所古跡多トトモ、コトくク
ノスルニイトマアラス、ヨテ略之

(55)

塩釜町月参宿

大田屋周蔵泊

安倍出雲守

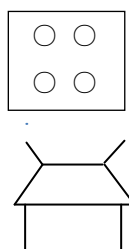
一廿九日快晴早朝、塩釜宮詣

夫ヨリ安倍出雲守訪ヒ、壺碑

事、相頼候事、○夫ヨリ大川岸へ出

此間町中ニ

戸御釜有



戸



松島

御釜社

○此ヨリ松島一見セハヤト、舟心遣ノ
折から、昨夜同宿ノ出羽山県

家中岩淵由右衛門殿・江戸横山一丁目

篠原源二郎殿・同神田平長丁神定忠右衛門殿・

岩瀨由右衛門・篠原源二郎・神定忠右衛門・金美八兵衛・かきや弥兵衛

屋島崎

金美八兵衛殿・かきや弥兵衛殿、以上

五人、此方三人ト相船ニテ、

折節汐時アシク山越

屋島崎より舟ニ乗り、先ツ

(56)

弁天島

笹ノ浦

三ツノ小島

釜カ渚

弁天島・笹ノ浦・三ツノ小島・釜カ渚

東南ヨリ海ヲ入テ、江の内三里七十二峯、

数百の島々其名記スニイトマナク、

ソハタツモノハ天ヲ指、臥モノハ波ニ匍

匍、アルハ二重・三重ニタ、ミ、負ル

アリ、抱ルアリ、まかきか島ハあまの

小舟漕つれて、肴わかつ声くくに、

つなてかなしもとよみけむも、宜

なるか、遥沖にハ、白なみたちて、松ニ

交ヘル花かとあやまたれ、西に

巖

法蓮密寺境内立わたり、北に瑞岩禪寺

五大堂、月見崎にハ、大公秀吉ヨリ

拝領の亭ありて、松島風景さらなれハ、凡

(57)

洞庭・西湖を恥すと、翁の文にも

書付侍りしとぞ、

心あらんひとくにハ、たとひ西浜の果

瑞巖禪寺

扁額

なりとも、ひとたひハかゝるけしき

を見せたらましくそ思ほへける、

ほとなく、松島に漕よせて、

入心有海人やうへけん春毎に藤咲かゝる松か浦しま

○瑞岩禪寺

山門額

額丈方

瑞 圓 禪
岳 福 寺

三住 妙心
初洞水 書

桑 海 禪 林

三住妙心
現住当山
百五世七十一
翁天巖書卜有

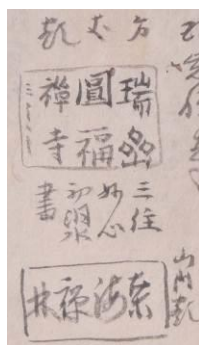
御本尊

孔雀間、文王間、ツルノ間、

鷹間、獅子間、古法現墨面間、

右墨面間ノ外ハ、各金ふすま

極彩色、尤見事也



最明寺入道

(58)

中門ノ左ニ洞有、真壁ノ平四郎僧

此大洞ニ安居ノ寸、最明寺入道

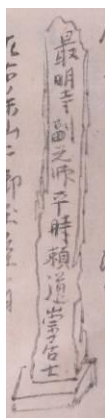
御一宿ノ所なり、洞中ニ

最明寺副元師平時頼道雲居士

左右ノ末山ニ御玉屋有

夫ヨリ五大堂

ヲ一見シテ



日モ西山ニカタフキケレハ、同伴人々
名残を惜て、舟はたまで見送りぬ、

馬場筋北角
松しま 扇や弥兵衛泊

一卅日曉天ヨリ大雨 ほのくヨリ小雨成
辰下刻ヨリ出立

(終)

山鳥渡二口越

①

(表紙)

またの中秋ひと日

山鳥渡・二口越

文化二年

松島出立

塩浜

高城

川下村

鳴瀬川舟渡

小野町

富山観音堂

矢本

石巻

北上川

住吉社

② (文化)年

一八月卅日曉天ヨリ大雨 ほのくヨリ小雨ト成、

辰下刻ヨリ松島出立、夫ヨリ南部街道

伝ひ行所塩浜有、矢手ナル山くハ、皆昔の

島山ノ形ニテ尾先多ク、入江々々今ハ田地とそ

なれりける、十八丁行、川有長キ土はしなり、

わたりて、^(高城)高木ニリ計行、玉垣ノ内ニ要石

有、此所川下村ト云、又一リ計行、なる^(鳴瀬川)瀬川

舟渡シなり、渡り上り^(小野町)小野町

但、高木ヨリ小野町ノ間、沖ノ方ニ富山観音道有成、^(堂)

ニリ半^(矢本)矢本 二リ半^(石ノ巻)石ノ巻入口左ニ楼間有、額

十間四面本堂、観音安置し玉ふ

丈二三丁行、市中ニ懸ル、西ニ杉山有、此所より

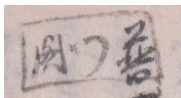
眺望甚宜、茶屋有、東南と当テ北上川流、

此川南部城下ヨリ流出ル、里程凡九十リ余リトソ

聞ユ、浜三千石舟・千五百舟数十艘ツナケリ

^(繁茂)甚繁茂地也、殊更風景宜、^(住吉社)住吉社有△

△石巻迄ハ南部ノ街道ナリ、



③

川中ニ大石有、此石ニ石巻謂有、此川ノ

渡リ凡十丁、^(マ)町有、町尻ヨリ右ノ

山上ニ寺有、^(坂上田村麻呂)田村丸ノ御建立観音之

霊場なり、前二丁有

夫ヨリ行コト一里半、此間松林おい茂り

其内二道有、甚景色宜、^(ワタノハ)渡ノ波ニ至ル、

人家七八十計ト聞ユ、鰹トル也、

木村屋喜三兵衛泊ル

一閏八月朔日天氣能早朝出立、入海口渡り、舟渡シ三丁計

ニシテ岩井田、^(祝田)入江三里面中ニ塩浜一軒有、凡一町五反

ツキ島也、向ノ河岸ヨリ入海ヲ廻ルコト十丁計

行、夫ヨリ薄萩なと覆茂リタル野山

登ル、風越峠ト云、通路ノ人稀ニシテ甚難所也、

^(十里)蛤浜ハ五リ、^(大越)桃浦ヲホコヂ埜有、

七リ^(萩)扇浜^(此間四ツ子坂)有 三リ ^(小穂)小隅 ^(コスミ埜有)六リ

④

小綱倉五リ、大原浜ツ、キ三丁計行、

久坊九リ、^(給分)十八成七リ、^(ククナリ)鮎川泊リ、宿小三郎

二日未明小雨ニ付五ツ寸出立、山越ニリ、

山鳥ノ渡ニ至ル、此所ニ小店有、前ニ鐘樓有、

^(金華山)金花山參詣ノ者ハ、此鐘ヲツク寸ハ迎舟

来ル也、此渡リ四十丁計ト聞ケレトモ、マンく

タルソウ海ヲウケ常ニ風波有、タヤスク

大金寺

渡カタシトトモ、折カラ順風相送テ四ツ寸
金華山ニ着、此所ニテ古キ草鞋フミカエル也、
八丁登り別当大金寺ニ至ル、昔ハ

四十八坊ナレトモ、伊達家ニ到テ只一ヶ寺トソ
聞ヘケル

弁財天社

○弁才天御社、前石且有、石戸有

○神明社有、其外堂多シ

御山

四ツ半時ヨリ案内ヲトリ、御山ヘ登ル、杉・

モミ・楓・柏ナト大木多シ、一番ノ拝所

○なめら不動 ○弘法水 ○鞍懸石 ○弘法

座禪石 ○孔雀池 ○両部大日 ○兜石

○鳶石 麓ヨリ上宮ヘ四十八丁登リ、

弥山ニ龍藏権現社有、南向也、

夫ヨリ右ノ尾ヘ下リ、又沖ノ方ヘ出レハ、

○水晶石・夜光石トモ云、十三尋廻り高サ同シ、

昔ハ夜々光ヲ発シケルトソ、○鏡石

○黄金石 ○山形石 ○三ヶ月石 ○天狗

三太刀石 ○中興上人座禪石 ○屏風石

○千疊敷石 ○大名込 ○小名込

○千人沢 此沢昔政広公御狩ノ寸、
(伊達正宗也)

此山シントウシテ、二ツニ開キ千人ノセコ落死シケル所

トソ、此寸政広公心中ニチカツテ、

地震

⑥

サマ／＼立願シテアヤウキ所ヲタスカリ、

カリテヨリコノカタ此山中諸リヤウ禁、
(怪事)

其後士タルモノ参ル寸ハ、今ニケジアリテ

参詣不叶也、○金沢、昔ハ金流レケルトソ、

○金崎 ○大箱、天女出現ノ所也、
(天園)

此所三方ハ切岸如ク数十丈ナル石畳、高ク

ソノ中ニ汐サシルハナリ、浪音高ク

至テ難所ナレハ、イカナルモノモ二眼ト見

ルコト不叶ナリ、

○小箱 (小園) 凡同ヤウノ風景ニシテスマサシキコト
此所十二開出現ノ所也、
(天園)

大ハコヨリモ甚キナリ、

○四天石 ○懸字石 ○御舟石

○サイ河原

此所切岸如キ石畳、何十丈トモ其数も

難計シ、上ハ大石夥敷重リアヒテ、

諸人石ヲ重塔クツク也、海上毎事荒

タル寸ハ、浪此所マテウチ上ルユヘ、石

石上汐ニシヤレ多ハ穴ヲウカツナリ、

此所ヨリ小箱ノ間程近シ、此所ノ浪

打キワニ大ナル石有、折フシトハト
(海馬)

イヘル毛物海上ヨリ上リ、此石上ニ遊フ

ヲ見ル、珍敷コト也、売薬師ナト松前

海馬

⑦

オットセイ

男セイトテ、諸人ヲアヤマツコトミナ此

ト、ヲ以アヤマツトソ承ル也、此サヒ河原ハ

北詣ナレハ、常ニ風強クシテ草木モナク

一面芝生タリ、此所ヨリ舟路北へ廻レハ、

○二玉崎、二王ノ形岩ニ現スル也、夫ヨリハルカ

御山ヲ登、弥山ノ下ニ ○天狗角力取場

○山神社 ○愛宕社有

一三日未明、大弁才天女御広前ニテ

護摩供ヲ献ス、天下泰平・家門繁栄

御祈禱タメ也、御初穂金百疋

⑧

又永代日供ノ料物ヲ献スル也、同名中

之分共ニ夫ヨリ下向、又四ツ寸山鳥ヲ

渡リ鮎川ニ着、夫ヨリ（小穂）こすみ浦迄

帰リ、此浦ヨリ舟乗り三リ行、折浜

ニ着、又風（風越）こし山ヲ越、薄暮過ル比

瀬わたノはへ着、此内ノ宿木村やへ泊

一四日早朝出立二リ半、此間右ノ方山上ニ

観音霊場有、田村將軍御建立

地也、宝物蛇鱗之由、○金華山ノ伴僧

四殿御坊此所迄同伴仕、段々世話相成候事、

此所長キ町有、町ヲ過レハ北上川ヲ渡リ

石巻（矢本）二至ル、四リ矢本二リ小野町

石巻
矢本
小野町

観音霊場

鮎川
小穂
折浜
風越山
渡渡

川ヲ渡り一リ計行、右ニ富山へ追分ケ有
是ヨリ沖ノ方、山へ登ルコト凡三十町計ニシテ、

⑨

富山観世堂

○富山観世音堂、田村丸建立也

二王門有 額

額

護国宝殿

南無観世音大士

護法閣

別当庭上ヨリ、松島ノ風景眼下ニ

臨テ不双ノ絶景也、世人諺、松島ノ

景ハ富ニ有ト云ルモ、宜ナルカナ、

○江戸数寄や橋、南爪柏木丁印伝や

与市ヨリ茶箱預リ榎相届ケ、段々

馳走有之、夫ヨリ西北ノ間へ半道計下リ

本街道へ出テ、二リ行松島ニ至ル

已前ノ宿 扇や弥兵衛へ泊

一五日雨天出立テ、富山ヨリノ添書ヲ以テ月見崎

⑩

月見御殿

月見御殿拝見、此殿ハ大公秀吉公

桃山ノ御殿ノ由、政広公御拝領被成候、

此地ニ引セラレシトソ、

塩竈ニ至リ、大田や周蔵へ泊ル

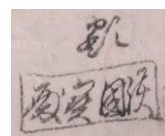
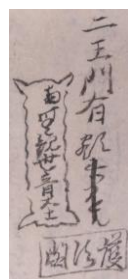
塩竈

安倍出雲守へまかり、御祈禱もの

頂戴いたし、夜更ルマテ亭主周三ト

物語して茶器など拝見、尚又主人

安倍出雲寺



書画ヲ嗜ミケレハ、松島正亨ノ

大軸相頼置、出来之上ハ京師

越新方迄被差出被下候様、重畳

(11)

頼置ものなり、画料トシテ金二兩二歩

相渡ス、受取有之

一六日雨天なから出立、山ヲ越、里ヲ過テ難所ヲ経テ、

岩切村 着、此間二リ半

青麻岩戸三光宮

一度此御社参詣ノ輩ハ、中風ノ病ヒ

サセマシトソ、御チカヒナルヨシ

(12)

御社内ニ茶屋有、佐賀や喜七と申者一軒

計也、此にて中飯したゝめ、夫ヨリ又山へ

登コト六七丁計ニシテ、高根ヲ伝ひ行コト

一リ半計ニシテ、鴻ノ台トテ古城跡有、夫リ又二リ

漸本街道へ出ル、橋越

暫行ハ小野町ニ至ル、此所より夜ニ入候へ共

道ヲ急テ後、夜前ニ仙台国分町

着、已前ノ宿、小野や久四郎方泊

一七日雨天故滞留、此にて羽黒

湯殿山詣之義、御鬘を取候所

参詣可仕との事ニ付、俄思立その

仕度仕候事

一八日早朝ヨリ精進潔斎ニて、五ツ寸

出立、壱り計行

〇八幡宮参詣、夫三リ白沢

(13)

四リ馬場 二リ半滝ノ原 往還二日有

三丁計入込

〇大滝不動、此所大滝有、水精強ギコト

日本一なるへし、しかれとも上ヨリ見嵐

なり、滝ノ落ル所凡十丈計ニシテ水声

雷ノことし、前後左右高山十重廿重

かさなり合、山ノ半腹ヨリなかれて

絶景なり、一リ半計 野尻泊り

宿 杉場ノ弥五右衛門所

一九日天気、未明出立、大滝ノ水上、川伝

ひ登り行コト三里間、尤左右共ニ深山高ク

そはたけ或かけはし有、又ハかつらニてからむ

はしなど多、さなから蜀ノ棧

もかくやあらんとおもほへけり、此所

馬ノ通ひなりかたし、登り急なる

コト階子ノことき

(14) 大坂ニシテ二口越ト云也、家二軒有、番所也、

しかも道幅狭ク式尺計なり、谷の

深キコト数百丈ニシテ、至て難所なり、埤

陸奥出羽国境
山寺村

ヨリ真向当テ月山見ル、少シ下テ
陸奥ト出羽ノ国境有、夫ヨリ下リ三里
山寺村ニ着、德善坊案内ニ頼

宝珠山

○宝珠山山寺ニ参詣、御朱印四百廿石

登八丁、奥院ニ至ル、坊数十二ヶ寺、麓ニ

清和天王御廟有、開山(皇) 聖人(マ)

御入シヤウノ岩有、其外諸堂・諸社多シ、

夫ヨリ谷川伝ひ下リ行コト、計(マ)

天童

天童宿

※この間、記載なし。

(15)

越新手代銀兵衛同伴也

京都

一十月廿三日、京都麩屋町三条上ル

越後や新四郎所ヲ出て、扇通伏見

出、此間三リ、豊後はしを打渡

小倉ツ、ミを伝ひ行事、三十丁余

にして小倉村ニ至り、十八丁行

新田一リ、長池一リ半、玉水里

此所ヨリ東へ当り 玉川有、山吹名所

此なかれ玉水ノ街道ニ出ル、又二里

木津川ニ至ル、舟渡大川也、渡り八丁

木津川
舟渡

小倉村
新田
長池
玉水
玉川

木津
三条橋
高野峠
山城大和国境

木津里、三条はしヨリ九里半、海老や太兵衛所泊ル
一同廿四日未明出立、凡三十丁行、高野
峠有、此所山城・大和国境、又十丁行

奈良坂

(16) 奈良坂ニ至、是ヨリ町続也、

般若寺

○般若寺、文殊堂、そうりん塔(相輪)

大石十三重、凡高サ三丈余と見ル

楼門有、額弘法大師筆也

○アウンノ塔有、弘法大師作也、高サ
二間計ニシテ左右式有

○北山十八軒アシク寺、此寺ハカツタイ僑居也

此寺昔人王四十五代光明皇宮

此所ニテ居風呂ノ施行、千人ノ垢をスリ

清メ玉ヒケルトソ

東大寺

東大寺八丁四方也

景清門

○影清門 東大寺ノ西門也 凡景清
此門ニテ右大將頼朝公ニ

アタラムクワントセシ所ニテ

是ヨリ三丁計、馬場筋ヲ上ル所

正倉院

(17) 御宝蔵、横六間二十八間せいろう作り

此御蔵ランシヤタイト云名香納ル由

是ヨリ右ノ方へ行コト

大仏殿

大仏殿(源頼朝)

前二頼朝公御寄付金灯ろう有、

八角也、高サ

二月堂
三月堂
四月堂
八幡社

楼門有、左右廻ろう、門数多

八幡池有、二月堂、三月堂、四月堂

○八幡御社有、当寺鎮守也

右東大寺大仏ハ、天平勝宝四年四月九日

開眼供養

大仏かいけんくやう聖武天皇御奉、遷師たうしハ

ほたい僧正、講師ハ元興寺りうそんり

つしなり

(18)

興福寺鎮守

春日大社

○春日大明神、灯炉多し

前楼門有、廻ろう有、其内ニ又

ろう門、くハひろう有て、御本社

四社也、其外社多シ、いづれも松皮フキ

若宮社

○若宮社

右春日ノ御馬場筋ヲ下り、戸有

此間春日野也

興福寺

○興福寺、七堂伽ラン也、四町四方

○南エン堂、西国順礼九番札所

八角作り、ケツコウ也

○五重塔有、諸堂多シ

(19)

△春日山 △浅香山 △三笠山

△手向山 △猿沢池 ○采女社有

是ヨリ、廿丁計西当テ

元興寺

○元興寺、五重塔有、四丁四方今荒タリ

法華寺

○法華寺、大地なれとも今淋シ

十八丁

西大寺

○西大寺、七堂カラン

戸菅原天満宮、御誕生ノ地也

宝萊山

○宝萊山、廻り池也、絶景なり

唐招提寺

○唐招提寺、七堂カラン

但、五重塔ハ四ヶ年前ニ焼失

(須弥壇)

シユミ旦ノ下、一間ニ七間、琉璃石也

薬師寺

○薬師寺、本堂フシン盛り

六重塔有、諸堂多

(20)

郡山郡山城下十五万石 小泉

片桐主膳守 一万五千石

法隆寺

ほうりうし 宿河内や正兵衛泊

一廿五日出時出立

(伽藍)

○法隆寺、七堂伽欄也、大地也、八丁四方

坊数六十、諸堂多シ

太子御建立ノ地也

龍田神社

○竜田明神社、戸前、町家多シ

タツタヨリ一里、夫ヨリ山ヘカハリ廿五丁

○信貴山毘沙門堂

諸堂多シ、坊七ほう也

信貴山

又、麓ヘ廿五丁下り大和川ヲ渡り、廿丁計行

△此間西ノ山通シニ、古竜田ト云所有

(21)

達磨寺 ○達磨寺、古跡也

昔天子タルマへ相見ノ地也

二リ計来リ、山辺ニ懸リ

カミ

此間上ノ天子、古跡有リ、山中也

河内国也、此所天子ノ御廟也

染井寺 ○そめい寺、小庵也、中将姫ノ染井戸有

昔此水にて五色糸ヲ染玉フ

水なりとそ

聖徳太子御建立

当麻寺 ○当麻寺 七堂カラシ

中将ひめマンタラ有

三重塔二ツ有、諸堂等多

(22)

△大坂屋源兵衛泊

高田 八木 一廿六日早朝出立、一リ 高田、一リ余 八木

一リ半 三輪

三輪神社 ○三輪大神宮、大社也

御社内ヨリ山道伝ひ左ノ方へ

七八丁計行ハ

長谷街道 追分、此所ヨリはせ街道ナリ

三輪より五十丁

長谷寺 ○長谷寺、大地也、かけ作り、舞台有

長ろうか伝ひ登り、三町計也

前楼門有、二王安置諸堂多

町家多シ、大鳥井有

(23)

坊数二百余リトソ

それより又、追分までかへり、ちり一リ

桜井 十丁計行 安部

桜井 安部 安部山文殊堂

○安部山文殊堂

日本三文珠ノ第一トソ承ル

般若寺文珠ト、キレトノ文珠、以上三ツ也

夕かたより時雨、初夜ヨリ地雨ト成

宿

一廿七日雨天朝、安部より出立、一リ

飛鳥神社

日○飛鳥大神宮、末社多、飛鳥井有

橘寺

十丁計行、○橘寺 聖徳太子御誕生地也

右京橘、左京桜、三光石有 太子御誕生時
三光天下リ玉フトソ

(24)

御宝物、青白舍利 太子左ニ御手ニ提リ
御出生ノ舍利也

太子二歳御像有、伽藍石多シ、

又十計 ○岡寺、御普請最中

五十丁登リ

談山神社

○塔峯 談山神社
鎌足大明神

十三重塔、桧皮フキ也、御殿極彩色、

結講也、諸堂多、七堂伽藍地、

坊数四十余リ

千股 夫ヨリニリちまた、一リ下田、町家七百
此間難所なり

吉野川舟渡

此所吉野川有、舟渡シ、いも山、
せやま、川上ニ見ル也、其中ヨリ流也

飯負

川をわたり向ハ飯負一リ

吉野町

芳野町 人家千軒

宿上田や安兵衛泊

一廿八日早朝、三丁登 ○楼門有

○蔵王権見、十六間四面二重作
諸堂多シ

○吉水院 義経
弁慶

○勝手宮、後提護天王古跡
右焼矢、今ハ御仮殿也

○子守宮

右両社ハ御夫婦神ニて、御子

三十六神ヲワシマストソ、

子無モノ、此御二神ヲイノリ

子孫繁茂ウタカイナシ

(26)

○奥院 蔵王権見

○義経ケヌケ塔有

○西行庵室有

右ノ外諸堂多

六田

夫ヨリ、ムダト云所迄二里
六田ト書也

計下り、芳野川ヲ渡リ

ツチタ 二リ うの 一リ 五条

宿松屋藤兵衛泊

一廿九日早朝出立、一リ計行

まつち埤有、此間ハ△大和・紀伊
国境有、又一リ はし本

真土峠
大和紀伊国境
橋本

(27)

紀伊国ハ五十丁壺里なり、

芳野川、舟渡シ無せん也、

川向ヲ三軒ト云、一リ行

かふる 一リ かね 此所ヨリ山道なり、

一リ かみや 一リ 此所不動坂トテ

四十八曲りなる難所有、

○不動堂有、十丁余り登

○女人堂有 此所より先へ女人
行コト不叶也

是よりハ、

(30)

つくさくの罪なはらひそ浮世の晴路を照らす法のともし火

また大くはんにまかりて、尊きひちに御法をきけるによめる

夢にたもとの心やかへり見め旅につかれていねにけらしも

(28)

木曾のかけはしにてよめる

八風にちる峯の紅葉も村鳥もともにし渡る木曾のかけはし

信濃の国おはて山にて
(姥捨)

八信濃路はまたきに雪のふりそめて秋風寒きさらしな里

九日同国かりや原を出て山坂を越

ゆきけるにかたはらなる草の庵に、酒うりけるか庭上に

菊の咲けるを見て

ふるさとのことなど、思ひつゝけて友なりける人と、
(神酒)
ともにミわくむとて

八いさゝらは汲て心をなくさめんこゝを山路の菊の盃

小田刈月十三夜ハ、美濃国大井ト云

宿旅寝して

八行かへりこゝもかしこも旅の空にかはらぬものハ秋夜の月

八いなは山松吹風もきかましをふるさとひとやなといそくらん

(29)

谷汲山華嚴寺へまふてゝ

八汲て見よ御法の帰り色ふかききくさき匂ふ谷のなかれを

(摺針)

すりはり埤より湖水を見て

八月よめは幾よかきつる旅衣うらめつらしき詠めをそする

よしのやまにてよめる

八冬枯のけしきながらもよしの山こすゑに雪の花そつもれる

(終)

恋じ
いる
ま
かい
道

(表紙)

(文化二年)

乙丑ノ六月十五日ヨリ

恋じ

いるま

かひ道

石久

(文化二年)

一 六月十五日発足、^(文化二年)宮市中村善右衛門殿所、夕飯シタ、又、

夫より夜通シ、^(戸田)へたノ小馬吉ト所江一宿

一 十六日早朝出立、徳山江着、鶴屋ニ至リ、上田氏、

(相対)

長井氏へ相タイ、籃泉先生方江安部氏同道ニテ

(休息)

行、暫休促、夫より兼而之約速之通り、山県氏

都合五人ノ同伴ニテ、心イサましく、此地出立仕、

(十字屋)

高森ノちふしやへ宿

(錦帯橋)

一 十七日、岩国江立寄、キンタイはし一見、夫より

(六日)

金屋孫右衛門殿ト申所へ立寄、馳走ニ罷成、同所あな口

ト申所より舟ニテ、七つ時分宮島江着、御祭礼をも

拝見、もみしやノ茶屋をも一見仕リ、おひタ、シク

にきわひ也

一 十八日朝四つ時ニ、安部氏、石川式人計リ舟ニ乗り、

広島江渡リ、山口や利兵衛参着、いろく御馳走、

(壽司)

市中をも見物仕候、夜二入、舟頭同道ニテすしやへ

行、すしなとシタ、又、夫より舟ニ乗り、四方山ノ

③

はなしニテ、其夜明ニけり

音戸

一 十九日朝五つ時、^(音戸)隠渡へ上リ、酒肆過ル、

海中ニ清盛リ公御はかあり、夫より一リ登リ、

猫瀬

猫瀬トいヘル所、早瀬矢ヲイル如くなり、此所ニテ

猫ノ名ヲヨフ事無用之事、夫より五リ計リ

糸崎八幡宮

登リ、糸崎ノ八幡宮江参詣仕、七つ時尾ノ道江

着、宿何某ト申所

加島

一 廿日朝より尾ノ道寺々見物、加島江渡リ

鶴屋先生

鶴屋先生江トモナイ、景色ノ地也、^(当所出立)道行六人なり

神辺

一 廿一日カんなべ、^(神辺)管多中先生訪、八つ時より

萱茶山

大雨ふり出し、^(アメ)安部氏川江流、高屋ノ

高屋

陰陽石

宿何某江一宿仕リ、此間いんによう石あり^(陰陽石)

鴨方

一 廿二日七日市川留ニテ、山越として
かも方へ通り、所々此所廿一日之ニ時計リ之

④

大雨ニテ山増出、家百軒余痛、五六軒ハ

玉島

流、道中ニてかみなりニテ込入申候、夫より玉島

西阿知

通り、大川あり、二里行、^(西阿知)西あぢへ泊ル、

瑜伽

此所よりユウカへ四里あり^(瑜伽)

宮内

一 廿三日未刻出立、辰ノ刻ニ宮内至ル、

吉備津神社

吉備津社参詣、御釜ノ神事、日供ヲ

そなへ、御初尾とシテ金百疋、安部氏、上田氏、

石川三人催合ニシテ差上申候、御師ハ

舟橋

藤井長門守ト申也、夫より舟はしト申所江^(舟橋)

一宿

吉井川
伊部
備前焼
片山
八木山
三石
宮尾

一廿四日早朝出立、吉井川へ一リ、夫よりいんへ迄
進一リ、備前ヤキ物元なり、片山へ八丁、八木

山へ二リ、山坂あり、三ツ石一リ、町内二三ツ石アリ、

宮の尾と申所へ泊り

片島

一廿五日早朝出立、片島へ二リ、正条へ半道あり、

正条
鰯
半久寺
御着

イカルガへ二リ、川上ニ脇坂侯城見ル、半久寺
トイふ太子ノ寺アリ、五着クへ一リ、此間川、

豆崎

夫より豆崎へ一リ、此所ヨリ曾根へ分道アリ、

曾根

十八丁行、曾根一宿、天神社へ参詣仕、

古松アリ枯ル、そきふきノ上家アリ、

曾根天満宮

天満宮御手つより植させ玉ふるト

姫路

申也、ひめし御城下也

一廿六日早朝出立、出懸ケ又御社参詣、御門

前より左へ過レハ松原広シ、社頭月松間

石の宝殿

勝絶景いふもさらなり、日出頃ニ石ノ宝殿

参ル、東ニ広野、人屋かすかにして、

なみきの小松ヲ見こし、海上雲かと

あやまたれ絶景也、ならびの山の頭ニ

天のつり舟

あまのつり舟てふものアリ、かたわら
なるうなイ子ニいさなわれ見物、類無

数古セキ也、此岩舟の長サ式間計り、ヨコ五尺

十輪寺

計の石也、中ニ水溜あり、夫ヨリ十八丁行、
十輪寺大地ナリ、源空上人古セキナリ、
寺内ノ松ニ鳴鶴すをくひ見事也、夫より

高砂神社

尾上神社

無程高砂ニ至ル、大社なり、人家千軒
アリ、夫より十八丁行、尾上社大社ナリ、

古銘鐘

鶴林寺

古銘鐘アリ、古松色々有、箱入、夫より
田中ヲ十丁計り、刀田山鶴林寺諸堂

多シ、三重塔アリ、并銘鐘アリトいふ、

野口村

夫より野口村へ出ル、是より本カイ道なり、

二見浦

夫より凡二リ計行、二見浦ノ舟人道ノほとりニ

夜舟

出テすゝめられ、舟二のり、其夜ハ舟ニ

⑦

須磨

須磨

泊り、二見よりスミ迄海上七リ間、壺人まへ舟ちん

出羽の僧

式百文取申候、出羽ノ僧乗合ニて、大州其外已細

聞合いろく咄込候事

平敦盛臺

一廿七日あつもあり公御はか拝し、茶屋江ヨリ

そばなどシタゝヌ、夫より山へ上り御城跡見物、

須磨寺

すま寺へ参詣、あつもあり公開帳、青葉ノ

ふへ其外いろくあり、壺人まへ百もん

兵庫

御初尾、夫より二リ行、兵庫へ着、茶屋江

ヨリ中飯などシタゝメ、舟二乗り、七つ時ニ

大坂着、宿坂田や小七方へ

大坂
御堂
稲荷社

一廿八日雨、御堂参詣、イナリ社へ参ル、

塚
住吉社参礼

一廿九日境ノ住吉社参詣 御祭礼節分
ナリ、難波や松見ル、帰り二青楼の賑、

⑧

島之内新丁、九間丁夜見せ見ル、

大夫の店、自大つゝみ、たイこなと打合、
(懸) (太鼓)

はなやかナルにきわひ也、

夜舟

一七月朔日夜、舟にて、二日朝迄二様々

伏見

伏見へ着

一二日九つ時二麩屋丁三条上ル
越後や
新四郎

方へ宿、其後安部氏親類ノ萬や

方へ行、いろく馳走

田村社

一三四つ時より京都出立、田村社はし
(走井)

蟬丸社

り井ノ水アリ、関清水せみ丸ノ社アリ、
道スカラ書つくされぬにきわひナリ、

大津

大津着、町ノ末ニ商人宿かとや五兵衛
ト申所へ一宿、湖水へかけ作りニシテ

⑨

折から三ヶ日月水上ニうかみ、類
(浮)

なき絶景なり

石山寺

一四日極朝出立、石山寺江参詣、諸堂

多し、湖水眺望、岩畳無類地也、

瀬田の長橋

夫より瀬田ノ長はし打わたり、弓手ニ

草津

城かくヲ見受絶景ナリ、草津ヨリ

山田村

木内石亭

姥ヶ餅

和中散

水口

田川

田村神社

筆捨山

鈴鹿万吉

関の地藏

亀山

棕本

久保田

高田本山専

修寺

小俣

宮川
伊勢神宮

左ノかた小道一り行、山田村ト申所
(木内石亭)

石亭翁宅アリ、甚キ石多シト聞く、
(和中散)

名物草津ノ姥かもち、梅ノ木村和中

さん、水口ノ前は宿田川トいふ所へ泊り

一五日早朝出立、田村正軍社参詣、夫より
(將)

筆すて山見物、坂下鈴鹿万吉ト申て

日本聞へ渡リシ孝人也、此人ノ方へ相尋

⑩

中飯なとシタ、メ、夫より関ノ地藏江

参り、折柄道行ニおくれ、東海道

亀山城下へ通り、二リ半も道ニまよひ、

案内人売人やトひ、山道二リ半計り
(標本)

通り、むく本へ出テ久保田江一宿仕候

一六日早朝久保田出立、一リ半行、高田

門跡アリ、大寺之よし、境内ヒロシ、宮
(小俣)

川ノ前小はたへ泊り

一七日早朝出立、月代シテ宮川ニて

身を清メ、内外之大神宮参詣并

天岩戸参り、宿広小路ノあり、

たけや作左衛門ト申所へ、松坂ノ仲屋七兵衛

子去八月生れ候由、懸目八ノ目計り

あり、扱もくく大キ子なり

⑪

相野山ノ引留も人別壹文遣し候へハ
甚よろしく、人数凡百人計りも

為申候、大神宮ノ舞子ノイハレハ耳ニトマリゐル

朝熊山二見
浦 一八日雨天ニ付、浅間山・二見浦へ得参り

津 不申ニ付、早朝出立、津町一宿

一 九日早朝出立、津町中よりわかれ道アリ、

上野 夫より上野へ二リ半、白子へ一リ、子安ノ

白子子安觀音 觀世音へ参詣、扱もく宜地ナリ、

不斷桜 左脇キニふたん桜ト申て年中花タヘス、

白子ノ町後松原下枝一面ニなり、誠にく

鼓ヶ浦 つくりシもとうせん、其所はまつゝみが

浦と申候、夫よりかんべ江一リ半町より十五丁、

神戸 北二川有、昨日ノ雨ニて大水出、三十文ニ

いとひかち渡り、扱々こわきめニ

12

合申候、一リ半おひわけ四日市町

四日市 繁昌也、伊達太右衛門訪、晝画の雅帖見ル

伊達太右衛門 夫より富田ヤキ蛤ノ名物、夫より二リ桑名

富田 舟場綿屋孫右衛門方へ一宿

桑名 一十日早朝舟ニ乗り晴天、さや川

佐屋川 スコシ上り堀川のことく見へ、吉原

宮 暫ク過ギ宮沖ノ海へ出ル、九つ半時

熱田神宮 宮駅ニ着、あつ田大明神両社江

名屋 参詣、夫ヨリ二リ、名古屋町天子も

見物、又宮ノ宿かへり一リ半行、

等寺 鳴海二行、笠寺觀世音あり、

鳴海 鳴海江一宿

知立 一十一日夜の七つ時より出立、池鯉鮒迄

池の鯉鮒 一リ半、池ノ鯉鮒不殘片目なり、

13

猿投神社 御社あり、夫蛇ノ御守出ル、有侍

通り、此間八ツはしキウセキアリ、

在原義平墓 ナリひらノはか拝見、夫より三丁計り

右へ行、なり平公の木蔵もあり、

いろく書つくされぬ古セキ也

一十二日早朝出立、町はつれより東へ入ル、

一リ計行、二リ四方位ノも有之野原あり、

新城 新城迄二リ半町長シ、菅沼氏ノ領分ナリ、

門谷 夫よりかとやへ三リ、間ニさるはしと

吉田川 申て吉田川江かゝり其所絶景也、

たとへていわば唐のせいこのすかた

長篠古戦場 と申事、此方長篠古戦場なり、

鳳来寺 夫より鳳来寺、入口ニ茶屋多シ、寺中

廿四軒、諸堂岩山無双也、山登り

九丁裏へかけ抜ケ三十丁下り、此山

14

大野
すそニ至り、誠ニ岩ノ坂おとしあり、至テ難所ナリ、
大野へ一宿、今日山道五十丁道九リふみ申候

一十三日夜中出立、山ノ左リ上下リ無双、

西目
西目過ル所、皆杉、檜、栢など老木おうし、

此辺之民家、皆山の半ふくアリ、

石打
秋葉山
畑多し、石打まで六リ、秋は山

ふもと迄一リ、天龍川上渡ル舟

天童川
アリ、上リ五十丁、観音堂、秋は

観音堂
秋葉権境
権見の御社莊嚴ひれいなり、坂本

泊り、今日ノ道九リ五十丁也

犬居
一十四日未明出立ツ、十丁行いぬい町

小天童川
下ル所小天童川舟渡有、三リ、三倉

.....

山尾廻ルコト長シ、夫ヨリニリ半

森町
森町、此間四十八瀬トテ川四十八

掛川
わたるなり、夫ヨリ三里、掛川宿ス

一十五日未明出立、一リ廿九丁、日坂、此所ニ

石川為藏
石川為藏といふ歌人有、六歳ニシテ

和歌ヨミ、夫より今ニ至ル迄不怠出

金谷
夜なき石
情之由、一リ廿四丁、金谷、此間夜なき

石有り、左ノ高き山上ニさよの

中山寺
中山寺有り、きよひめの旧跡ナリ、

富土山
大井川
丸子
此埽ヨリ初テ不二山ヲ見ル、下レハ
大井川水浅シ、五十六セン川也、まりこへ泊ル、

府中町
一十六日未明出立、府中町長し、

江尻
未明ニ通路ス、二リ九丁、江尻

久能山
右三三穂の松原有、久能山見ル、

清見寺
〇清見寺参詣、一リ二丁、夫より

倉沢
さつた埽ヲ越、倉沢へ下ル、茶屋ヨシ

富土山
不二風景よし、二リ十二丁、ゆ井

吉原
一リ、かんわら、夫より三リ、不二川

大川也、三リ、吉原へ泊ル、宿扇屋、

此方あしイタミ候ニ付、不二山江ハかけ不申

一十七日をも扇ヤへ逗留仕候

一十八日未明吉原出立、はらへ三リ六丁、

此所ヤキうなキ名物、夫よりぬマスへ一リ半、

三島
三しまへ一リ半、此所へ一宿さぬきやへ、

此所ニて不二山より道行かへり一同ニ出立、九つ時也

一十九日、三しま昼九つ時出立ニて

三島明神へ参詣、夫より箱根江登り、

薬師堂
薬師堂あり、此所ニ極楽水あり、

至てヒヤクアリ、峠ニ一宿、古水をも

見候事

一廿日箱根出立、御関所通り、湖水之

六地藏
金

権現社

轆轤細工

最乗寺

塚原

道了権現

権現社

金剛水

塚原

国府津

四十八瀬川

大磯

大磯寺

とら子石

平塚

藤沢

江ノ島

岩屋弁天

ほとり西二入ル、西ノ川原六地藏、夫より

二丁行、大キ釜アリ、此カマハカマ倉大將公

戦ノ節、カイヲニシト申事、夫より権現

社へ参詣、曾我兄弟ノ太刀、帖歌杯

拝見、下り畑ニ至リ、此所はこぬり物、

ろくろさいく、至て宜名物也、

(最乗寺)

齊乗寺参ル、小田原ノ分ノより一り半

(18)

ほと行、塚原二宿をとり一り行、

道了権現山ノフもと、夫より二十八丁登リ

権現社参詣、御社誠ニ宜ク、金剛水

をも頭ギ、かへり二坂中はより霊なり、

(ライ)

坂ノ下より馬ニのり、夜二入早々塚原

迄かへり申候

(国府津)

一廿二日未明出立、コウス迄三リ、此間

四十八瀬ノ川渡リ、夫より大磯三リ行、

小河多し、皆田なり、大磯寺江参向、

とら子石アリ、十二文の開帖、平塚江廿七丁、

夫より藤沢三リ半、入口より江ノ島へ行

渡し口迄五十丁、紀ノ国や江一宿仕、

其日直様川を渡リ、下ノ宮、上ノ宮

(19)

夫より本社へ少し間あり、夫より山ヲ

下リ、腰を廻リ、岩屋ノ弁天参詣、

貝細工
団子・魚

龍口寺

腰越

小動明神

鎌倉

田覚寺

鶴岡八幡宮
建長寺

戸塚
保土ヶ谷

あなノ深サ二丁、左右神念多し

此所絶景、筆紙ニ尽かたぐ、名物

(貝細工)

カイサイク、此島ニて壺文銭、だんこ、

魚、此三品ひろひ候へハ至て福ト申事、

夫よりキノ国やへかへり泊り候事

一廿二日未明出立、近キ当リニ龍口寺、

(弁慶)

此寺ニ弁けい直筆あり、夫よりこし越

(小動)

こゆき明神あり、此道はまツタヘ二リ、

弓手ハ山、矢手海なり、此所盛久首

ノ座旧跡あり、鎌倉至リ、明星水

大仏、此仏丈五丈六尺あり、北条屋敷

(御廟所)

権五郎社アリ、頼朝公御病所、サツマノ

(20)

先祖のはか、夫より下ニ庵アリ仏人

多し、観音開帳、又ユイノ長者ノ娘

(由比)

ハオノ時、わしニとられし、所々江ち

(魚)

こほれ其所七所あり、夫へ七ヶ所のツカ

(骨)

アリ、こツノ開帳仕候、此儀ハ段タイハレ

(扇)

アリ、扇カハツ鶴か岡八幡大社也、

(建長寺)

宮下ニイン門石アリ、ケン長寺参詣、

田覚寺参詣、いつも大地なり、

日本不双ノ仏シヤリ有り、夫外

(金利)

古セキハ書ツクシカタク、山々ハ皆小ク

(保土ヶ谷)

あな計リ、夫より戸塚二リ半、程かや、

神奈川 夫より町続ぎ、金川台見はらしよし

川崎 二り半、川崎一宿

東海寺 一廿三日早朝出立、二り半、東海寺
参ル、大寺ナリ、夫よりしばし

泉岳寺 (泉岳寺)
泉かく寺、義士ノ塚拝見、夫より江戸
三十間堀四丁目、畳屋十七右衛門方へ
着仕候

江戸逗留十七日仕候、

神社仏閣并吉原とらろ(登楼)
にわか(俄)

深川舟なくさみ

左ノ通ニ相見へ申候

(増上寺) 一蔵定寺 一神明 (將軍)
(雲石) 一あたこ社 一深川八幡 (龜戸) 一正軍御玉居
(淺草) 一朝草觀音 一さゝみ堂 一あつま権現 (聖)

一秋葉山 一梅若丸ツカ 一正天宮
(湯島臺) フウシ(王子) 一岩井弁天

一せいとう 一いなり社 一岩井弁天

(2) 一あスカ山 一権現 一七福神社 寺アリ
ヤケル

一日暮茶や 一上野 一山王 シノはず(不惑)

一目黒社 一祐天寺 一新寺 一ひヨコ塔

一出世大黒 一三十三間堂 一二軒茶屋

一蛸薬師 一吉原一見 兵衛や(とらろ) 丁子や(にわか) 馬場

一深川(口吉) 一吉原ノ 一境丁芝居 老公
坊主
八百屋

一芝居見物夜 一舟ナコサミ 一両国はし一見仕候

(龍圖) かげま鶴吉 けいこ お政
白木惣兵衛出合 おちよ

池ノハタ(端) 御中屋敷 一公方様 御道路
御庭一見 御上屋敷 拝見

右之通、其外(仏閣) 数を不覚カタク

(2) あら増しひかへ置く

江戸出立 一八月十日四つ時、江戸三十間畳屋方

出立、今日ハ二百十日故、曇天小雨ふり

卅丁行、両国はしヲ渡り、一り八丁行、

サカサイノ渡り有、舟渡、此川坂東太郎ト言

逆井 (逆井) 利根川 舟じなり

左り行コト七丁計ニして、鴻ノタイ (国府台)

○安国山惣ねい寺、古戦場ノ地也

山門、昔ノソウ門用ユ、中門よりカイロウ

ツ、キニして甚大地ナリ、古戦場江ハ左二見へ

山内絶景ナリ、古戦場鐘懸ケ松アリ

下総国其外古跡多シ

中門より左り凡十丁計行

○直間山古法寺 (弘法寺) 地中ニ二葉ノ紅葉アリ

八幡

此寺モト真言ナレル、日蓮上人
(備後)
ノ法門ニキエシテ、今ハ法ケ
(兼)
トナル故、ニタハノもみし
上人植しとナリ
八幡 駅中ニ〇八幡有、向ニ八幡しらズトいふもリアリ、

(24)

此もリノ中ニ人入り候時ハ、ニタタひ出ス申候事、
(再び)
半道計行

妙法蓮華經

〇正中山妙法蓮華經寺有

五重塔アリ、諸堂多土地ナリ

二リ

鎌谷

鎌谷、宿銚子や利右衛門泊り、百六十四文

一十一日早朝出立、鎌谷より三丁計行、鎌谷

(往々)

原アリ、草ホウくトシテ、四り四方アルトいふ、

此所分レ道有リ、道しるヘニ立タル石文曰、

ひとツやへ人を吹込カヤの哉△ト有之

二リ ニリ半 一リ六丁

白井
大森
木下風

白井、大もり、木下風

大川アリ、ヨ根川也
銚子続、東流ル也

舟問屋四郎右衛門ト申所へ着

舟

此所より舟ヲかりウケ、銚子迄賃九百文払、
舟頭八幡や善吉ト申ス、四り行、薄暮ニ至リ、

(滑川)

なめ川、河キシニ着、此ヨリ八丁行、〇なめ川山

滑川山観音
源太

観音江参詣、坂東、これより源太、かしへ

出ル、武蔵や兵治郎夕飯シタ、メ後、夜

夜舟

(25)
比ヨリ又夜舟ニて下ル

津宮

(津宮)
一十二日未明出舟ニて、南方津野宮川岸へ

香取神宮

着、十八丁香取社行、海中丸木鳥居アリ、三丈

〇香取大神宮参詣、南面

諸堂多し、此山ノ歌アリ

是ハく香取ハ杵ノヨヒ所

金剛寺

〇香取山金剛宝寺参詣

(金)

御本地観音レイ地ナリ

三重ノ塔有、(鎧)ソンス、御朱印地也

潮来出島

一リ半計北方渡り、(潮来)いたこ出島着

此所ニて初テかり稲見ル、〇此間ニ新島

十六有、都合三千石、東照宮御開

立之地ナリ、川中島よし原之間ハ

皆稲植付してアリ、問屋有リ、

(26)

遊女屋

魚人家多シ、遊女屋有、六百文、尤御免地なりトいふ、

クルワ内広シ、此所江上り見物仕候、夫より二り行

大舟津着、ミなどニ丸木戸有、十四丁行、町アリ、

少シ小高キ山中ナリ、

鹿島大神宮

〇鹿島大神宮参詣、町家多し、門中ニ

戸有、松皮付、西向キ、ろう門ニ仁王ノ如く

四丈二尺

髪サカ立タル前後二四人立居タリ、皆槌を持テ

両手天地ト気はり候也、扱もくすサましくケシキ、
(氣張り)

夫より二丁行、奥ノイン、○大神社有、前二

丁廻り玉垣、ハナハタケツコウニして、モノ

サヒタリ、一丁行、下り又一丁、

○御手洗有、池 渡六間
横十間 冷泉浄シ、

又右へ行コト三丁計

○かなめいし、玉カキ、石ノ御座ト云
ヲマシ

要石
石御座

(27)

ひたちなる石のおましを見てもしれ

茨しけるる山を尋ねて

是ヨリ松林ノ中目、東北行八町計

○結神見目明神社有

又カヤ原ヲ分テ十丁計行ハ

○たかまか原ニ至ル、惡鬼退治地也
(末無川)

○三丁計ユキテ、スエナシ川有

昔、御劔ヲ清メ玉ヒシ所トソ

小流ニシ上下ナシ

鹿島浜
△七八丁向へ越、鹿島浜、自北東荒海
不双ケシキナリ

夫ヨリ以前ノ道帰レハ

あいろこい
ろ社
鎌足社

○あいろこいらの社有、○鎌足公社有

夫ヨリ又大舟津へ出、支度なとシテ

小舟木

舟乗ル、夜半、(小舟木) 小舟キト云所ニかゝる

銚子

(28)
一十三日四ツ時、銚子本城河岸ニ着、

高野村信太
権右衛門

高野村信太権右衛門殿訪ひ、彼方より

案内者ヲ頼、諸方見物

巴福寺

○飯沼山巴福寺觀音、靈場也

坂東第廿七番、樓門有、多宝塔有、

諸堂多

和田不動

○和田不動 石且ノ左右竜口ヨリ吐
水、軒ノ糸水ノ如シ

左臨ハ川口、浜ニハ魚父千軒竈有、

夫ヨリ浜辺へ出

白紙明神社

○川口白紙明神社有

夫婦ケ鼻
海鹿島
君ケ浜
大吠

浦伝右へ行ハ、(夫婦ケ鼻) めとかはな、
(海鹿島) 君ケ浜、(大吠) あしか島、
(カシクツ) 君かはま、犬ホへ、

此所巖窟有、高サ十丈、洞穴貫ケリ、

(29)

此間東北ノウみあらく、なみたち

西南岸松樹青々として絶景
セツ

たくひなし、夫より本城江かへり候て、

近江屋和介へ宿

遊女屋

此所遊女屋四軒アリ、六百文、

夫よりはま伝ひ廿丁上り、松崎ト言所

同ク遊女アリ

松崎

一十四日朝五つ時乗舟、風アシケレハ漸

(酉) (息栖) (河岸)
とり刻イキス社ノカシニ着、此間六リ、

○息栖大神宮参詣

△鹿島、香取、息栖ハ東第三社ト言

口有、御殿西向、松林ノ内也、社坊有、

初夜比舟ニ乗り、順風相走ルコト一リ半

計リニシテ、四つ時より西北より風立テ雨も

シケシ、尚々風雨イヤマサリテ、川中ト

(30)

(急カ)

思ひしにカヤ原中へ乗込、イカントモ

スヘキやうなく、漸帆下ケホツセント

シテ、風雨イトイ甚あやうく見へし

所ニ、神仏ノ御タスケニヤ、暫して向ヲ

舟ニそうおしキタリ、スハ、カレが道引

ならん、此舟ニツイテ行タマヘト、と

もにちからヲ舟ニ合ンハ、ほとなく

舟もうきニケリ、行方ハしらねとも

風まかせてニリ計行ケンハ、様々ト

新島江着ニケル、コン偏ニ神仏の御スク

イト心イサめ、酒買テ各無事ヲ

賀ス

一十五日天気ニ相成、又舟ニ乗りテいたこ

(潮来)

島ヲ右ニ見テ卅丁計水上登ハ霞浦

ニ至リ、此浦ハ長サ九リツ、キシ浦也ト言、

(31)

此所ふちハ則男女の川のふちト申也、

順風宜帆上ケテ午刻過ニ

里アイ十里
土浦着、土屋安五郎様御城下也、

九万八千石、東武ヨリ水戸カイ道ナリ、

東北向行コト十丁計○善能寺

広法水トテ冷泉アリ、又十丁行

追分道有リ、是ヨリ左リ北方

筑羽道伝ひニリ行、富士沢村

天目山

○法雲寺、禅宗也、御朱印

チヨク願所也、開山堂結構ナリ、

開山ハ中法国師一本地なるヨシ、

参詣の折節、インクハ経御講

(32)

シヤク尊おもふイテ御師ヲ尋ケレハ

今の住僧、要津禪師トソ

是ヨリ本道へかけ通らんと道ニまよひ、

田ノアセ又畠ノヘリナト通り、様々本道出ル、

甚ナシキ仕候、茶やヘヨリ、暫休ソク仕

候内、雷鳴大雨ふり、夫よりやうくト

北条村

シノキニリ行、**北条村**至ル、此所は

むかし北条時政公の在城アルトイヘリ、

夕陽西ニカタフケル故、先登り山道

伝ひ、筑ばノふもとニ至ル、○石ノ戸有

筑波山

筑波神社

かく文ニ曰
チヨクカク

○**天地開闢筑羽神社**

此所右ハキニ唐金の二王有、夫ヨリ

十丁行○大神宮、山ノフモトニアリ、夫ヨリ

黒門有、已前焼失、今仮也、

此門ノ根本より登ル所 皆家ツ、キナリ、

(33)

家数作百ク計り、半方宿やニシテ結構

ノ家計りナリ、夫ヨリ登り一丁目

結束武左衛門へ泊り

雷鳴大雨

此夜雷鳴大雨

一十六日早朝天気ニ相成、登コト五丁

観音堂

行○観音堂レイ場也

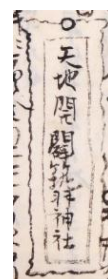
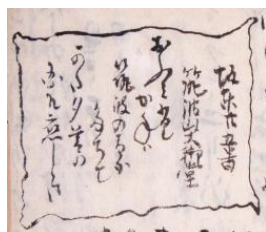
十四間四面結構ナリ

扁額

御内ニかゝりしかくノ曰

坂東廿五番
筑波山大御堂
おふみ堂
かねハ
筑波の音に
たちて
かた夕暮の
国を恋しき

此所諸堂多し、
三重の塔アリ、
夫ヨリ山ヘカケルニ
左へ上ル、至て難所
ナリ



扁額

(34)

筑波山

当伽藍者

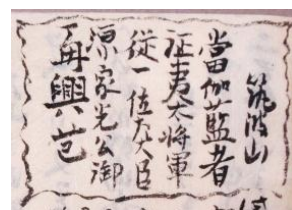
征夷大將軍

從一位左大臣

源家光公御

再興也

此かく外ニ
かゝリアリ、
六角堂アリ、
大仏アリ、
ろうかはしアリ、常ハ渡ル
コト叶ス、チヨクシならテハ
渡ルコトなし



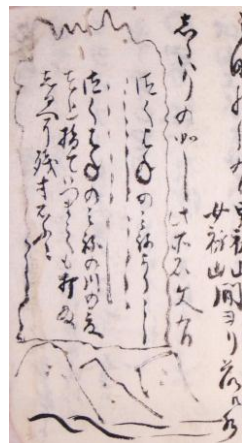
水無川

男祢山
女祢山
間ヨリ落ル水

石文

みな川の川有、
したゝりの如し、此所石文有

つくはねのみねより……
……
つくはねのみねの川の爰
そと指ていつまでも打ぬ
しるへに残す石ふみ



茶屋
餅豆腐
豆腐田楽

都合登り五十丁、茶屋有、餅ト豆腐ト

田かくニシテ買之也、此二品、則男女陰陽ヲ

ヒヨウスト言、夫ヨリ又東ニ登り

五丁計○セツチャウニ至ル、

○男体大権現御末社十七ヶ所

此山上より出羽、大州、信州、日光山、

東武、富士山其外遠方、誠ニ平々

男体社

女体社

トシテ山々田畠ト一面二見へたり、
夫ヨリ又、已前の茶やもとり候也、
○筑波羽山女体大権現御社(マ、西向)両向

末社十七所アリ

是ヨリも遠見、書キツクシカタク、
夫ヨリ近々下向道々神社多し、
二崖ノいわれハ左之通りニ書印ス也、

男根石・陰
石門・神拝

⁽³⁶⁾
男根
ナンコン石○イン門石アリ、是ヲ神拝石トいふ、

道々くさりなと取テ下ル所もあり、
又誠ニ立し岩ヲやうとり付テ下ル

所もあり、石門もあり、はしこより下リシ

所もあり、山ノすそニ至リ古鐘アリ、

此力ね龍宮より上リシト申也、此鐘のいわれ

前ニ書印シかくのうたニてわかり事、

鐘の高サ六尺○まわり壺丈八寸、

名もなし観音仏、イツケテあり、

あつみハ土ニスエテアルゆへ分り不申、

夫ヨリ四十丁計行、道小キを通リ

十三塚尋テ小畑村ニ至ル、(金蔵)此所茶や

アリ、荷物をハ右之泊リシきたく

方より、ちん百六十文ニて此小畑村江出し

クレ事、

片野村

八丁行おはた村一リ片野村

⁽³⁷⁾

二リ此所

府中
国分寺

府中、国分寺薬師アリ、夫ヨリ

二リ八丁テ

竹原

竹島(竹原)、此所泊リ長島や利兵衛

此所遊所アリ、四百文

一十七日朝出立、(小幡)片倉ヲハタ

堅倉
小幡
長岡
水戸

長岡水戸江泊、(小幡)下町二丁目
たちわらや利兵衛方へ

たちわらや江戸其外之商

人宿ニて至テよろしく、一丁目之

はつれより北ノ横町へ二、三丁行ト

御城ノ水門、過レハ見付アリ、夫ヨリ

西方通り屋敷多シ、此ヨリ三丁行

御城左ニ見ル、筑地五丈計ニシテ前ニ

水戸城

⁽³⁸⁾

御城有、又廿丁計行、

東照宮

○東照宮参詣、山上なり、至テ結構

夫ヨリした町といふ所へ出テ、大沼

ノ中道有、柳多し、此所一見して

宿へかへル

一十八日朝出立、八丁中川渡シ、右ニ

五百羅漢寺

五百羅漢寺有、二リ右沖方

村松

日高寺

中はま舟津ナリ、中川ヨリ中道三リ
余行、**村松**ニ至ル、此所ニ村松山ニ
(處)
日高寺大万こくう蔵様靈場

日本三こくう蔵ナリト言、

本堂南向キ十一間四面、前ニろう門有、

大破ナリ、三重塔有、銅フキ、

東ニ当テ二行

天照皇神社

天照皇神社有、前ニ門有、**日**アリ

扁額

(39)

阿漕浦

是ヨリ寺内ヲ北ニ通レハ、左ニあこき浦
(阿漕)

大池ナリ、形長蛇如し、長サ十丁計ト見ル、

右ハ松原、大海ヲ見越シ、波音高クシテ

白砂ノ道ヒロクシテ絶景ナリ、

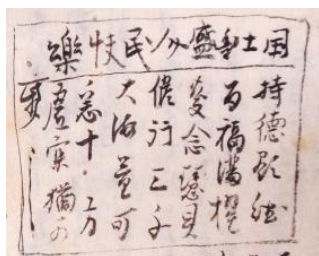
石名坂

久慈村

大田楽石

○石名坂○森山へ不出シテ浦伝ひ一リ半行
(久慈)
○久じ村渡り半道、夫ヨリ一リ余行、浜
(田楽)
アリ、此所ニ大田かくト言石ニツアリ、

国土豊盛人民快樂				
持徳顯徳	百福満擢	慶念慧具	俚行三千	大海量可
こくう蔵の重の	まへニかくりし也	かくノふとさは	九尺ニ六尺位ト	見ル
金書、甚	見事ナリ	虚空猶可	悉十方	歩……



鳥山
老翁

里人語曰、是ヨリ七里奥、久じ郡

(天下野)
ケガ村○山王権現社有、七十二年ふり

此石ニ御幸アリテ、目スサマジキ大

祭トイウ、是ヲ猿楽大田楽ト言、又タ

七年フリニハ、是ヨリ三リ半計ヲクヘ

小田楽ノ御幸アルトソ、

是ヨリ十里余○カラス山フモトアル

百姓家ニ、月ニ二三度老翁又来テ

茶ヲ吞、去コトヤ、ヒサシ、ツイニ国主ノ

上聞タツシ、右翁又来ラハ可知告トテ、

アルトキ其よしかくト告ケレハ、トリア

ヘス、国主ナシトモ地下人ノ如イソキ
(マコ)

参リテ相見ノ上、アヤシキテイナレハ、

ヨノツねノ人ニアラストヤ思ケン、此国

むかしより交リタルコトナキヤト問ケ

レハ、老翁答曰、奥州小名はま須先キ

ヨリヒタチ銚子はまマテ其間四十リ

四方カケタリ、其余何モカハリタルコト

(4)

ナシト物語テ、ヤカテ門ヲ出ケレハ、タ

チマチカタチヲ見失ウセニケル

物語ナリ、是ハ三十年計アトノコトナリト言、

夫ヨリはまへ伝ひ行コトニリ余、又里

泉神社

ニ出テ五六丁、松林過テ小高キ松椎
老茂リシタル内、黒木^下有、馬場
筋二丁余行○和泉大明神社有

此森○和泉もりト言ナリ

水木村
和泉川

○和泉川

ヒタチ国多賀郡水木村ナリ

渡り三丈計ナル田池ノ内ヨリ

如氷冷水流テ、央^(奥方)ニ淨キ土砂

ふき出ス、砂水そこニ見ル時ハ鼠色ニ

見ヘ、手ニ取り見れハ水せうの玉

ノ如し、高野山ノ土砂、此スナ

ナリト言

森山

夫ヨリ北ニ向テ行ハ、向ニ竹林ノ内ハ森山

ノ宿有、往還ノ辺ニ

○みかの原アリ○石明神社有、右ハ

村松ヨリ三リ程近道ニテ紛道多シ、

大ニ迷惑シケルニ、風と老翁一人カケ

ツレシケレハ、此男深く難堪ヤ思ヒケン、

ワサト案内ヲソシタリケリ、別ニノソ

ンテ、ヲアシ遣シケレいへともアヘテ請ス、

センカタモナク厚ク謝テ去、又其後余リ

ホイナキコトニ思テ、又呼テ其名問ニ、是ヨリ

みかの原
石明神社

大久保村源
治郎

東ニ当テ一リ、大久保村源治郎ト言テ

ワカレケルコソナツカシキ、夕陽西ニ

カタフケハ、アル大家ニ行、宿乞ケル

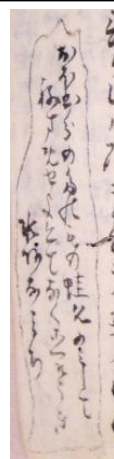
ニ、爰ハ宿ナリ、今廿八丁行カシトねも

コロニ言ケレハ道ヲ急テ五丁計行

左ニ

水穴

おほ国分のたのものの蛙名のミシテ
ねさめせよとてなくこへそうき
水あなミチ



此水あなヨリ清水出テ流、川ト成ル、

此あな深キ事難計ト言、

諏訪明神社有

此山ノ上ハ、八幡八郎義家公城旧跡アリ、

安部宗ト対陣所アリ、寒水石と申テ

電石ニ成りし大石まゝアリ、夫ヨリ

廿丁余行テ孫宿宿屋半左衛門所へ泊リ

一十九日未明立テ一リ介山一リ半

おく二リあたこ二リあら川二リ半

あし洗、此間はまへ莫波屋ヲウカチ、

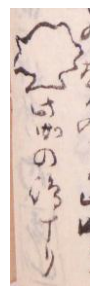
ウチヨスル波ハ落花如シ、此所ニツツノ島

アリ、天花山ト言

○権現社アリ、又十丁計行ハ、二ツ島

権現社
二ツ島

アリ、一ツハあらいそのなみに崩テ
今ハ名のミ残リテ、(総)此如の島ナリ



(44)

大津
草の庵

凡上ハ五数敷位の事ト遠見ニ見ヘ申候
又の一ツハめくり半丁計ト見テ、高サ
五丈位ニ見ユル也、東ニきし見ル、
大津ト言、いづれも風景ヨロシユ也、
ミちのほと草の庵ヘ立寄テ、暫ク
休らゐけれハ、いまたはたちあまりなる女
ひとりぬいものしてゐたりシカ、ヤカテ
自在のかま引おろし、炭の火かき立テ
茶ヲいりてこそいたしけり、姿言
いやしからス、されともかゝる情ニ預リ
ナサケ
なから、謝へきやうもなく、茶店の
例にまかせテおあしヲ紙ニ包テ
レイ
えんのはしにおき、謝してさり
なんとしけれともあへテうけす、
旅ハつれなきものそかし、心静ニ
おゆるりときこしめされと言
けるこそ、いとゝやさしき見へたりテ
謝へきやうもなかりけり

(45)

都テ此国ノ人情生質ナサケ
セウ シツ

深くシテ誠アリ

(神圖)

かミ^④一リ半、(勿来庵)名こそ^④関桜関トモ言

神岡
勿来関
常陸・陸奥
国境

ヒタチトムツノ境也、連山波頭ノ如ク

国境ヲヘタツ、是ヨリ大州、此関山中土右左取

切抜

切抜有、高五丈行七十間あり

勿来神社

○此山上ニ○名こそ社有○桜化石有り

銘木の名こそ残ルヤ桜関

平瀧

此関ノ石山の城をめくれハ^{平瀧}ヒラカタ

家四百軒、舟津ナリ、此道へ過ハ不越関、

関田

桜関を越ハ^④関田はま一リツ、クナリ、

北東莫うミ、西南山、面白キケイ色

ナリ、○此間右ノ山手○御伊勢山ト言アリ

大神宮社

○大神宮社有

(46)

安倍宗任・
貞任古城跡

(宗任) 安部宗トウ、(貞任) 貞トウ古城也、

近辺ニ大高村有、今ハ畑也、昔ハ

義家公トタ、カヒノ古戦場也言、

夕かたより小雨、二リ行

植田

(植田) 上田宿よしのヤ泊り

一廿日快晴、早朝立テ二リ半、此所ニて道ノ

湯長谷

追分ケアリ、大迷フ^④湯長谷御城下也、

湯本

一リ湯本ゆもと湯本と湯本昼時着、是ヨリ赤井嶽

欲登トモ天氣アシク滞留シテ入湯ス

温泉

○温泉有、軒別、地ヲ掘コト一丈、ホツ湯ハ

キ出ル、土樋ヨリ湯坪受ケ、ツホニ余時ハ

流去ル、湯和ラカニシテ諸病ニヨロシ

ゆもとと宿

吉田屋又四郎

遊女

遊女アリ

上野村

一廿一日午時出立、十丁計上野村是ヨリ

西方径二入、里十五丁計行、右ノ方山へ

登、山上壺里計又下ル、夫ヨリ

好間村

新町過テ往還へ出ル、吉間村

好間村

此所平領分与島村也、是マテニ半

関ヶ原

此ヨリ○あかいかタケ、登ルコト三十丁、

後夜前登山、岩木郡アカイガタケ

常福寺○薬師如来○御堂六軒

常福寺

四面二重作り○山王権現有○経堂アリ

唐金大仏○楼門○山門○本堂ハ

間

十門四面、本尊ハ○不動尊也

あか井アリ、玉かきシテ広法水の

ど

□こ水ト言札立印アリ

(48)

并ニ御手洗の池アリ、ミタリニ遣ひ

不申間敷と札立付アリ、

○四倉、海上ヨリ夜々火出テ川伝ひ

此山上ノ杉ニ懸ル、或ハ薬師御堂ニ入

其数多タ、尤月夜ならハ見へ

かたく是ヲ龍燈言、甚ふし

キナリ、少シ下ル姥杉有、根廻り

十二間アリ、至テ大キ杉ナリ、本防ニ宿ス

透

一廿二日早朝、御嶽ヨリ下テ一リ半、

岩城平○御城下也、安藤対馬守六万石也、

○八幡宮参詣前仁井田ソリはしアリ、

ろう門御本社結構ナリ、下神谷一リ八丁

四倉

二リ余、新田八丁、四倉一リ、此間

仁井田

(49)

本道ハ山坂多ク、はま伝通レハ、弓

手ハ高山屏風立タル如名、矢手ハ

其中洞穴三所タ、ルナリ、莫磯

巖石多ク、ウチヨスル波ハ小石飛

テ風景甚面白ク、マタヲソロシキ

所也、久はま久ノ浜ニリ半八丁、一リ計陸地ヲ

通り又はまへ出ル、此間長スカト言、又

夕筋はまト言、此間山根往還有

上ノ瀬

莫波打寄テ、アケ塩之時ハ通路

山根往還

磐城平

八幡宮

下神谷

仁井田

四倉

六ツケ敷也、はまノ央ニテ暮ニ懸リ
ナカハ
大キニまよひ、川尻ノ深ミヲヤウク
渡テ道ヲ夜薄暮過ル比〔広野〕

柏屋七兵衛泊り

金巻歩ニ付白米三斗三升 上田

(50)

同四斗式升 ひさはま

同四斗一升 広野

一廿三日朝出立、曇天、山道一リ八丁

(木戸)

〔城戸〕又坂登、平々タル原半道計過シ

坂上り下りアリ、此間ニ井手、

繁岡村

〔繁岡〕重岡村ヲ過テ、山上ヨリ下ル所有、

四十八社

四十八社大明神ノ戸有、又下此間ニリ

富岡

〔熊町〕富岡一リ半

〔熊町〕くまの町ニリ八丁中塚一リ

長塚

〔熊町〕是ヨリ相馬領

此間道埒多、或は平々タル山ノ台ヲ行コト

多、折々海ヲ見越、景色ヨロシ、

今日ノ道向所亥子丑ノ間ニ当ル、

高野

広野より都合八リ高野泊

染屋善兵衛泊り

(51)

□塚米相場〔中堀〕□黒米五斗五升

高野宿黒米一升三十六文売

右御沙汰相成候事、

〇〇三百歩ヲ一反ト言由、上年貢一石

右ニ付中田年ぐハ八斗位、薄白地

仙台道

一廿四日早朝出立、向良方〔食カ〕仙台道ニリ

計行、西ニ古城跡アリ、東ニ山海ヲ

小高村

見こし波音高し、一リ半小高村

宿中ヨリ向北径ヲ行コト三丁

(行方)

相馬妙見社

なめかた郡、相馬妙見社〔舊〕舊門ノ古城と有

馬ニケラレシ、御手洗水アリ〔一丁〕計東ニアリ

トキノ薬也 四間四方ノ池

相馬野馬追

御祭事五月中申

国主参詣

此日御国主様御参詣有、お原

陣立下覽

御家中各カツチウソ被帯

陣立御上覽アリ、原町ト言所ニ

(52)

ニリ四方位の原アリ、此原〔騎馬〕き馬千疋

計居候、此原ニテ御祭礼の節ニは軍

のまねかたアル事也、已細ハ耳ヘトマリ

イ候也、此在中ニむかし鐘三百一本

御渡し被成候百姓アリ、此人共ハ

自道鐘ヲツカセ通路スル言ナリ、

右神社ハむかしの古城跡ナリ、入舟ノかた

ちなり、至テ古せき也、

原町

〔原町〕米一步ニ五斗四升也、

鹿島・中村 鹿島 此所三鹿島社アリ 中村 相馬御城下アリ六万石
 此御城下一宿、中田屋金右衛門泊り、
 此家二階ヨリ向ニキカイ島見ル
 機械島
 一廿五日天ヨリ小雨、(五腕カ)ツ時出テ二リ
駒ヶ嶺
こまかミね番所アリ、新地二リ、坂本二リ
坂元
 是ヨリ仙台領ナリ、

(53)
 一リ半、六リ来り、此所□□雁カイシナリ、
山下、宿セうしや幸七方泊り、
 翌日も雨天ナリトくやみふせり
 一廿六日早朝大雨ふりニ出立、ニリ半
(倉庫)
わたり 米一歩五斗四升
 塩一歩四俵二斗五升入
 二リ行、大熊川舟渡し八丁行、
岩沼宿、至テ宜町ナリ、
 ○正一位竹駒大明神社有、参詣
 此所二月初午ニは日本一之
 馬市立ツト言、至テ御はつこ(発向)
 ナリ、已細ハえんきニアリ、
 △武隈松有、△花輪松、其外
 名所多し
 一リ廿九丁、増田三十二丁、此間大はし、
 七十間アリ、中町三十二丁、此間川アリ

長町 (54)
 土はし三間余、長町是ヨリ
 仙台御城下也、一リ二丁国分シ町
 小野や久四郎方泊り
 雨天ニ付
 一廿七日、此所逗留いたし、八つ時より
 宿の人々案内ニて御城内行見物、
 町なみ至テ宜く、御用酒屋
 御用酒屋
 新沼与治右衛門と申ス、
 此家ノ後二泉水アリ、岩のへりヲうカチ
 二所アリ、水目方一升五拾目あるト言、
 此水ニて御上酒造ルト申ス、酒至テ宜く
 居酒仕候、壺合四十七文、桃井ト銘酒也
 一廿八日、小野屋久四郎方出立、廿丁計行
 しやか堂へ参詣、(櫓ヶ岡)桜の馬場尽しか岡
 至テ景色ヨロシキ名所ナリ、(地蔵)自道ニても
 茶やナト四ヶ所もアリ、夫ヨリ杉林アリ、

(55)
 其内二天満宮社アリ、れい場也、
 此社内茶屋三十ヶ所もアリ、左リ脇ニ
 芝居アリ、江戸役者など参候事
 甚以難尽筆紙にきわひなり、
 夫ヨリ十丁計行○国分寺江参詣、

宮城野

原町

松山寺

八幡宮

八幡村

本尊ハ薬師如来、夫ヨリ十丁計東へ

当テミヤきの^(秋)原アリ、名所ナリ、

原ニミヤキノ^(秋)はきアリ、此木を以

筆のしくトシテ売也、歌人などの

志ス場所ナリ、老松杉など余分立

シケルナリ、夫ヨリ十丁計行、原町

へ出ル、角之茶や立寄、末ノ松山塩谷

道聞合出テ行、右へとりテ八幡社

ト聞行ナリ、夫ヨリ一リ半余行、

百姓わらアリ、左手ニ末ノ松山ト

(56)

言寺アリ、此寺ノ後ニ小高山アリ、

此山ニ四本老松枝しけりテゐル、是

則末ノ松山ト言也、夫ヨリ二丁計り

下ニ、沖ノ石トテ百姓家ノ後ニアリ、

誠ニ絶景ナリ、荒増書うつし候也、

此石根ニ所ナリト言

石ノ宗数凡三十五計りアリ

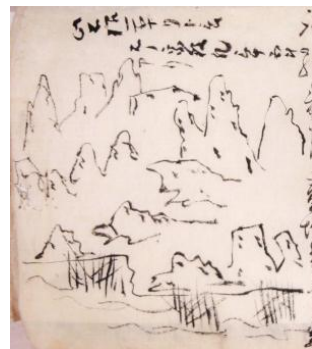
(57)

誠ニえニもカキ尽しかたく也

八幡村ノ^{江古平吉ト申者ノ後アリ}

辰巳ニ当テ八幡宮アリ、此所より八丁計

行、杉林之内^{三間}ナリ、^{四面}楼門、御社



古せき也、日本三八幡ト言、夫ヨリ五丁

計東ニ当テ、町行詰ニかさ石ト申テ

大石アリ、夫ヨリ五丁計り山少シ上り

血引石ト申也、此石はむかし打わり候へハ

ち^(血)流れ出テ、中より御丈三寸ノ観音仏

出ル、此石畠中ニアリ、是ヨリ跡へもとり

八丁行、もみし山左右アリ、此間ニ丁計

其間ニ流シヲ野田ノ玉川、土はしアリ

ヲモハクノ○

○此はしハ義恒公被懸しト言也、此山ノ歌

おく山ニもみしふみわけ鳴鹿の

声聞時ハ秋そかなしき

(58)

夫ヨリ十丁行テ、田の中ニ小島アリ、

入川口ト言、むかし此山ニてあけ塩ニシテしほ取

候事、夫ヨリ五丁計ニシテ大神宮、古社ノ

跡アリ、はしらたまノ石計残り、塔ナト

ノアトもアリ、夫ヨリ十丁計り行、

石ノ坪ふみ一見ス、^(深田)扱もく古物ナリ、

是ヨリ廿丁間道ニふかた、むかしハ海ニてアリシト言也、

○塩釜社参詣

^(多賀城ハ石文よりハ北ニ当テ)
^(見ヘタリ、今杉山ニナリシ也)

直様安部出雲寺へ訪、御守など

御願申上置く、夫ヨリ町下り

大田屋周蔵泊り

塩釜社

出雲寺

(石段)
石たん三百廿段アルよし、
八幡太郎義家キしんアリ、
スソノ石たんハ方丈時頼ギ進

一 廿九日早朝又塩釜社へ参詣、諸堂

多し、御社結構アリ、楼門アリ、

金とうろ多し、参ル、左手ニ

とろろ数
百廿四本計

○泉野三郎きふせシ鉄ノとうろ

玉垣
内アリ

古物ナリ、町も宜く、四つ時より大田や

(59)

出立、一丁計行、道片ほとりニ明神

こしかけ石アリ、玉かき也、式丁行、舟場へ

出テ松島ノ渡り聞合のり組候事、

舟ちんハ飯代コみ二朱、塩時あしく二付

夫ヨリ一丁計上り、塩釜ノ古セキ江

参詣、塩かま四坪アリ、玉かき

其坪へ塩たゝへ候事、誠ニありかた

御神地ナリ、尤舟場江出ルニ引塩二付、

本舟場よりハのり組相成不申二付、山越ニシテ

行道々田ノ中ニ小山イクラアリ、甚以

絶景ナリ、此所もむかしハ海ニてありしヲ

百五十年まへニ海作、夫ヨリ山上り下り

はま部へ出テ船ニのり、島はあまたニ

ありなからカキツクシカタク、くわしくハ

(絵図)
絵つニアリ、夫ヨリ松島ノ町ニ着

松島

松島の渡

瑞巖寺

(61)
此地見物

(瑞巖寺)

○瑞岩寺へ参詣、馬場ニ鉄ノとうろアリ、

(倉垣)

イカキノ内左手ニ、三間四方角成ル巖

窟アリ、昔シ最明寺時頼公、

此穴ニ一夜御止宿アリシト云、其外

(龜臺)

御寺御座敷、御玉家ナトも拝見ス、

(北条)

此寺ハ方丈時頼公御建立、其後チ

伊達政宗御サイコウナリ、

(陽徳院)

○養徳院参詣、御玉家アリ

(円通院)

○円ツウ院参詣、御玉家アリ

此瑞岩寺両方アリ

夫ヨリ月見の御茶や其外、諸堂多し

(迷へ)

筆にかくともつきましく、口ニものへかた

絶景ナリ、左ニ書印御人々、誠ニ

御心深ニ被成遣候義、難わすれ、何尋

度とそんし給申候、以上

八月廿九日

(61)

十日町○御門之内

(山形)

出羽山片御城内

岩淵由右衛門様

江戸横山丁一丁目

篠原源二郎様

世倅
金美八郎兵衛様
同神田ノ平長子
神定忠右衛門様
かまや弥兵衛様
スシカイ御門ノ内
江戸横山一丁目

松島出立

八月卅日出立ツ、早朝松島出テ行ント

スルニ雨ふり出し、ニリ行、かなめ石アリ、

玉カキノ内ニ有之、此所深谷郡川下村

鳴瀬川舟渡

十丁計り行、△なる瀬川舟渡し、

小野町

ちん甘文宛ニシテ渡り、上り小野町下

矢本

申所アリ、夫ヨリ矢本式半

石巻

石巻式半、此所住吉社アリ、舟渡し式文

住吉社
浮石

右手之水中ニうき石アリ、此石いか様大水

ニても、かくるゝ事なし、夫ニヨツテ此所ヲ

渡渡

石ノまきト申也、渡波老里半、鱈など

⑧
余分取レ候所、引あみなと一見ス

えんとうや方

かめ、至テはつ

めい、きりうも

宜、甚所ニおし

く人柄ト申事

渡ノ波えんとうやト申方へ、松島
ヨリ書状付候所ニ、彼方病人アルゆへ
きむらや喜惣兵衛方へ一宿仕候

一閏八月朔日天気、渡ノ波より早朝出立、此間、
入海

渡り、賃六セン、岩井田、此間風越埜ナリ、

祝田
風越埜
蛤浜
桃浦

蛤浜、谷合二人家
十軒計有
五里、桃浦、神明社アリ
人家五六十軒

大越峠
萩浜
小積
此間おほ子ろ埜径七リ、扇浜
伏見や宿や也宜
人家廿四五軒
此間四ツ子坂有二リ、こすミ
人家十有

小積峠
小網倉
大原・久坊
十八成
鮎川

此間こすミ峠六リ、小網倉人家廿三軒五リ
大原浜伝ひ半里、久坊九里、十八成七リ、鮎川泊り、小三郎宿
遊佐や吉右衛門、人家五十軒

米一步二四斗三升

此所も浦津ナリ、早ヨリ

山鳥
金華山

⑧
一二日早朝鮎川出立、半リ、山鳥二

金花山、舟をヨブニ、其所二つき鐘

アリ、是ヲ早くつケハ、金花山

ノ方よりあひズの鐘ナリ、夫ヨリ

舟をおしきり、夫ニて渡り

ちん老人まへ八十文定り成り

此ちん銭ハ寺へ納ヒ○フモトヨリ

十八丁、寺江着、尤渡海老リ

暫休促いたし、四つ過より御山江

上宮○弁財天御社○不動明王、石江

キリツケテアリ○義恒くら懸ケ石○弘法水

クシヤク塚、唐ヨリ此所飛来テ、於爰ニ相果シ

印ニ木ヲ置シ、則是ヲ錦木ト申なり

二リ計上ニ○天ぐ角力場アリ、其外名所

弁財天社

名石カスカキリなし、書ツくしかた

(64)

已細ハゑスニアリ○蔵王大権現社

○千人沢ト申テ政宗公此山しゝかり

被遊候節ニ山はちわれ、此所へせこ残ス

落し候て死ス、誠ニノそき見ル事

おそろしくテ見へ不申三百石上ノ、土參頭不相成

○大箱大函 此所より弁財天御入上御祈所

甚以ふしぎノ所○小箱小函も一様事

○さいノ河原○かゝみ石

○水昌石高卅丈、廻り三十丈四角成ル

○山ノ廻り三十六リ○高サはまヨリ

六十八丁○上宮イタシ名石其外一見

して、かヘル道ノリ凡六里ナリ

○小金沢砂金流出ル石ニも大方

(65)

金付ル、地も金砂計り、誠ニ不思議アリ

すへらきの

御代栄んとあつまなる

道のく山に

小金花咲

右之歌、此金花山ノ名歌ナリ

セン上シテ東ヲ見ルニ、波雲計り

海馬

誠ニ東のはテなり○ゑそ松まへハ
北ニ当テ見ヘタリ

○又不思議アリ、大箱江参詣仕テ

海をなめしニ、大石ノ上ニとこ海馬

申テ、色赤くイタチ位の者ニして

手あしなし、誠ニおとせい之スカタ

なり、三疋昼寝シテ居タリ

(66)

誠ニ珍敷ケタ物なり、已細ハ耳覚シ、

飯代六人一歩わり、金花山大金寺へ一宿ス

二三日早朝○弁財天女御前立チ

御開帳拝見ス○御神酒頭戴ス

○御くう頭戴ス○御守拝受ル

○永代御祈禱をも御頼申上候事

夫ヨリ渡海順風も宜、四リ位

行小すみ此浦より舟ニ乗、海上三リ

折返貸切も着 是ヨリ山越夜ニ入

様々渡波迄かへり申候

木村や喜兵衛方へ着泊り

金花山一リ渡り、壱人まへ八十文

昼飯壱人前代百文

一宿飯代壱人まへ代弍百十文

山案内代七十文

尤舟ちんハかへりハ入不申事
其外酒手杯入不申事

石巻

矢本

一四日早朝出立、一リ半石ノ巻へ
(矢本) 矢元四リ、小野町二リ阿部や立ヨ□酒買
是ヨリ追分ケアリ

仙台 参詣ス

富山観世音堂

護国宝殿 額

二王門額

護法閣

観音堂

南無観世音大士

江戸数寄屋橋南ノ爪柏木町印伝屋

与吉方、箱入茶、相望候事、

夫ヨリ此所大火ニて、家百軒

ヤケル、松島江かへル

あふきや弥兵衛泊り

松島

観瀾亭

一五日松島を出立、出懸ケ月見の御
殿を拝見ス、此御殿ハ、政宗公江

大公様より御拝料被成候由被申候

至テ宜く、夫ヨリ御島江参詣ス

はし渡り右手の島石文アリ

雄島



塩竈

是ヲ下り、先キノ島ニ観音仏
大仏アリ、夫ヨリ下り、岩アな
いくらもアリ、甚以絶景ナリ
塩釜道江出ントホツシテ、大キ二道ニ
まよひ、其上雨天ゆへ甚難儀
いたし、やうく塩釜ノ町へ着ス
大田屋周蔵方へ泊り

岩切村

青麻三光権
現社

一六日雨天、塩釜出立、ニリ半

岩切村着、前ノ茶屋佐賀見や喜七

○青麻三光大現権社参詣ス

中飯ナトシタメ、休促仕候

此岩戸三光宮ハちうせうノ□カ□

被成候事、参詣仕候へハ、ちうせう

いたス事なし、扱もく難有社

ナリ、御洗米御守ナト拝受ス

是ヨリ追々二山道一リ半計リ

矢手ニ噂ノ台トテ古城跡アリ

此山道至テ絶景ナリ、道々小松

植ならへ、夫ヨリ一リ行、奥ノ細

道トテ名所アリ、大雨ふり続キ

甚難儀いたし、様々五つ時迄ニ

仙台国分町

国分町着、此夜小野屋久四郎方へ泊り

一七日雨天ゆへ小の野ニ泊り、寝て計居申候

白浪

一八日未明出立、**白沢**四り

馬場

馬場二り半、**瀧ノ原**二り、此所二

瀧原

日本一ト申瀧有之、水落三十間ニして

至テ絶景ナリ、見物所ハ高キ所ニして

瀧ハ下ニ見ル、此瀧水、仙台ノ御城前

大川ノ出ル、此所ハ野尻迄間ハ不残ス

野尻

瀧ナト有之、見事也、**野尻**二り

宿松場ノ弥五右衛門泊り

⑦

一九日、天気ニ相成、野尻未明出立

二口村
二口越

二口村三り、此所二口越ト申テ関所アリテ

山坂計リナリ、ツマ先ギ上り一り半ニして

夫ヨリ大坂江懸り、弓手矢手ニ

大山過ル事凡三り、道二尺計ニて

谷合ノ深サ三十間計リニ見タリ

至テ難所申もさらなり、是

ヨリ埤へ登詰、西ニ当テ山寺・月山

見ヘタリ、夫ヨリ五丁計下り、羽州

陸奥出羽国境

ト仙台ノ国境アリ、是ヨリ

出羽国

国境ヨリも追々二下ルコト三里半

山寺村江着ス、徳善坊へ立寄中飯

シタ、メ、此坊ノ和尚へ相頼、山寺

宝珠山

⑧
(立石寺)

宝珠山江参詣ス、夫ヨリ山々ニ名所アリ、

此寺御朱印 千四百廿五 天下ヨリ被仰付タリ、

是ヨリ山寺へ上宮ス、登り八丁

諸神仏多し、山上ニ坊十二ヶ所

アリ、其外大岩多し、不残空

ウツケ、至テ見事也、ふたひアリ、

是ニのそんテ見渡スニ越後ノ山ハ

南ニ当テ見ヘル、夫ヨリ下向、

町アリ、**天童**へ三り、若木一り半、

此所日本一社**瘡痂神**アリ、往来

ヨリハ八丁少シノ山江上ル、辰巳ニ当テ

御社アリ、御社ハ西向キ、此若木一宿

瘡痂社ノ別掌

□宝院久□□

⑨
一十日若木未明出立、**六田**半り、

立田一り、**土浦**一り十丁、**大石田**一り廿六丁

かゝや五郎兵衛方舟間屋

此所ニ大川アリ、川舟アリ候へ共、便舟無之

ゆへ直様陸地ニシテ通路ス、尤舟ならハ

九り下り清川江着スト言、大石田ヨリ

堀内村

川土手通り、川渡りちん十五文ニシテ、近道
山越ニシテ堀内村四り着ス

戸川様御領 高山茂右衛門江泊り

一十一日堀田村未明出立、此所より川舟へ

湊

乗下ルコト一り半、清水着、此所より又

古

舟ニのりかへ三り、古着、御番所アリ、

三十文判ちんトシテ出ス、○九十五文御運上トシテ出ル

○三十文舟ちんトシテ出ル、此所より又舟ニのりかへ

清

四り下り、清川宿 斎藤半九郎方へ

古口より清川へ之間、左右草山ニシテ羽頭ヲ

ツラね、舟ニ乗見ルニ山々より滝落ルコト、数

四十八滝

四十八瀧有之、杉なども折々立しけりしニ、

川風ニ吹さらし、葉えたふりもちかひ、

其杉のもく至テ宜敷よし、御留山ナリ、

滝々ニ皆名アリ、覚かく二付ひかへ不申、

外川山仙人
権現社

○外川山仙人権現社、此御山計り木立こもり

至テ見コトナリ、此権現ノ御封ヲ頭ケハむし

症治コト妙也、此間の絶景ハ誠ニ口ニものへ

かく川も早瀬深サハ六広立ト言、此川則

出羽ノ道中所ニシテ最上江の通路アリ、夫ニ依

最上川

此川最上川ト申也、舟入出数を不智、舟通

島海山

じ三十五リ之間ト申也、是所より長開山者

北ニ当テ見ヘタリ、登り十里有之、七合位も

象潟

見へし所ニハ雪二面つもり見事なり、
麓ハきさ方トテ至テ名高キ所ナリしを

去六月ニ地震ニ不残つふれ、島原同様ト申事、

此所ニ本馬殿様ト申テ京都ヨリ奥江之

本間殿

銀持ト申事ナリ、

狩川

一十二日清川未明出立、雨天狩川一り十三丁、

羽黒山

此所ニ左右追分ケアリ、左ハ羽黒山、

右庄内鶴岡御城下道ナリ、かり川ニ

天照皇大神宮
手向

○天照皇大神宮社アリ、手回二り、此所江

着ス、町ニ他国人入込候ヘハ改所役所有之、此所江願

候ヘハ、老人出テ手引して町内ニ有之山ふし

之方ヘ行、此所ニテ帳面ヘ所名まへひかへ取、そふし

テ老人案内出テ山ヘ登ル、凡十八丁登り

若王寺

若王寺江行、御役銭トシテ老人まへ式百式文出テ

御守頭ク、御酒出ル、吞之、夫ヨリ上宮ス、五丁計

羽黒山大権現

登り○羽黒山大権現参向ス、御社ハ辰ノ

年焼失ス、御普請有之、今日御棟揚ケ江参合、

誠ニ難有、御棟上ケノ餅など頭キ、御社も

至テ結構ナ四間四面大キつき鐘アリ、

諸堂百一社アリ、五重塔アリ、此元ニ

寺ノ地アリ、滝もあり、御山ノ上至テ

難有御神地ナリ、口ニのへかたく、夫ヨリ

荒川

下り一り半荒川着、今日も雨天ニ付

甚難儀仕候 丸山屋三左衛門方泊り

但、御寺より御関所往来ル

○羽黒山大権現本尊ハ観音仏

矢ノ根石

○荒川此所ニ矢ノ根石出ル

鎌倉 金くらノ権五郎
島海弥三郎
戦之古跡畠 依之
石出ルなり

一十三日荒川 雨未明出立、一り半川アリ

鶴岡

舟渡しちん廿五文、夫ヨリ庄内鶴ヶ岡
御城下へ入込、御城内見物ス

保願寺
天満宮

○保願寺 ○日天満宮 町内も見物ス

梵字川

是ヨリ二り、川アリ舟渡し、此梵字川ト言

松根

夫ヨリ廿丁、松根六拾里こへ二り

茶屋
大網口関所

登り、埤ニ茶屋アリ、此所ヲ大網口ト申ス

御関所ナリ、此所江羽黒山ニて受取候往来

湯殿山

差出シ通ル、尤往来無之時ハ、三十式文

注蓮寺

出シ候へハ往来相成申候、夫ヨリ湯殿山

麓ノ△中蓮寺江一宿ス、

三人飯代・山役其外

老部式百十八文出ル

○湯殿山坊四ヶ寺別当

庄内ノ方

中蓮寺 真言宗
大日防 真言宗

最上ノ方

本道寺 同
大日寺 同

ごまタキ石、

トッコ水弘法

岩ヨリ笹こやアリ、

昼飯シタ、メ候て、

御山へ登ル、此所ヨリ水掛無用、

新キわらしはく

湯殿山

一十四日 雨天、湯殿山参詣ス、誠ニ難有

御事也、山ノ内之義、論ヲ叶ス、夫ヨリ

志津

山掛越ニシテ下ルコト三リ、江着ス、

近野孫左衛門泊り

水戸の吉成

今日御寺ヨリ、水戸ノ吉成常七殿ト申人同道

仕、此宿江同宿仕候、此人綯糸など

南部城下の舟橋

売商仕候、夜ノはなしニ、南部ノ

御城下ニハ舟はし有之、長サ百間

舟数廿六乗有之よし被申候事

久慈村號埤

南部久慈村ノ土中より小白石出ルなり

秋田の大内田村

○秋田のしろ台大内田村、土を以タキ、トス、

弘法様御仕意なり、

越後ノ七ふしぎ

越後七不思議

安田村○三度くり、小島ノ○ハッ房梅、

田上村○ツなきかや、明法寺村○火 ふうそうス村油

鳥屋野村○さかさ竹、沖ノ○大もく、

のそみ村河内法印様、

砂子関 一十五日しづ出立、未明曇天、**砂古石**一リ半、
(本道寺)
横岫村三リ、**横岫村**半リ、此所清角坊方へ立寄、
精進落ノ禱祈頼、十式文初尾、
夫ヨリ常七殿とわかれ申候、

貫見 追分ケアリ、**ぬくみ**二リ半、**大沼山**老リ半、
(貫見)
宿別当大行院様

湯殿山

本道寺 ○本道寺参詣、本堂廿五間、

くりへ懸テ四十八間、○脇坊六坊、
先達四十八軒

○しつより大沼山之間、山道至テ難所
ナリ、茶屋などもなし、誠ニ山ノ中計リ
通り行

宝物、義経ノ太刀白蛇丸・鈴鹿山岡ノ矛有、
○大沼山別当、飯・先達ちんこみ

百八十文、大沼山之儀ハ大江広元ノ末孫也、義経伯父也
浮島稲荷神社 一十六日未明天氣あしく、御島参詣ス、

坊ヨリ五丁、北東之間ニ当ル、夫ヨリ
御島見物ス、島うき御遊行拝スなり、

ハッ沼 夫ヨリ、**ハッ沼**一リ八丁、最上川舟渡シアリ、
最上川 下最上
長崎 舟岐川
舟渡し、尤ニッ川ハ士ならハちん入不申、

山形城下 五日町 ○山形御城下、**五日町**一リ半、三浦利兵衛泊リ

大沼山より山形御城下迄之間者、至テ
難所ナリ、山道上リ下リ赤土山すべり
とふし、五日町へ五つ時様々着ス、

一十七日晴天、朝七つ時山形出立、一リ半

四谷番所 黒沢坂 上山 温泉 茶屋 蝦夷咄

四谷御番所有、黒沢坂ヲ越**上山**、

■松平山城守三万石、此所温泉有、茶や
米沢や吉右衛門所へ立寄、此男エソ箱立ニ、
(蝦夷咄)

六年間仮濟仕候由、エソ咄聞、エソ人ヲ

アイノト言、メノコト言、耳ニ輪ヲ懸ル、女人ハ
(男也) (女也)

ロニ入黒ヲスル也、男ハ口ヒケ長ク、眼火人ヲイル、

上エソヲ百八十リ迄行候由、五百リ下エソ

五百里余、松前ノ領分ナリ、**8**松前□首尾、
(津軽) (不才)

8ツカル候ハ、二万三千石御加増ニテ、エソフセキ役、
(津軽) (南部)

8ナンフ候ハ、四品御位玉ハリ、赤人フセキ役、
(南部) (総)

上ノ山御城下山形ヨリ三リ

中村小左衛門所へ泊ル

座敷ノ後ニ温泉アリ、至テ宜ク

入湯ス

一十八日天氣、上ノ山出立、**榎木**二リ八丁
(榎下カ)

出羽下大州ノ境、大州之内成ル

此間埜アリ、十八丁上リ、**湯原**三リ十二丁

峠田一リ六丁、**なめ津**一リ十二丁、**瀬木**一リ半
(湯津) (関)

瀬木ノはし本や平蔵方へ一宿ス

湯原 峠田 関津 関

榎下 出羽陸奥境

温泉

蝦夷咄

茶屋

温泉

上山

黒沢坂

四谷番所

瀨下戸沢
上戸沢小坂
桑折・飯坂

一十九日瀨木出立、**渡瀬**二リ、**下戸沢**二リ六丁

上戸沢一リ半、御番所アリ、**小坂**一リ半、此間埜アリ

桑折二丁行、町はつれより右へはいり、**いづつか**一リ半

温泉

此所温泉アリ、宿、角屋六之允泊り

買女もアリ、二朱

(82)

於爰二入湯ス、尤湯の村より飯坂之間ハ川アリ、舟し壹人まへ五文

一廿日曇天、飯坂出立、五丁計行、川アリ

飯坂ヨリ半リアリ

医王寺

歩渡り、夫ヨリ医王寺江 参詣ス

○次のぶ (義経) ○たゝのぶ御墓江 参詣ス、夫ヨリ宝物ナト

開帳 ○義恒公おひ ○次のぶ甲 ○弁慶ノ

直筆大はん若 (大般若) ○次のぶ母ノ御文 ○同長なた

○義恒公まつへニタ又竹 (松) ○其外宝物いろく

アリ、百もん開帖なり、二リ半出デ、

福嶋一リ廿七丁**柏木町**十丁**若宮**一リ二丁**八丁目**

此所町長し、至テ宜く

白か糸ノ元なり、問やニケ所アリ (釋カ) 真綿おかし元なり

壹卷二百廿目ト申

八丁目ノ宿ろうそくや金蔵泊り

買女アリ、貳朱

二本柳
油井
二本松

一廿一日天気、未明出立、三十二丁**二本柳**五丁

油井一リ**二本松** (三万石) 二本松ノ入口ヨリ

安達ヶ原

左り入り八丁計行、舟渡し、夫ヨリ二丁

上江登りアタチガ原ノ古跡アリ、大キ成ル

岩屋アリ、此岩やニ鬼住居候由、其ホトリニ

観世寺

観音仏アリ、庵アリ、観世寺ト申なり、

鬼タイシハ、神龜三丙寅秋八月ニ (紀州)

なちノ法印此地ニ来りイノリふシ給ふト言、

人王四十五代正武天皇ノキヨウ、夫ヨリ

二丁南ニ当テ松林アリ、則爰鬼法むりし

ツカナリ、爰ヲ黒塚ト言ナリ、甚古跡

ナリ、岩家ノホトリ堀見候へハ、人ノこつなど

余分出ルト申事、是ヨリ二本松之

町中ばへ出ル、至テ宜く町ナリ、**杉田**一リ七丁

本宮一リ半、**高倉**一リ二丁、**日和田**廿五丁

福原廿五丁、**郡山**宿、水戸屋清左衛門泊り

一廿二日未明郡山出立、天気、十五丁、**小原田**八丁

日出山廿八丁、**笹川**一リ半、**須力川**一リ半

笠石十三丁、**久来子**廿三丁、**矢吹**十二丁

新田十一丁、**大和**廿三丁、**踏瀬**廿丁、**大田川**十三丁

小田川廿七丁、**根田**一リ、**白川** (自河) 十五万石、越中様

白川ノ米屋小兵衛泊り

シヤクトリ四百文ニシテ四人呼、誠ニ礼付ハ至テ宜く

十両位子受出しツレカヘリ度と相談仕懸り申候

一廿三日白川未明出立、天氣、一リ廿二丁

下野国

下野国

白坂

白坂三リ十二丁、此所ニ遊行柳アリ、古跡なり
田一枚うゑて

たち去柳かな

芦野越堀
錦堀

大田原

芦野二リ三十丁、越堀六丁、なへ懸三リ
大田原一宿ス 田丸屋安右衛門泊り

那須野原

殺生石

一廿四日大田原未明出立、一リな須野原
此原五リ四方アリ、弓手ニせつせう石山上ニアリ、
矢手ニ志野多のもりアリ、むかし此所ニて

せつせう石ノ狐しなくナルなり

印ニいなり社立置く、此社へ其所之人

参詣ならスト言、むかし狐、天子ヨリ

打取時セコウいたし候インねんニヨリ

86

参詣ならスト言なり 壱リほう木川

箭

箭

アリ、カち渡り八丁、沢村宿ニリ

高内

鬼怒川

大渡

高内二リ、玉生二リ、ふにう二リ、此所ニ
絹川アリ、舟渡しちん壺人まへ三十式文ニシテ
渡り、夫ヨリ八丁大渡一宿ス

大渡大野木幸藏

今市

日光

一廿五日大渡り出立、二リ、今市二リ
日光初市五丁、石ノ町着

日光山

松坂屋兵助泊り

日光山へ昼九ツ時ニ着仕、早速ニ

宿主案内ニて御山内諸末社ハ

不残見物仕候、夫ヨリ下り坊中不残ス

一見いたし、扱もく結構アリ

87

日光東照宮

一廿六日正六ツ時ニ御本社 御座敷
御三代正軍様御屋敷拝ス、已細左之

通りニ付印置申候

一御本社 ○御石ノ間 ○宮様御屋敷 ○公方様同

此両座敷之儀ハ天井ハ加羅ノ板ヘ天人ノほり物、

三ツあおひノほり物、戸ハ唐木ヲアツめ

テ、わし、たか、くシヤク、ほうおうなと之

ほり物

一八ツあしノツクヘ、此上ヘかゝりしハ唐糸錦ト言

一御前ノ御傍祈場ノ諸道くハ不残金ナリ

一天かひ三尺四方アリ、金ナリ、是ハか賀様より御寄進

一御尊前ノ両方ヘ立シ御戸黒ぬりナリ

菊ノ絵三国ノ金アツめカキシト言ナリ

一御尊前ノ御はしらうるしまきニシテ金まさへノ

雲こく形、結構成ルコトハ申もさらナリ

88

一御社廻り大テイノねりヘイ、金余物ニ、赤銅

ノかわらヘ金ヤキ付、ほり物ハ水鳥ナリ、

一唐御門唐木江惣ほり物、門向キノはしらハ

竹梅ニ登り下り龍、此分左甚五郎細工ナリ、

みねニくふう申テし、ノ様成ルケタ物アリ、

中段二龍一疋、是も左甚五郎細工ナリト言、

一むしくひ鐘、正月五日ならテハ、ツクコトならスト言

一朝せんノはすとうろ、高サ一丈、シヤク銅ナリ

一りうきうノまわしとうろ、高サ一丈計り

まわり壱間半、シヤク銅なり

一あらんたノつりとうろ、高サ九寸位ひ

シヤク銅ナリ

一飛こへノし、

一経堂アリ

一御宝蔵アリ

一御みこし蔵

其外拝見所数不覚、結構
ナルコトハ三国一ト申なり、
右之程拝見仕候へハ、御初尾
トシテ金百足出ル、又手引へ
百もんノ酒手を遣候

今八幡宮

一御三代正軍様今八幡宮ト申、

一御尊前十五間四面、御前ハゑん迄ハ行キ申候

座敷へハ相成不申、此内も御本社同前結構成ル

コト申もさらなり、

一御日天門、一御ヤシヤ門、一二王門

此御門金ノ金物ニ極さいしきなり

一タイこニかねノしゆるウアリ、両脇ニアリ

一石とうろハ、諸大名不残キ進ナリ

一手洗はち上屋金ノカナ物ニシテ、はしら石ナリ

其外此方も見物所数ス不覚、結構アリ

右之通拝見致スニハ、上下着用ならテハ

拝見相成不申、此分も金百足ノ御初尾入用

一そうめんノ瀧アリ

一朝五ツ時二御宮ヨリ下り、直様中禅寺へ

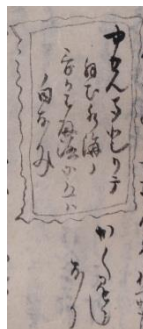
参詣ス、一リ半、うらみ瀧一見ス

一リ半、中禅寺男躰大権現へ拝ス、

観音仏拝ス、此分ハ坂東十八番ノ札所ナリ、

中せん寺登リテ
拝む水海ノ
歌かはま路に立ハ
白なみ

額
かく懸りしなり



中禅寺湖

歌ヶ浜

華嚴ノ瀧

追々下り、夜二入様々宿へかへル、

中禅寺へ案内ちん三百文なり、

蛇たいの橋 一蛇タイノはし朱ぬりニシテ、上下者イカキ

常人通路ならす、御公方様ならテハ渡ル

コト叶ス、此はしノイわれハ、むかし勝道上人

至テ此日光山へ御登り之節ニ、此川ニはし

なくテ、上人直様龍宮へキセイヲ申かけ

(91)

被遊候へハ、蛇壺正出テはしニ成り、上人

渡ラシ給言、其時蛇タイヲ上人もふ

みテ渡ルコト、あヤシミテあたりしニ、

其人出テ申様ハ、此蛇ハいつも出テはしニ

なりテ、人ヲ渡スト言けれハ、上人

一札申テ渡り給ふ、日光山御かひキハ此上人

なり、其人ハはし懸ケ長兵衛ト申なり、

今ニ、三人ふちニ五石頭キ罷居申候、はし懸ケ

かへノ節ハ渡り初いたし、七十ニ七拾俵

貰ひ候事なり

(92)

一御山ヨリ西ニ当テかんまんふち、こま堂

アリ、かんまんほろント申ほん字石ニアリ、

弘法大師ノなけ筆なり、其外

一廿七日、日光出立ニリ、今市ニリ

(93)

板橋廿八丁、文狭廿六丁、境ノ石

日光ヨリ
此所迄五リ
是迄日光領地也
カイ道左右大杉

黒川
鹿沼

一リ半、黒川此川土はしアリ、八丁鹿沼一宿

柳田清右衛門方へ泊り

一廿八日天気、鹿沼出立、半丁行上谷ト

言所ヨリイツル江之追分ケアリ、左へ入ルト

在郷道なり、二リ半栗野 三リ出流

粟野
尾撃寺

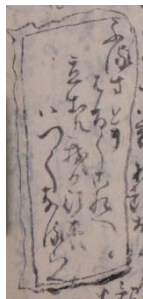
着ス、茶屋へ荷物を預ケ、尾撃寺江参詣ス、

尤麓ヨリ八丁登り、茶屋ヨリ切手ヲ取候て、

右寺へ持参いたし、案内出テ観音仏江拝ス、

観音
此観音ハ坂東十七番ノ札所なり、観音堂十四間四面

額
かゝ
内ニ
かゝり居ル
ふるさとヲ
はるくこれへ
立出ル我カ行末ハ
いつくなるらん



(94)

是ヨリ八丁計登り出ル、観音仏奥イン拝ス、

下ヨリ廿間位ろうかはしこニシテ上へ登り、かんくツ

深サ廿間、奥ニ観音仏、西ニ向テ立テ居被遊候

尤自ねん石なり、夫ヨリ下り又三丁計り

登り、石段ヲ十間計り登り、かんくツ壺丁計り

深サアリ、奥ノイン大日如来、西ニ向テ立居

被遊候、是も自ねん石ナリ、夫ヲ見物シテ

二丁計り下り、右手ニ金ノ鳥居アリ、是ヨリ

四十間計り誠ニ戸板ヲ登ル如く上り、そらニ

葛生

かんくツアリ、深サ忒丁、あなノ中至テ難所
ナリ、夫ヨリ下向シテ二リ半、**葛生**
夜通し此所へ着ス、宿扇屋忠藏泊

出流山役銭ひかへ

観音仏二大日如来両仏へハ 廿七文役銭
十式文とし代

(94)

弘法大師江ハ 百四十一文役銭
十七文とし代

勝道上人御カイキナリト言

岩船山

一廿九日葛生出立、雨天、三里八丁岩舟江

参詣、岩舟ハ山上ニミヤウシ東ニ向テアリ、

高勝寺

夫ヨリ追々ニ懸こしニシテ下リ、(高勝寺)香正寺江参向ス、

日本一地藏堂、八間四面、結構ナリ、○楼門

二王、夫ヨリ大仏アリ、坂ヲ下リ茶やアリ、

(佐野)

此所**野村**ト申、玉置や立寄、昼飯シタ、め候て

佐野村
仙台田村六兵衛

仙台ノ田村六兵衛□ニわかれ申候、久しく心安く

いたし、なこりおしく、なみたながらニわかれ申候、

夫ヨリ下リ直道ハ東武

(関川)

坂央ニ追分有、右ニ半道下レハ関側村、是より

(例幣使道)

例平使道也、又半道行、**天伏**一リ、**天明**一リ、

(藤原秀郷)

犬伏、天明ノ間右方山上ニ畠藤太秀郷古城有、

奈良淵山

(95)

寺岡

渡良瀬

梁田

(奈良淵山)

橋淵山ト言也、**寺岡**一リ、(渡良瀬)渡ル瀬川アリ、舟渡シ

(梁田)

柳田宿、坂戸屋友七泊リ

八木

大田

木崎

境柴

五料

玉村
倉賀野

高崎

絹

八丈編

越後道印木

榛名道

新波

室田

榛名山

一九月朔日柳田出立、三十丁**八木**

二リ八丁**大田**、一リ三十丁**木崎**、此間舟渡

三十丁**境**、一リ十丁**柴**、一リ**五料**

此間川アリ、舟渡シ御関所アリ、直通シ

(マ)

玉村、一リ**倉賀野**一宿ス

加賀屋金五泊リ

一二日晴天、倉かの出立、一リ半**高崎**

松平右京様御城下八千八百石也、

(秩父)

此所ちふ其外絹類出来、至テ下直也、

ちふ一疋代三部位事、上手分八丈嶋も

(編)

(96)

アリ、町中程より越後道下印木アリ、

夫江入りても町なり、通り過テ木戸アリ、

其元ヨリ左へ入ル、則榛名山道ナリ、

高崎ヨリ一リ半、**荒波**、此所在ノ宿ナリ

(新波)

三十丁**宝田**三リ**はん名山**着ス

此所坊商人共ニ凡家数百六拾軒計アリ、

町なみも宜く、坊不残宿家ナリ、

榛名山御師ハ朱御門なり 御宮江参詣シ、
道々ハ大石など
アリテ至テ絶景

一朱ぬりノはしアリ、是ヨリ一丁行

一唐金鳥井至テ宜く、二王門アリ、

朱ヌリ鳥井アリ

一又、朱ぬりノはしアリ
一矢手ニ大石見過ル、凡二丁計リニシテ
一ろう門アリ、此まへニ高サ三十間位ノ石アリ
又廿間位の石アリ
一三重塔○御神樂殿朱ぬり、結構

⑨7
一御殿拝ス、ほり物金ノがなく

其外結構ナルコト言もさらなり

御普請中ばナリ、御宮後ロハ高サ五十間位

誠ニはしらヲ立タル如くなル大石アリ、

此石ノ腰シアナアリ、此奥ニ大現権御居被遊候、
(ママ)

あなノ深サ十八丁、後ノ湖水へぬケテイルトノコトナリ

一諸堂六ヶ所アリ、不残結構ナリ

夫ヨリ半丁計リ後二つゝら石ト申テ

塔ノ立シ如くなり、是ヲ一見シテかへりニ、

矢手ノ山ノ最中ニ石橋アリ、風景

至テヨロシ、矢手ハ深キ瀧川ナリ、

いろく見物して宿へかへり

はんな山宿

谷本坊亦四郎方へ泊り

坊数百軒なり

麓ニ茶やアリ、夫ヨリ廿丁登リ、此所へ着ス

宮様御かゝへ 当山別当泉蔵坊ト申

榛名湖
榛名富士

一三日未明、十八丁登リ、山上ニ湖水アリ、
右手ニ富士山ト申テ不ニニタル高山アリ、
左方ハ大石イクラもアリ、其外小キ山
なとアリテ、至テ絶景なり

此所ヨリ子丑ニ当テ富士山見ゆル

其外山々皆雪ふり見事ナリ

榛名神社

夫ヨリ下リ、又大権現社参詣ス

是ヨリ谷本坊へかへり、明木山ト差テ

登出立行、榛名山ヨリ四リ

秋間
絹

あきま三間茶や、此所ニ絹出来

申候、絹はたハ格別常ノはたニ違ひハ

なし、打ひ至テ小く、○絹ノ糸ハまひヨリ

直き取、なへ入レ、ゆかき、わくへはしからまき

松井田

取候事、二リ半松枝出ル、本街道也

妙義山
妙義山権現

⑨8
此宿、家式千軒計アリト言、此町中ば
ヨリ西向テ五丁計行、川アリ、是ヨリ
廿五丁、妙義山ノ町へ着ス、入口ニ門アリ、
是ヨリ八丁計登、妙義山大権現

一二王門朱ぬり、そ木ふき、至テ大キ

一力ぢ門朱ぬり、まへハ力じ立居タリ

後ハすい人立居タリ

一大テイろうかツクリニシテ長サ凡廿間アリ

一御唐門ほり物至テヨロシク

一御殿金がなく至テヨロシ

一末社本社アリ、御殿両脇ニ

一かなとろろ、石とろろ余分アリ

一石タン、石かきも十間計リニシテ至テ宜

(10)

一御別当そ木ふきニシテ門ニケ所アリ、

此寺ノ石かき誠ニ城ノ如く至テ結

構ナリ、

白雲山高頭院石頭寺

(東叡山)

江戸東栄山ノ末寺ナリ、

御山石計、誠石山ナリ、此山へ登ルコト不叶

一町並もよろしく、買女アリ

此所名物、金情丹、ここらとろ

宿丁子屋政右衛門江

一四日天気、未明又妙儀山へ参詣ス、

夫ヨリ一リ三丁下、横川江出ル、是ヨリ

本道中十八丁、御関所少シ峠登リテ

江戸より之往来差出シ通ル、箱根

同様ニて御座候、半リ坂本宿、是元ヨリ

峠江かゝり、廿四丁登リはね石、此間ハ

(11)

坂クハシ難所なり、茶や五軒アリ、

山中 一リツマ先登山中、茶や十五軒計アリ、

此所ヨリカツサ・防州・下ツケ其外見ゆる、

至テ宜敷所ナリ、一リ半登リ詰

峠、此所上州・信州境観音堂也

夫ヨリ十八丁下リかる井沢、一リ五丁

くつ掛、一リ三丁追分、一宿ス

ともつや嘉右衛門方へ泊リ

あさま山ノ麓山ヤケル、登リ三リアリ、

くつかけ先キニて平野冷厳寺ノ小僧アウ、

一五日天気、未明追分出立、宿はつれより

右江入り、善光寺道中一リ三ツ家村、

左ハ伊勢道ナリ、

此所川ヲ、水流出ル、色黄、至テ

トクナリト言、浅間山より流出ル川ナリ、

(馬瀬口)

半リませ口、半リ平わら、半リ

四ツ家、半リ、此間松原アリ、至テ絶景地ナリ、

長サ八丁、ヨコ式丁、中ハカイ道、右手ニ

ツカイクラもあり、むかしシゆせん者

なとこニおひテ相果シト言、此松原過

レハ小むろ、二リ半たなかへ、二リ半上田御城下

柏屋彦市泊リ

一六日未明、上田出立、今日ハ風はけしく、

大石 石ノはな
一リ三十丁来リテ、大石アリ、遠見ならハ

大山の如く、則爰ヲ石ノはなト言ナリ、

六丁(坂城)ねすみ、一リ半(坂城)戸倉(坂城)

鼠坂城 戸倉・屋代 千曲川 舟渡 篠ノ井
一リ半(坂城)八しろ、廿丁ちくま川アリ、舟渡し廿式文、
十丁(篠ノ井)しのゝへ、此所追分京道・江戸道ト

三ツ追分 善光寺道ト三ツ追分ケ、此所ヨリ善光寺ヘト

丹波島 舟渡 差テ行、しのゝへヨリ一リ半(丹波島)たんは島、

此所川アリ、舟渡し壱人まへ三十六文、

夫ヨリ一リ十二丁善光寺参着ス、

一かなとろろ両脇アリ

一式ろろ門 〔二王門〕老かわらふき
此分キふき

一地蔵仏唐金大キ也

一六地藏仏唐金ナリ

一石とろろ・かなとろろ、イクラもアリ

一御本堂

そきふき

高サ 十丈二重屋根ナリ

表 十五間

入り 二十九間三尺

はしら百三十六本

建立ハ初ハ人王
三十六代皇極帝之
勅願ナリ

一脇坊四十七坊

善光寺ノ

大勧進ト申ナリ

一本坊壱ヶ寺、以上寺数四十八坊

本坊江ハ天下ヨリ御朱印千石

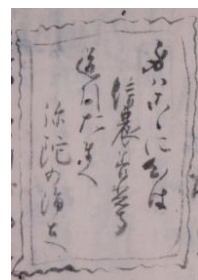
一御普請之儀ハ、御本坊ヨリト言

身ハこゝに心ハ

信農善光寺

道引たまへ

弥陀の浄土へ



善光寺魚町池田屋沖右衛門泊り

一七日未明、又善光寺江参詣仕り

御開帳拝し、和尚ノ念仏サツカリ

一(戒壇廻り)

夫ヨリ御廻段廻り、御納錢六文出ル、

御前ニて念仏しばらく申、是ヨリ

別当方へ参り、和尚ノ講釈を聞

又如来様江参詣ス、扱もく難有次第

なり、夫ヨリ又川を舟ニて渡り

追ケ迄三リ、夫ヨリ京道江入りテ、

一リ(稲荷山)いなり山

一宿土屋助右衛門泊り

一八日いなり山出立、一リ左江入り

在家アリ、是ニて姨失山江タスね来り

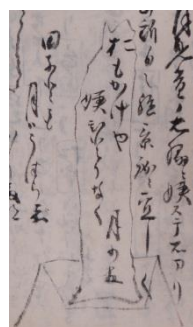
庵アリ、其上二月見堂アリ、

東二当テキヨウ台山 (鏡台山) 此山ノ間ヨリ
月出ルナリ

田毎の月
千曲川
更級川
寅二当、田ことノ月、ちくま川見越
麓二流し川さらしな川ト言

姨捨石
丑二当テ善光寺遠見ナリ、
月見堂ノ右脇ニ姨ステ石アリ、
此所より之絶景誠ニ宜しく

おもかけや
姨ひとりなく
月の友

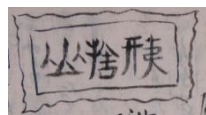


田こと二も月ハうつらじかりた跡

姨捨山

池菴玄龍書

長楽寺



さらしの郡米相場ハ

百文ニ式升三合ト申候、

此所ヨリ追々ニ山ヲ登り詰ニ松林アリ、

夫ヨリ右江通り一リ半下レハ

おみ宿出ル、一リ十丁青柳、一リ中峠小坂アリ

夫ヨリたち峠登十八丁、下リ三十丁

会田、一宿ス、間屋善左衛門泊り

一 九日天気、未明出立、一リ十丁

かり屋原、是ヨリあた坂かゝり登り

岡田
松本
廿丁、下り一リ十丁、至テ難所ナリ、
一リ岡田、一リ松本、御城下、松平丹波守六千石

村井郷原
桔梗ヶ原古
此所ニおひテ節句ノ悦ビニ酒かりテ呑出立
一リ半村井、一リ半こう原、此間ニ
き京ノ原、カイン信源・越後ノ賢信ト

洗馬
是ヲ通り一リ十三丁せんば

本山
一十日未明出立、せんばヲ三十丁元山

龍肝
二リに多山一宿ス、藤屋儀右衛門
此所家並熊タンおしうり仕所ニ付
必買得無用、皆にせ物ニテ御座候

着類や其外何ニてもかへ呉候様申候故、
必々買得無用之事

贅川名主地村
右間治
に多川名主地村右間治ト申也

道引人 甲州屋紋治殿

世話人 戎屋嘉右衛門殿

十一日天気、出立

一リ十丁ならい、此間鳥井峠登二リ

下り十八丁屋ふ原、此間今井甚口屋敷

宮ノ越
木曽義祐城跡
一リ卅丁宮野こし、此間木僧儀中城跡アリ

鳥居
左手ニ松しげり戸アリ、一リ廿八丁

木曾福島
關所

福嶋、御領入口ニ御關所アリ、六ツ
時キリ御門ベリ候事、御關所御預リ
トシテ此地江御出張山村甚兵衛様御領
七千五百石なり

宿 こま屋半之允

一十二日未明福嶋出立、二リ半、此間二

木曾ノかけはしアリ、そばニはせうツカアリ
(上松)
(寢覺村)

あけ松此宿下ニ寢さめ村ト申所ニ寢さめ
(寢)
(浦嶋太郎キウセキアリ、

木曾の棧
芭蕉塚
上松
寢覺村
寢覺めの床
浦嶋太郎旧跡
臨川寺
小野の瀧

須原
野尻
三留野村

小野の瀧

りんせん寺後ニアリ、誠ニ絶景ナリ、
(舟)
(舟)
半リ小野村 此所ニ小の瀧ト申テ茶やノ

⑩ 向ニ見ヘタリ、すはら一リ半
(須原)
(ミトノ)
(三留野)

須原
野尻
三留野村

野尻、二リ半三留泊 林や九左衛門

一十三日晴天未明ミトノ出立、一リ半
(妻籠)
(馬籠)

ツマコ、此所ニ檜改番所アリ、二リマコメ
(連理)
(根建)

妻籠
檜改番所
馬籠
連理の松
落合
中津川
根津甚平塚
大井

おち合、二リ中津川、此間ねつ甚平ツカアリ、
(落合)
(根建)

妻籠
檜改番所
馬籠
連理の松
落合
中津川
根津甚平塚
大井

二リ大井泊り はし本屋佐兵衛

一十四日曇天、大井未明出立、一リ半行ハ

西行法師旧跡

右手の山上ニ西行法師キウセキアリ、
(天湫)

大湫
土峠
細久手
御嵩

二リ大湫、此間十二峠アリ、至テ難所ナリ、
(御久手)
(御嵩)
壱リほそくて、三リみたけ、此間ニおんの

おんの大寺
旧跡
太田
太田の渡し

大寺ノ跡アリ、薬師如来也、二リ大田
此宿まへニ太田ノ渡し大川アリ、舟渡し

⑪ カツスイニ付ちん壺人まへ十六文、三丁行テ
(湯水)

宿アリ、泊り磯谷所左衛門方

一十五日未明出立、一リ半行、いぬ山城
(天山城)
(鵜沼)

左方ニ見ゆる、夫ヨリ半道うめま、四リ八丁
(加納)
(繪)

かのふ、此所ニ家別絹出来、りんす其外
(加納)
(繪)

此宿尻ヨリ追分アリ、右江入半道行岐皇
(加納)
(繪)

岐草
稲葉山
織田家古城
旧跡
長良川

出ル、町見物、右ニいな葉山并山ツ、キニ小田家
(稲葉山)
(長良川)

古城旧跡アリ、町尻ヨリ北二入、なから川アリ
(長良川)
(此間川アリ舟渡し)

阿弥陀寺村
山口村

舟渡し、夫ヨリ二リ、阿弥陀寺村江出ル、夫ヨリ
(此間川アリ舟渡し)

二リ山口村、泊り百姓や也、甚五郎方へ
(長瀬川)

長瀬川渡し
華嚴寺

一十六日天気、山口村ヲ未明出立、一リ行、
(長瀬川)
なかせ川舟渡しちん三文、一リ行、谷汲山

白石村

川渡し

赤坂

熊坂松
照手姫の清泉

一十七日雨天、赤坂出立、八丁行、熊坂松、
(照手姫)
左方へ八丁入込、〇てる手ノ清水アリ

垂井
青墓村

一リ十三丁たるい、此宿尻ニ大はか村ト言
(垂井)
(義朝)
所アリ○義平公○義友公○朝長公三人ノ

義経

はかアリ、是ニヨツテ大はか村ト言ナリ、
はかノそばニよし立シケリ、此よしハ義恒
公御歌ヲアンばし此よしへはさみ立被置

御歌ニ

さしおくもかたみと

なれや末の代に

源氏さかへてよし竹と成ル

此竹ニなりよしカイト為守ス

諸人尊之なり

関ヶ原
不破の関

(113)

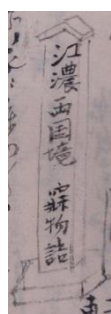
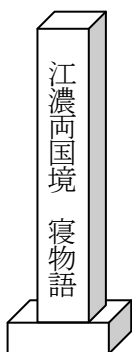
一リ半関ヶ原、此宿ニふわのセキアリ、

石塔ナリ、一リいます、二丁行峠アリ

今須
車留の坂

車留ノ坂ト言

寝物語縁起



此所ノ家ニ寝物かたりノ縁起アリ、売之テ

諸人為土産ス、一リ相原、艾ノ名物ナリ、

伊吹山
イふき山ニリ八丁登り左手ニ見ゆる、

醒井
日本武尊腰

一リ半さめがい、日本武尊御こしかけ石アリ、

掛石
日本一の石

日本一ノ石とうろアリ、地藏堂アリ、

燈籠
地藏堂

石川日向守建立ナリ、此所ヨリ冷水わき

番場
摺針峠

出ル、至テ絶景地ナリ、一リばんば、此宿

摺針峠

ヨリ凡四、五丁計り行きすりは峠

茶屋

琵琶湖

鳥居本

此峠ノ登話茶や二軒アリ、此所ヨリ
湖水よく見ゆる、至テ絶景ナリ、
左一丁計り下り、とり元へ一宿ス

(114)

銭屋繁右衛門泊り

一十八日とり元未明出立、宿中はヨリ

右へ入り半道行、切通し峠アリ、

夫ヨリ下り彦根御城下一見ス、

彦根城下
宝童子弁財
天女社

湖水ながめ、夫ヨリ宝童子弁財天女

御社参詣ス、湖水ヲ見越、北二当テ

平野山

平野ノ山見ゆる、夫ヨリかへり二リ、

高宮

後道行高みへ出ル、此所ニ多賀社

多賀社鳥居

アリ、石ニてありシ日本一言、是ヨリ

多賀社

三十丁東江入込多賀社へ参詣ス、

愛知川

頃日御普請中間ナリ、かへり二リ半

武佐

あち山、二リ半むさ泊り

花屋伊兵衛泊り

(115)

一十九日天気未明出立、むさヨリ

守山
鏡山
三上山

三リ半もり山、此間かゝみ山・みかみ山

草津

見ゆる、一リ半くさつ、一リ半

瀬田の橋

せたノはし、手まへより舟かり

石山寺

石山寺へ参詣ス、夫ヨリ二リ

京
天津

天津、三リ京、越後や方へ着

〔判読不能〕

江戸新ばし八かん丁^(八官町)

き戸様ノ丁ちんや 幸十郎

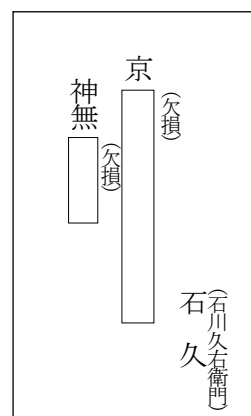
此方ハ

御城下□町^(肴カ)

仙台ノ田村六兵衛

(終)

(表紙)



京都

京洛中洛外見物

九月十九日、京着ス

神社仏閣

御能
芝居
青楼

一東福寺

一通天もみじ

一東寺

一羅生門

一大白山^(抹茶)
案内

一大仏焼跡

一両御堂

一清水観音

一祇園社

一ようかん堂^(永観堂)

一なん善寺^(南禅寺)

一百万へん^(百万遍)

一ちおん院^(知恩院)

一あたこ社^(愛宕社)

山上より丹後亀山城下見ル

一真如堂^(金蓮院)

一吉田并吉田山

一正後院^(金蓮院)

一黒谷・六角堂

一野々宮

一六原・北野天神^(六波羅)

一 錦ノ天神
一 若宮・賀茂
一 伏見(禊)いなり
一 蛸薬師・清願寺(禊)
一 仏香寺(仏光寺)
一 西大谷・東大谷

121

大和廻り覚

十月十日京出立、三リ宇治はし

京都出発
宇治
はし寺
一見遠見二南二当テ、はし寺拝ス、
平等院参詣ス、頼政、扇シは(宇治)

ニテ、はら切給ふ所アリ、夫ヨ寺ノ後より
通りぬけ三十丁新田、一リ長池

新田
長池
玉水
一リ半玉水、一宿、富田や小八泊

一十一日未明出立、玉井寺参詣ス、夫ヨリ

玉井寺
十一山
山吹の里
井手の玉川
東二当テ十丁山江入込、山ふきノ里アリ、
是ヨリ六丁、宿はつれニイテノ玉川アリ、

二リ木津川、舟渡しちん十二文宛

木津川
舟渡
木津
太和山城圍境
木津、此所大和・山城ノ国境ナリ、一リ半

122

奈良、名所不残見物ス、夫ヨリ一リ

奈良
西大寺参詣ス、管原天神御誕生ノ地ナリト言
蓬萊山(蓬萊山)

宝来山、此山亀ノカタチニシテ廻り池ナリ、

唐招提寺
尤十丁余廻りアリ、正大寺へ参詣ス、
薬師寺御普請半ば、八丁郡山

郡山

此所十五千石御城下ナリ、松平甲斐守

大黒屋伊右衛門泊り

法隆寺
竜田神社
一十二日天氣未明出立、五十丁法龍寺(法隆寺)
参詣ス、諸堂多し、十五丁瀧田(瀧田)

竜田川
紅葉
正一位大明神参詣ス、五丁南二当テ
瀧田川アリ、もみしも今ハ色めキテ、

誠ニ錦ノ中たへぬ計りなり、

是ヨリ川土手を南へ下り凡二リ

123

中将姫の糸懸柳并ニ染井アリ、

中将庵アリ、此庵ニテ略縁儀出ル、夫ヨリ
八丁当磨寺へ参ス、至テ大地ナリ、
本堂ハはす糸の御満たら百廿文
ニテ開帳、中将姫ノ木(木像)そう拝シ、御はた
の間を一見ス、是ニ御丈一文計の観音
仏、何の作とも相分り不申、其外
いろく拝見シテ、一リ三丁行

当麻寺

高田、一宿ス □甚方へ泊り

此所買女アリ、トマリ 五匁
芸子壱本 式刃

高田

八木
一十三日天氣未明出立、一リ八本
十八丁石原田村、此所三正徳太子ノ
馬留ノ石アリ、大石ノ上へ小キ石重り、

石原田村
聖徳太子馬
留石

八木

此石天ヨリふりしト言、夫ニヨツテ

聖徳太子馬
留石

124

此所十五千石御城下ナリ、松平甲斐守

大神神社

石原田村ト名附ルナリ、是ヨリ
□リ三輪^(大神神社)大明神へ参詣ス、麓ニ若宮

アリ、御師式拾式人アリ言、別当

式拾石ふちかた、御社甚以シセウナリ、^(扶持方)

御社ノ左ノ方よりはせ道^(長谷道)アリ、一リ

はせ観音仏、西国八番札所ナリ、至テ

大地^(天寺)、坊なとも多し、是ヨリ又一リ

しおんじ村迄戻し、弓手ニ当^(多武峰)ノミみね

道アリ、さくらい江出ル、此町中半ヨリ^(桜井)

安部ノ文殊道、凡廿五六丁山を登リ、^(安億)

安部文殊江参詣ス、麓江泊リ、

きし田屋長治郎

向ニ当テ金剛山・桂木山見ゆる、^(葛城山)

125

一十四日天氣未明出立、五十丁追々

多武峰社

欄干の橋

山江登リ当ノみね江参詣ス、麓ニ
宿屋^(マヤ)茶多し、らんかんノはしアリ、

夫ヨリ社内江入込惣門アリ、左右共ニ

高石かき至テ結構ナリ、御本社

大將軍かまたり公、御普請至テ^(鎌足)

結構ナリ、御廟五間四面、十三重ノ塔

其外諸堂多し、御社ノ右方ニ

安羅城ト言^(菴羅樹)

菴羅樹

唐木

大黒堂

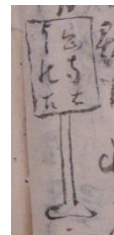
唐木アリ、此み至^(寒)テせん^(庭)・しやくニ用ハ
治スルコト妙ナリ、大^(大黒堂)こく堂左右ニ
天^(天宮)天^(天宮)天^(天宮)しく江^(江)ツヘニツキテ

行キシ竹アリ、西ノ方ヘ山越ニシテ

よし野ノ里江尋行、当ノみね後ニ

物出ルト追分、

印アリ



126

右ヘ取、岡寺ヘ五十丁、夫ヨリタチ花寺^(橘寺)

参詣ス、聖徳太子御誕生ノ地ナリ、^(聖徳太子)

此地むかしハ七堂くわらんノ跡アリ、^(伽藍)

タチ花寺ノ内ニ、うこん^(右近)の立花アリ、

外ノ田ノ中ニ、さ^(左近)こんの桜アリ、

三光石石灯籠
瑠璃石

三光石8石とろうろ、めのう石ト言、是則石^(灯籠)

トウロノ初りなり、夫ヨリニリ

高取城下上村
壺坂寺

高取御城下上村、スルカノ守様山上ニ御城^(驛河)

アリ、至テ絶景ナリ、半リ壺坂寺

参詣ス、三重塔アリ、夫ヨリ少シ下リ

左ヘ行、山道登リ下リ凡二里ヘ出ル

土田村^(土田村)一宿ス なへ屋平七泊リ

土田村

吉野川船渡 一十五日天氣未明出立、半リ吉野川

六田 舟渡し、東ニ当テいも山ヲ遠見ス、式丁(六田カ)むさ

127

此所ヨリ追々ニ登リ、人家はつれヨリ

並木ハ皆さくらナリ、至而絶景ナリ、

むさヨリ凡十丁計行、一ノ行場アリ、

六丈山ト申、夫ヨリ八丁計行、二ノ行場

アリ、是ヨリ吉野ノ里ナリ、十丁計行

一目千本ノ桜一見ス、こゝならんかん付

はしアリ、此はしハ慶長九秀頼(豊后秀頼)

公御建立ナリ、夫ヨリ町アリ、関ヤ丁(関屋町)

ト申ナリ、山も野も何も桜計ナリ、

夫ヨリ山上ノ一ノ鳥井(鳥居)、唐金高サ式丈五尺、

まわり式丈式尺、正武貞御建立ナリ、(聖武帝)

吉野山本堂藏王権現、高サ十一丈式尺

十八間四面、楼門諸堂多し、

藏王権現

一の鳥居

関屋町

欄干付き橋

吉野

一の行場

六丈山

桜並木

吉水院

竹林院桜

吉野二郎旧跡

128

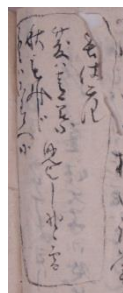
(義経)

一吉水院義恒キウセキアリ、本尊ハ

正武貞様也、8竹林院桜一見ス、

一其外道々ニ神社仏閣多シ、8吉野二郎

春は花
夏ハ青葉
秋もみじ
冬ハこすへに
みよし野々雪



子守明神

(旧跡) (子守明神)
明跡アリ、8小盛大明神、楼門御社ニ至迄
結構ナリ、是ヨリ十八丁登リ

青野嶽

8青野嶽江参詣ス、8切祓ノ堂拝ス、
むかしハ三重ニテアリシヲ、二重を以

青野権現ノ御社建立シ、今ハ一重

二の鳥居

アリ、至テ古跡ナリ、二ノ鳥井之
大日寺江立寄、昼飯シタ、ニ主人(ママ)

至テ深切ニ被成下、一札を申テ(親切)

立かへル、是ヨリ山上へ五リアト言

奥の院

又奥いん江二丁登リ、御社アリ金剛王(金剛藏王)

大権現、左ハ役者母子、右役者六十才之
御スカタ、此所より奥江ハ山留ニテ行

129

コト不叶、夫ヨリ又本ノ道江かへリ、(元)

千本桜ノ中半ヨリ右え取、凡半

道出ル、吉野川此川カチ渡リ、上市へ

吉野川步行渡

上リ、夫ヨリ一リ土田村、五十丁上阿田

土田村

阿田

着ス、東屋甚蔵泊リ

五条町

一十六日曇天未明出立、此間五條町言所アリ、二リ畠田村

畠田村

此間はしアリ、此所大和・紀州ノ境

大和・紀伊国

ナリ、後ニハ間土村ト言紀州

大渡村

ノ国ナリ、夫ヨリ一リ半大渡り村出ル

吉野川下船渡

此所吉野川下舟渡し、夫ヨリ

家文路

一リかむろ
此境ヨリ高野山ナリ
此所山坂登り、至難所

神谷

三リ神谷一宿ス

伊勢屋伴五郎

高野山

一十七日天気未明出立、二リ高野山へ

参詣ス、誠ニ難有仏力ナリ、

一木^(木喰)シキ和尚念仏サツカリ、十式文初尾

八七堂くわらんふし拝ミ

八国主ノ御玉居江参向ス、天樹院
御宿坊

夫ヨリ二リ下り、神谷ヨリ

左へ入り二リ半、持尊院へ参詣ス、

是ヨリ半道かむろ一宿ス

家文路

万屋長右衛門

一十八日天気未明出立、山坂登

下り十リ半、^(塚)境着ス

堺

さつまや卯兵衛

妙国寺

一十九日未明出立、妙国寺参詣

住吉大社

そテツ一見、夫ヨリすみよし社

大王寺

参詣ス、是ヨリ大王寺参詣ス、

康申

こやしん参詣ス、大坂出テ

坂田屋小七方へ泊り

夕船
京都

夫ヨリ夕舟ニて京都へ登り、

一廿日、未明ニ越後屋方へ着ス、

丸山

一廿一日・廿二日、丸山へ行

夜船
大坂

一廿三日夜舟ニて、大坂江下り、
^(マ)廿四日

一十四日逗留、大坂中見物

大坂出船

十一月六日大坂出船、門屋伊蔵殿、

豫伽大境

舟ニて九日ゆが様参詣ス、

多度津

十日、讃州ノたとつへかり
^(金比羅)

金比羅参詣

金ひら様江参詣ス、タトツヨリ

善通寺

善通寺参詣ス、

弥谷寺

三リ十八丁、十一日も此所逗留
^(弥谷寺)

十二日、日イヤ谷江参詣□て
^(串)

風あしく二付、此所ニて滞留仕

手とうかくして風あしく、

誠ニ命あやうし所ニ、諸神仏

御かけニて、様々と跡へもとし

白石島カ

白石へかへ申し候、十四日も此所ニて

滞留

十四日、舟ヲ出し候所ニ、又風あしく

鴻之谷

ここの台江かり、又十六日

此所ニて滞留

十五日、順風宜下りニ相成、凡

三原	式十リ計はしり三原
青木	江かゝり、此所ヨリ青木ト申
竹原	所ヨリ、舟ヨリあかり、山越
	ニシテ三原竹原江着ス、はりまや
	ト申へ一宿ス
瀬	十六日、竹原ヲ出立、瀬のへ
広島	山ヲこへ様々広島へ着ス、
	夜ニ入すしや行、一寸休憩
	いたし、九ツ時ヨリ舟かり
小方	小方へ渡り、此所ニて一宿ス、
今市	一十七日、小方ヲ出立して
	今市へ一宿ス、
三田尻	一十八日、三田尻へ、住吉やへ
	一宿ス、
山口	十九日三田尻ヲ出立して、
山口	山口へ無難ニ帰宿仕候

十月十日	別二画二分ノ外
三十三文	富田や小八
一貳朱	ならニて小玉へ切かへ
一貳朱	郡山ニて宿払
十二日	
一貳朱	あ部ノ宿ニて
十五日	
一貳朱	あたニてうり
十六日	
一貳朱	高野ニていせや伴五郎
一十七日	
一貳朱	かちら万
十八日	
一貳朱	境ニて
一三分貳朱	